

れいわ ねんど  
令和7年度

かながわけんとうじしやめせん しょうがいふくしすいしんじょうれい い しゃかい めざ  
「神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例～ともに生きる社会を目指して

もと きほんけいかく けっか  
～に基づく基本計画」アンケート結果

れいわ ねん がつ  
令和7年9月

かながわけんふくしこ きょくふくしぶしょうがいふくしか  
神奈川県福祉子どもみらい局福祉部障害福祉課

「神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例～ともに生きる社会を目指して～に基づく基本計画」に関するアンケート調査の結果について

## 1 アンケート調査の目的

「神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例～ともに生きる社会を目指して～に基づく基本計画」の計画達成度を測る基礎資料とするため、障害当事者、家族、支援者等から幅広く評価を得ること及び意見を把握することを目的とする。

## 2 実施方法

(1) 調査対象 当事者、家族、家族会等団体、支援者、事業者等

(2) 調査実施方法

インターネット) 県電子システム (e-kanagawa) を利用

郵送) 相談があった場合に質問紙を希望枚数送付、ファックスで回答を依頼。郵送で返信する場合は回答者負担とする。

(3) 調査期間

令和7年7月4日(金曜日)から9月1日(月曜日)

(4) 調査対象者

市町村自立支援協議会、障害者施策審議会、障害当事者部会、障害児者施設、当事者団体等関係団体(271か所)のうち調査協力が得られる団体

## 3 調査結果の概要

調査期間	7月4日～9月1日	回答数284	インターネット232、それ以外52
------	-----------	--------	-------------------

ご記入いただくのはどなたですか。

回答	本人	本人の代筆者	家族	支援者
回答数	61	20	100	103

主な障がい等の種類を教えてください。

回答	身体障害	知的障害	精神障害	発達障害	難病	重症心身障害	高次脳機能障害
回答数	37	111	63	31	5	14	4

問1 障がいのある人が身近で普通に生活しているのが当たり前だという考え方について  
 どう思いますか。

かいとう 回答	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない
かいとうすう 回答数	210	59	12	3

問2 障がいのある人は、日ごろの生活の中で、困りごとや不自由さを感じていると思  
 いますか。

かいとう 回答	かん 感じていると おも 思う	どちらかとい えかん ば感じてい るとおも 思う	どちらかとい えかん ば感じてい ないとおも 思う	かん 感じていない とおも 思う	わ 分からない
かいとうすう 回答数	195	54	13	10	11

○自由意見を記入した方

かいとう 回答	ほんにん 本人	かぞく 家族	しえんしゃ 支援者
かいとうすう 回答数	86	71	84

#### 4 提出された回答の概要

問1 障害のある人が身近で普通に生活をしているのが当たり前だという考え方についてどう思いますか。

	せんたくし 選択肢	かいとうすう 回答数
1	そう思う	210
2	どちらかといえばそう思う	59
3	どちらかといえばそう思わない	12
4	そう思わない	3

※理由は6ページから

問2 障がいのある人は、日ごろの生活の中で、困りごとや不自由さを感じていると思いますか。

設問の補足) 「困ったり不自由を感じている」の例

障がいを理由に、「病院で診療を断られる」、「契約を断られ、引越しができない」、「避難場所等で我慢した」、「ヘルパーが足りず、自宅で生活できない」、「日々、何かにつまずき、うまく生活できない」など。

	せんたくし 選択肢	かいとうすう 回答数
1	かん 感じていると思う	195
2	かん どちらかといえば感じていると思う	54
3	かん どちらかといえば感じていないと思う	13
4	かん 感じていないと思う	10
5	わからない	11

※理由は33ページから

はしらばんごう じゅういけん けんすう けいさい けんすう  
 柱番号ごとの自由意見の件数(掲載している件数)

がいとう 該当ページ	はしらばんごう 柱番号	はしら 柱	けんすう 件数
71	I 1(1)	けんりようご すいしん ぎゃくたい ぼうし 権利擁護の推進、虐待の防止	2
72	I 1(2)	しょうがい りゆう さべつ かいしょう 障害を理由とする差別の解消	3
73	I 1(3)	い し けつていしえん すいしん 意思決定支援の推進	5
74	I 2(1)	しょうがいふくし さき じんざい かくほ いくせい 障害福祉を支える人材の確保・育成	21
78	I 2(2)	ほけん いりよう さき じんざい かくほ いくせい 保健・医療を支える人材の確保・育成	1
79	II 3(1)	そうだんしえんたいせい こうちく 相談支援体制の構築	27
83	II 3(2)	ちいきせいかついかうしえんとう じゅうじつ 地域生活移行支援等の充実	23
86	II 4(1)	しょうがいふくし サービス 等 せいび じゅうじつ しつ こうじょう 障害福祉サービス等の整備・充実と、質の向上	73
95	II 4(2)	ちいき しえんたいせい せいび 地域における支援体制の整備	7
97	II 4(3)	ほけん いりようしさく すいしん 保健・医療施策の推進	1
98	II 4(4)	しょうがい こ しょうしえん じゅうじつ 障害のある子どもへの支援の充実	3
99	II 4(5)	しょうがいとうじしゃ かぞくとう しえん じゅうじつ 障害当事者やその家族等への支援の充実	8
101	II 4(6)	しえんしゃ む とりく すいしん 支援者に向けた取組みの推進	0
102	III 5(1)	だれ す すいしん 誰もが住みやすいまちづくりの推進	4
103	III 5(2)	い し そつうしえん じゅうじつ 意思疎通支援の充実	0
103	III 5(3)	じょうほう りべんせい こうじょう 情報のアクセシビリティ(利便性)の向上	4
104	III 5(4)	とうせんたんぎじゆつ かつよう しえん じゅうじつ デジタル等先端技術を活用した支援の充実	0
104	III 5(5)	ぼうさいおよ さいがいはっせいじ たいせいせいび 防災及び災害発生時の体制整備	3

105	Ⅲ5(6)	はんざいひがい しょうひしや 犯罪被害や消費者トラブルの防止と被害者支援の じゅうじつ 充実	0
106	Ⅲ6(1)	しゅうろうしえん じゅうじつ 就労支援の充実	5
107	Ⅲ6(2)	しょうがいしやこよう そくしん 障害者雇用の促進	3
108	Ⅳ7(1)	とうじしやめせん しょうがいふくし りねん ふきゅうけいはつ 当事者目線の障害福祉の理念の普及啓発	4
109	Ⅳ7(2)	しょうがい りかい さべつかいしょう そくしん 障害の理解と差別解消の促進	9
112	Ⅳ7(3)	しょうがいしやしゅたい かつどうとう そくしん 障害者主体の活動等の促進	0
112	Ⅳ8(1)	きょういくかんきょう せいび 教育環境の整備	1
113	Ⅳ8(2)	インクルーシブ <sup>きょういく</sup> 教育 <sup>すいしん</sup> の推進	3
114	Ⅳ9(1)	ぶんかげいじゅつおよ よ かつどうとう とりく すいしん 文化芸術及び余暇活動等の取組みの推進	2
114	Ⅳ9(2)	スポーツ <sup>かつどうとう</sup> 活動 <sup>とりく</sup> 等の取組み <sup>すいしん</sup> の推進	0
115	その他 <sup>た</sup>		7
		ごうけい 合計	219

問1 障がいのある人が身近で普通に生活しているのが当たり前だという考え方について  
 どう思いますか。(理由の記述)

	きゆうしゃ 記入者	おも 主な障がい など しゆるい 等の種類	せんたくし 選択肢	りゆうとう 理由等
1	かぞく 家族	こうじのうきのう 高次脳機能 しょうがい 障害	そう 思う	しょうがい 障 害のある人も、基本的な人権として、社会の いちいん 一員として生活していくのが当然だと思っ ています。
2	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障害	そう 思う	ほんにん ご本人 そう思うと返答された。自宅での生活 をしていきたいかとの問いかけには、たまに はいいと返答された。
3	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	どちらかとい えば そう 思わ ない	あまり身近で障害者に対して関心や興味を 持つ人が少ない。
4	かぞく 家族	しんたいしょうがい 身体障害	そう 思う	「そう 思わない」の考え方が全く想像でき ない。障 害のある人は身近で普通に生活す ることが当たり前とは思えないということ なのか？このような項目を作って、何をあぶ りだしたいのかも分からない。
5	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	そう 思う	みんな同じ人間なので。
6	ほんにん 本人	せいしんしょうがい 精神障害	どちらかとい えば そう 思う	普通に生活するということは障 害によって 考え方が違ってくると思う。そもそも普通 って何だろう??
7	だいひつしゃ 代筆者	しんたいしょうがい 身体障害	そう 思う	いつでも障 害を負う可能性はあるので。
8	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	そう 思う	私自身も家族に障 害者がいること、職場や 地域にも障 害を抱えている方はたくさんい るので。皆さん生活している。
9	しえんしゃ 支援者	せいしんしょうがい 精神障害	どちらかとい えば そう 思う	まだ不十分ではあるが、社会全体の障 がい への理解が高まり制度を利用しやすくなっ てきたこと。相談窓口の案内の掲示など明確 になり、相談しやすくなったこと。医療機関

				<p>も受診しやすくなったこと。公共の施設のバリアフリー化、民間企業においても出入口がバリアフリーになっているなど、当たり前前に生活できる世の中になってきていると思います。</p>
10	家族	知的障害	どちらかとい えばそう思う	<p>色々な事情を抱えている方がいるが、どんな方も同じ社会で平等に普通の生活が出来るというと思うが、その場合、まず、お互いに関心を持ち、知る必要があるのではないかな。そこが意外にハードルが高いかな…。</p>
11	支援者	知的障害	どちらかとい えばそう思う	<p>障がいのある方がいる世界は特別ではなくなっていており、地域で生活している場面を見かける機会が増えていることを実感しています。</p>
12	代筆者	精神障害	そう思う	<p>生活するのが当たり前だから。</p>
13	家族	知的障害	そう思う	<p>障がいのある人もない人も互いに理解し支えながら、誰にとっても生活しやすい環境をつくることを目指す社会になってほしい。</p>
14	支援者	知的障害	どちらかとい えばそう思う	<p>以前に比べ街中に障害をお持ちの方がいるのを見ることが増えたから。</p>
15	支援者	知的障害	どちらかとい えばそう思う	<p>障害のある人が身近で普通に生活を営むことは、障害の有無に関わらず誰もが共にいきいきと活動できる社会を目指す上でとても重要だと思います。障害を個人の問題と捉えるのではなく、社会側が壁を取り除き、障害のある人がその能力を発揮して主体的に生活を送れるように支援することが重要だと思います。</p>
16	支援者	高次脳機能 障害	どちらかとい えばそう思う	<p>障害があってもそれぞれの生活があるため。</p>

17	かぞく 家族	しんたいしょうがい 身体障害	どちらかとい えばそう思う	う 産まれた時から障害を持った我が子と暮ら し同じく障害を持つ仲間や家族等に囲まれ て生活していた為偏見を持たずに考えられ る。一般に言われる健全者でもやがて何か しらの障害や不調を持ちながら生きていく ことに早いか遅いか何時なのかこの事に早 く気付けた人程障害のある者に対して偏見 を無くそうと努力してくれている。
18	かぞく 家族	せいしんしょうがい 精神障害	そう思う	しょうがい 障害のある人が周りで生活している事は ふつう 普通だ。
19	しえんしゃ 支援者	なんびょう 難病	そう思う	にほん 日本の人権を考えればふつうにくらすのに りゆう 理由は必要ない。先入観のない子どもは、 ふだんどお 普段通り接することができる。
20	しえんしゃ 支援者	その他	そう思う	しょうがい 障害の状態はグラデーションであり、変動 も起こりうるものなので、単純にある・なし で判断できるものではないため。
21	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障害	そう思う	しょう 障がいはいくまでも個の個性という考え 方です。障がいの有無に関わらず、地域社会 で共に生きていることに変わりありません。
22	しえんしゃ 支援者	こうじのうきのう 高次脳機能 しょうがい 障害	そう思う	こうきょう 公共の福祉に反していなければ、障害者の 有無に関わらず人の持つ基本的な権利であ るため。お互いに尊重、理解し合いながら 共生できる形が見つけられると良いと思 います。
23	しえんしゃ 支援者	じゅうしょうしんしん 重症心身 しょうがい 障害	そう思う	しょうがい 障害があっても、生活の基盤を整え自立を 目指すことは、その人の人生において大事な ことだと思うから。
24	しえんしゃ 支援者	こうじのうきのう 高次脳機能 しょうがい 障害	そう思う	えき 駅などで必ず見かけるから。
25	しえんしゃ 支援者	じゅうしょうしんしん 重症心身	どちらかとい	しえんしゃ 支援者の視点からすればそう思うが、

		しょうがい 障害	えばそう思う <sup>おも</sup>	きゃっかんてき ほんだん ふつう い がた 客観的に判断すると普通とは言い難い。
26	ほんにん 本人	なんびょう 難病	そう思う <sup>おも</sup>	しょうがい しゃ ひとり にんげん そんげん 障がい者も一人の人間としてその尊厳と かち ゆるぎなく たつと 貴ばれるべきであり、生 きる権利を持っているものであるから。地域 しゃかい せいかつしゃ びょうどう あつか 社会の生活者として平等に扱われるべき であるから。
27	ほんにん 本人	なんびょう 難病	そう思う <sup>おも</sup>	しよくば わたし みみ き ひと しゃべ 職場でも私をはじめ耳が聞こえない人、喋 れない人、くるまいす ひと つえ つか ひと もうどうけん 車椅子の人、杖を使う人、盲導犬 をりよう ひと たちが けつ おお 利用する人たちが決して多くはありませ んでしたが、けんじょうしゃ 健全者と一緒になって仕事を していました。たす あ にちじょうせいかつ 助け合うことが日常生活の いちぶ 一部でした。
28	ほんにん 本人	なんびょう 難病	そう思う <sup>おも</sup>	しょうがい う む ちいき ふつう 障害の有無にかかわらず、地域で普通に せいかつ すべ ひと けんり おも 生活するのは、全ての人の権利だと思うた め。
29	ほんにん 本人	なんびょう 難病	そう思う <sup>おも</sup>	おな にんげん 同じ人間だから。 ちいき しえん しょうがい 地域の支援があれば、障害をカバーして、 しゃかい さんか せいかつ かろう 社会に参加しながら生活することが可能。
30	しえんしゃ 支援者	じゅうしょう 重症 しんしんしょうがい 心身障害	どちらかとい えばそう思う <sup>おも</sup>	しごとじょう ばめん め 仕事上そのような場面をよく目にするこ とがあるため。 しごと ちが ばあい かん 仕事が変わった場合どのように感じるかはわ からない。
31	かぞく 家族	しんたいしょうがい 身体障害	そう思う <sup>おも</sup>	そう思わない理由がない。
32	かぞく 家族	じゅうしょう 重症 しんしんしょうがい 心身障害	そう思う <sup>おも</sup>	しょうがいしゃ しゃかい いちいん 障害者も社会の一員であるため。
33	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障害	そう思う <sup>おも</sup>	しょうがい ひと ようじ じどう こうれいしゃ 障害がある人とは、幼児・児童・高齢者など、 ひと ぶんるい めいしょう くわ 人を分類した名称だけであって、区分けし て生活をしているわけではないとのかんが えか ら。また、きんねん ちいきいこう しゃかいさんか うご 近年は、地域移行、社会参加の動 きにより、さらに身近になっていると認識し みちか にんしき

				ています。
34	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	そう思う	しょうがい 障害があっても自分のやりたいことをやって ほしい。
35	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	そう思う	しょうがい 障害のあるなしにかかわらず、人間は みなびょうどう 皆平等。
36	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	そう思う	どんな人でも地域でその人らしく生きるの は当たり前です。 その方の不自由さを人の支援や何だかの 工夫をしながらお互いに理解しあいながら 暮らせる地域であって欲しいです。
37	ほんにん 本人	せいしんしょうがい 精神障害	どちらかとい えばそう思う	こま 困っている自覚が薄いので現状が当たり前 になっている。
38	しえんしゃ 支援者	じゅうしょう 重症 しんしんしょうがい 心身障害	どちらかとい えばそう思う	う 生まれ育った環境や暮らしたい場所は 平等である。
39	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	どちらかとい えばそう思う	ふつう 普通に生活出来ている人もいれば、そうでな い人もいるから。
40	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	どちらかとい えばそう思わ ない	わたしたちかぞく 私達家族にとっては当たり前でも、一般の 方にとっては当たり前ではない。皆が当たり 前になるのは、難しいと思う。
41	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	どちらかとい えばそう思う	でき 出来れば当たり前に暮らすべきだと思うが、 中にはそれが難しい障がい者もいると思 うから。
42	かぞく 家族	はったつしょうがい 発達障害	どちらかとい えばそう思う	しょうがい 障害がある、なしで人を区別するわけでは ないから。
43	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	そう思う	じぶん 自分の子供が障害者だったから、すぐ目には 入る。
44	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	そう思う	だれ 誰しものが障害になりうる場合もあるから。 かのう 可能な限り一般的な生活を送るべきと思う。
45	だいひつしゃ 代筆者	ちてきしょうがい 知的障害	そう思う	しょう 障がいがある人も健常の人も人として同 じだと思います。お互いに助け合って普通の

				せいかつ 生活ができれば、素晴らしいことだと思っ て います。
46	ほんにん 本人	じゅうしょう 重症 しんしんしょうがい 心身障害	そう おも 思う	しょう 障がいのある人が日常の生活の中に普通 にいる事で誤解や偏見が減り、障がいに対 する理解も深まると思うからです。
47	ほんにん 本人	せいしんしょうがい 精神障害	どちらかとい え おも ば そう 思う	せいしんしょうがいしゃ 精神障害者は見た目で病状がわかりにく いため支援先との結びつきやつながりがも ちづらいため、一人で自立して生活している ひと 人がほとんどだと思 おも う から です。
48	しえんしゃ 支援者	その他	どちらかとい え おも ば そう 思う	じぶん 自分や家族が、障 しょうがい 害を持 も っている ので、特 とく に き 気に して い ない。
49	ほんにん 本人	せいしんしょうがい 精神障害	そう おも 思う	スティグマをなくし、差別のない地域社会の はってん 発展と常勝能力。
50	ほんにん 本人	せいしんしょうがい 精神障害	そう おも 思う	みな 皆さん得意不得意はあります。できないとこ ろはできる人にやっ ひと てもら い、共 きょうせいしゃかい 生社会は とうぜん 当然だと思 おも い ます。
51	しえんしゃ 支援者	はったつしょうがい 発達障害	どちらかとい え おも ば そう 思う	さまざま 様々な人が同じ地域で生活することは当然 のことなので、当 あ たり まえ 前だと思 おも う が、障 しょうがい 害の うむ 有無にかかわらず人間関係は難 むずか しいと思 おも う ので、単 たんじゆん 純に皆同じ地域で生活するとい ちいき う う こと では なく、障 しょうがい 害のある ひと 人のそばには、 しょうがい 障 害について理 り かい 解があり、フ ォ ロ ー を し て くれる ひと 人がいる ことが大 たいせつ 切にな おも ると 思 う。
52	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	そう おも 思う	むかし 昔は障 しょうがい 害者は学 がっこう 校でも特 とくしゅがっきゅう 殊学級 い と言 って ほとん ふつうきゅう ど普通 こ 級の子 こ と接 せつ する きかい 機会も なく隠 かく されて し よ う が い し ゃ お や いま し た。障 しょうがい 害者の 親にな り、障 しょうがい 害 のある ひと 人と接 せつ する しごと 仕事に つ 就 き、障 しょうがい 害の ある ひと 人が じぶん 自分の せい か つ 生活 する まち 町で いろ いろ んな ひと んな 人 と か か わ り あ ん し ん 安 心 し て す 過 ご せ る こと 事 が ほん にん 本人 にと して しあ わ せ だ 幸 せ だ と思 おも う よ う に な り ま し た。色 いろ いろ んな 障 しょうがい 害の あ

				<p>る人が安心して暮らせる地域であってほしいです。</p>
53	かぞく 家族	はったつしょうがい 発達障害	そう思う	<p>家族に障がい者がいる。さらに高齢や病気などで身体的精神的に社会生活でのバリアが生じるのは当たり前にある。誰もが障がい者になる可能性を持っている。</p>
54	かぞく 家族	はったつしょうがい 発達障害	そう思う	<p>よく相談を受けているから。</p>
55	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障害	そう思う	<p>障害者になりたくて障害者になった人は皆無であり、誰でも障害者になりうる状況があるなかで、すべての人がそれを理解し受け入れ、共に生活することが必要であると思うから。</p>
56	かぞく 家族	はったつしょうがい 発達障害	そう思う	<p>自分や家族も障がいのある持つ可能性はある。自分や周りの者が当事者とならないとはいえない。無縁ではない。 そうなった時に、それまでの生活を継続し安心して暮らせる社会であって欲しい。</p>
57	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	どちらかとい えばそう思う	<p>障害者だから差別とかそう言うのは周りではなく理解がある環境であると思うから。</p>
58	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	そう思う	<p>息子が小学生の時に、同じクラスの子供達や長男のクラスの子供達が自然に対応してくれている姿をみて、それが普通に生活しているのが当たり前な姿なのではないかと思った。大変理想的だと思った。</p>
59	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	そう思う	<p>障害があるなしは生活する上で何も問題ないから。</p>
60	かぞく 家族	しんたいしょうがい 身体障害	そう思う	<p>言葉で表現できなくても、本人には自由に外出したい、人と関わりたいという思いがあり、叶った時はいきいきとして目が輝いています。人として、ごく当たり前のこと。</p>

61	かぞく 家族	しんたいしょうがい 身体障害	おも そう思う	かぞく いちいん ちてきしょう ひと 家族の一員に知的障がいのある人がいるが、 いえ なか いってい やくわり ふつう く 家の中で一定の役割をもって、普通に暮らし ていて。とうぜんはいりよ ひつよう 当然配慮は必要だが。 かぞく たんい しゃかい たんい あ 家族という単位が、社会という単位にも、当 てはまると思うから。
62	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	どちらかとい えばそう思う	せいしんしっかん ひと ようしょう 精神疾患やグレーゾーンの人など、幼少か らわかったしょうがい 障害ばかりではないと思う。
63	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	おも そう思う	ひと だれ ささ あ い 人は誰でも支え合って生きていくものだと おも 思うからです。
64	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	おも そう思う	しょうがい ひと こうつうきかん りよう 障害がある人も交通機関を利用して、 じゅさんじょ しょうがいしゃこよう きぎょう 授産所や障害者雇用をしている企業などに かよ けんじょうしゃ なん か く 通い健常者と何ら変わらず暮らしていま す。じゅうど けいど ちが めだ 重度や軽度などの違いで目立ったり、 しょうがい 障害があるとわからなかったりの違いはあ りますがみちか ふつう せいかつ 身近で普通に生活をしていると思 います。
65	かぞく 家族	はったつしょうがい 発達障害	おも そう思う	ちい ころ みちか かん さべつ 小さい頃から身近に感じていれば、差別する ことがないおとな そだ 大人に育つから。
66	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	どちらかとい えばそう思わ ない	あ まえ せいかつ りそう 当たり前前に生活できることが理想ですが、ま だまだできていないと思う。おも みちか しょうがい 身近に障害の ある人がいない場合は理解ができないこと がおお が多いのでは。 しょうがい しゅるい ししかた ちが 障害の種類によってもサポートの仕方も違 うのでしゃかいぜんたい ひろ むずか 社会全体に広めることは難しい。
67	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	おも そう思う	みちか しょうがいしゃ せつ 身近に障害者と接することがない、あるい すく しょうがいしゃ ぐたいてき りかい すず は少ないと、障害者への具体的な理解が進 まなくなる。
68	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	おも そう思う	にんげん 人間だから。
69	かぞく 家族	せいしんしょうがい 精神障害	おも そう思う	じんけん びようどう すべ ひと おも 人権は平等に全ての人にあると思うので。
70	かぞく 家族	しんたいしょうがい 身体障害	どちらかとい	しょうがいしゃ どうきよ あ まえ 障害者と同じ居しているため、当たり前だと

			えばそう思う	おも　　こうきょうしせつ　さけ　　はし 思うが、公共施設で叫んだり、走ったりして いる他の障害の方を見かけると、恐怖を感 じる瞬間もある。
71	ほんにん 本人	せいしんしょうがい 精神障害	どちらかとい えばそう思う	しょうがいしゃ　びょういん　　ちいき　く 障害者は病院ではなく地域で暮らすべき だ、という考えを採用するわけではない。た だ、障害者は多数存在している（してしまっ ている）ので、全部を区別して分離すること は不可能。だから、障害者が身近に生活して いてもなんら不思議はない。
72	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障害	そう思う	ちいき　なか　　さまざま　ひと　　せいかつ　あ 地域の中で様々な人が生活することは当た り前だと思います。
73	ほんにん 本人	せいしんしょうがい 精神障害	そう思う	ひと　　ちようぜついじわる　　かんが　かた　　ひと 人って超絶意地悪な考え方をする人もい れば、とても柔軟に優しい人もいる、それと 同じように、たまたま精神的に何か違うとか 身体的に何かが違うからといって特別な人 ではないと思う。 ふつう　だれ　　き 普通って誰が決めたことなののでしょうか・・・ しゃかい　　き 社会が、決めつけているかな？と感じます。 つね　　なに　　ちが　　ひとたち　　みちか 常に何かが違う人達が身近にいること、それ が当たり前でいいのではないかな～困って いる人がいれば皆が手を差し出してあげら れるそんな世界は素敵だと思う。
74	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	そう思う	とうぜん　　かんが　　おも 当然の考えだと思うので。
75	かぞく 家族	はったつしょうがい 発達障害	そう思う	ぎゃく　　みちか　　せいかつ 逆に身近では生活できないというのが、ど ういう意味なのかわかりませんでした。
76	だいひつしゃ 代筆者	ちてきしょうがい 知的障害	そう思う	こた　　むずか 答えるのは難しい。
77	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	そう思う	こうれいしゃ　　ようじ 高齢者も幼児もみんなあたりまえに地域で 生活しています。障がいがあるからと言っ て地域で生活ができないと言う理由が逆に わかりません。

78	だいひつしゃ 代筆者	しんたいしょうがい 身体障害	そう思う	しょくいん 職員やヘルパーがいな <sup>な</sup> いと何もできない。 コミュニケーションが <sup>と</sup> 取れない。
79	しえんしゃ 支援者	しんたいしょうがい 身体障害	そう思う	くるまいす <sup>ひと</sup> 車椅子の人たちが <sup>ふ</sup> 増えてきた。
80	ほんにん 本人	せいしんしょうがい 精神障害	どちらかとい え <sup>おも</sup> ば <sup>おも</sup> そう <sup>おも</sup> 思う	まちなか <sup>くるまいす</sup> <sup>かた</sup> 街中で車椅子の方やヘルプマークをつけて いる人を見ることが多くなり、地域で普通に 生活している様子を感じるから。
81	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	そう思う	いぜん 以前はそうは思 <sup>おも</sup> わ <sup>おも</sup> な <sup>おも</sup> か <sup>おも</sup> つ <sup>おも</sup> た <sup>おも</sup> が、家族や身近に いる障害のある人と触れ合 <sup>あ</sup> う機会が多いか ら。
82	しえんしゃ 支援者	せいしんしょうがい 精神障害	そう思う	しょうがい <sup>う</sup> <sup>む</sup> <sup>かか</sup> <sup>おな</sup> <sup>にんげん</sup> 障害の有無に関わらず同じ人間であり、 しぜん <sup>とも</sup> <sup>い</sup> <sup>しゃかい</sup> <sup>こうちく</sup> <sup>ひつよう</sup> <sup>かんが</sup> 自然に共に生きる社会の構築は必要と考 え、その構築に注 <sup>ちゅう</sup> 力 <sup>りよく</sup> していくからである。
83	ほんにん 本人	せいしんしょうがい 精神障害	どちらかとい え <sup>おも</sup> ば <sup>おも</sup> そう <sup>おも</sup> 思う	いつでも、普通だと思 <sup>おも</sup> っているから。
84	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	そう思う	こうれいしゃ <sup>しょうがいしゃ</sup> <sup>かたがた</sup> <sup>しえん</sup> <sup>ひと</sup> 高齢者、障害者、その方々を支援する人たちが が、ともに生活することが、普通になって、 けいざいかつどう 経済活動にもなっている。
85	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	どちらかとい え <sup>おも</sup> ば <sup>おも</sup> そう <sup>おも</sup> 思う	そうありたいと思 <sup>おも</sup> います。
86	しえんしゃ 支援者	せいしんしょうがい 精神障害	そう思う	せいしんしょうがい <sup>ねんれいせいべつ</sup> <sup>と</sup> <sup>み</sup> 精神障害は、年齢性別問 <sup>み</sup> わ <sup>み</sup> ず <sup>み</sup> なるもので、見 た目ではわからず、働 <sup>はたら</sup> いていても障害があ る場合もあり、精神疾患の患者数は右肩 <sup>みぎかた</sup> 上 <sup>あ</sup> が りでもあるため。身体障害は、医療技術の しんぽ <sup>じゅみょう</sup> <sup>しんちょう</sup> <sup>ともな</sup> <sup>こんご</sup> <sup>ぞうか</sup> 進歩と寿命の伸長に伴い、今後も増加す る。発達障害や知的障害は、今まで軽度で あれば見 <sup>み</sup> 過 <sup>す</sup> ご <sup>す</sup> されて <sup>す</sup> いたが、支援や教育な どで社会全体で知識が広がり、少 <sup>すく</sup> な <sup>すく</sup> から <sup>すく</sup> ず 配慮も進 <sup>すす</sup> んでいることから発見されやす <sup>はっけん</sup> くなっている。
87	ほんにん 本人	せいしんしょうがい 精神障害	そう思う	じぶん <sup>ふつう</sup> <sup>せいかつ</sup> 自分は普通に生活していることが <sup>あ</sup> 当 <sup>あ</sup> たり <sup>あ</sup> 前 <sup>まえ</sup>

				でありたいと思 <sup>おも</sup> います。
88	だいひつしゃ 代筆者	ちてきしょうがい 知的障 害	そう <sup>おも</sup> 思 <sup>おも</sup> う	あ あたりまえです。
89	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障 害	どちらかとい え <sup>おも</sup> ば <sup>おも</sup> そう <sup>おも</sup> 思 <sup>おも</sup> う	じぶん しょくば どうりよう しょうがいしゃ かた 自分の職 <sup>しょく</sup> 場の同僚 <sup>どうりよう</sup> にも、障 <sup>しょうがい</sup> 害 <sup>しゃ</sup> 者 <sup>かた</sup> の方がいら っしやる。 あ まえ おも なか ころな あたり前 <sup>あ</sup> と思 <sup>ま</sup> いたい <sup>おも</sup> が、中 <sup>なか</sup> には心 <sup>こころ</sup> 無 <sup>な</sup> い <sup>な</sup> ネガテ ィブ <sup>はい</sup> な <sup>みみ</sup> 発 <sup>は</sup> 言 <sup>げん</sup> が <sup>はい</sup> 耳 <sup>みみ</sup> に入 <sup>はい</sup> って <sup>こと</sup> く <sup>こと</sup> る <sup>こと</sup> 事 <sup>こと</sup> が <sup>こと</sup> あ <sup>こと</sup> る。 すべ う い こと むり おも かぞく 全 <sup>すべ</sup> て <sup>う</sup> を <sup>い</sup> 受 <sup>こと</sup> け <sup>むり</sup> 入 <sup>おも</sup> れる <sup>かぞく</sup> 事 <sup>こと</sup> は <sup>こと</sup> 無 <sup>こと</sup> 理 <sup>むり</sup> だ <sup>こと</sup> と思 <sup>おも</sup> う。 <sup>かぞく</sup> 家 <sup>かぞく</sup> 族 <sup>と</sup> して、ケアサポ <sup>ひっす</sup> ート <sup>ひっす</sup> は <sup>ひっす</sup> 必 <sup>ひっす</sup> 須 <sup>ひっす</sup> で <sup>ひっす</sup> あ <sup>ひっす</sup> る <sup>ひっす</sup> と <sup>ひっす</sup> 感 <sup>かん</sup> じ <sup>かん</sup> る。
90	だいひつしゃ 代筆者	ちてきしょうがい 知的障 害	そう <sup>おも</sup> 思 <sup>おも</sup> う	ふつう ぐ 普 <sup>ふ</sup> 通 <sup>つう</sup> に <sup>ぐ</sup> 暮 <sup>ぐ</sup> ら <sup>ぐ</sup> し <sup>ぐ</sup> て <sup>ぐ</sup> い <sup>ぐ</sup> る <sup>ぐ</sup> か <sup>ぐ</sup> ら。
91	しえんしゃ 支 <sup>し</sup> 援 <sup>えん</sup> 者 <sup>しゃ</sup>	ちてきしょうがい 知的障 害	そう <sup>おも</sup> 思 <sup>おも</sup> う	ひとりぐ 一 <sup>ひ</sup> 人 <sup>ひとり</sup> 暮 <sup>ぐ</sup> ら <sup>ぐ</sup> し <sup>ぐ</sup> を <sup>ぐ</sup> し <sup>ぐ</sup> て <sup>ぐ</sup> い <sup>ぐ</sup> る <sup>ぐ</sup> が、お <sup>て</sup> 手 <sup>て</sup> 伝 <sup>つ</sup> い <sup>だ</sup> の <sup>て</sup> へ <sup>つ</sup> ル <sup>だ</sup> パ ー <sup>だ</sup> さん <sup>だ</sup> が <sup>だ</sup> (月 <sup>げ</sup> 火 <sup>つ</sup> 水 <sup>すい</sup> 木 <sup>もく</sup> 金 <sup>きん</sup> 土 <sup>ど</sup> ) <sup>き</sup> が <sup>き</sup> 来 <sup>き</sup> て <sup>き</sup> く <sup>き</sup> れる <sup>き</sup> の <sup>き</sup> で、 せいかつ こま 生 <sup>せい</sup> 活 <sup>かつ</sup> に <sup>こま</sup> 困 <sup>こま</sup> っ <sup>こま</sup> て <sup>こま</sup> い <sup>こま</sup> ない。
92	だいひつしゃ 代筆者	ちてきしょうがい 知的障 害	そう <sup>おも</sup> 思 <sup>おも</sup> う	どうぜん しゃかい あ かた おも 当 <sup>どう</sup> 然 <sup>ぜん</sup> の <sup>しゃ</sup> こ <sup>かい</sup> と <sup>あ</sup> で、 <sup>かた</sup> 社 <sup>しゃ</sup> 会 <sup>かい</sup> の <sup>あ</sup> 在 <sup>かた</sup> り <sup>おも</sup> 方 <sup>おも</sup> だ <sup>おも</sup> と思 <sup>おも</sup> い <sup>おも</sup> ます。
93	しえんしゃ 支 <sup>し</sup> 援 <sup>えん</sup> 者 <sup>しゃ</sup>	ちてきしょうがい 知的障 害	どちらかとい え <sup>おも</sup> ば <sup>おも</sup> そう <sup>おも</sup> 思 <sup>おも</sup> わ ない	きゅうじつ ちち がいしゅつ ほかに しょう 休 <sup>きゅう</sup> 日 <sup>じつ</sup> に <sup>ちち</sup> 父 <sup>ちち</sup> と <sup>がい</sup> 外 <sup>がい</sup> 出 <sup>しゅつ</sup> す <sup>つ</sup> る <sup>つ</sup> が、あ <sup>ほ</sup> ま <sup>かに</sup> り <sup>しょう</sup> 他 <sup>しょう</sup> の <sup>しょう</sup> 障 <sup>しょう</sup> が い <sup>しょう</sup> 者 <sup>あ</sup> に <sup>しょう</sup> 会 <sup>あ</sup> わ <sup>しょう</sup> な <sup>しょう</sup> い <sup>しょう</sup> 。イ <sup>しょう</sup> メ <sup>しょう</sup> ー <sup>しょう</sup> ジ <sup>しょう</sup> が <sup>しょう</sup> で <sup>しょう</sup> き <sup>しょう</sup> な <sup>しょう</sup> い <sup>しょう</sup> 。
94	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障 害	どちらかとい え <sup>おも</sup> ば <sup>おも</sup> そう <sup>おも</sup> 思 <sup>おも</sup> う	あ まえ ぐ 当 <sup>あ</sup> たり <sup>ま</sup> 前 <sup>え</sup> に <sup>ぐ</sup> 暮 <sup>ぐ</sup> ら <sup>ぐ</sup> し <sup>ぐ</sup> て <sup>ぐ</sup> い <sup>ぐ</sup> っ <sup>ぐ</sup> て <sup>ぐ</sup> ほ <sup>ぐ</sup> しい <sup>ぐ</sup> と <sup>ぐ</sup> い <sup>ぐ</sup> う <sup>ぐ</sup> 願 <sup>ぐ</sup> いは <sup>い</sup> あ <sup>ね</sup> る <sup>ね</sup> が、 <sup>い</sup> 理 <sup>ね</sup> 解 <sup>ね</sup> の <sup>ね</sup> な <sup>ね</sup> い <sup>ね</sup> と <sup>ね</sup> こ <sup>ね</sup> ろ <sup>ね</sup> で <sup>ね</sup> の <sup>ね</sup> 生 <sup>ね</sup> 活 <sup>ね</sup> は <sup>ね</sup> 辛 <sup>ね</sup> い。
95	しえんしゃ 支 <sup>し</sup> 援 <sup>えん</sup> 者 <sup>しゃ</sup>	はったつしょうがい 発 <sup>は</sup> 達 <sup>たつ</sup> 障 <sup>しょう</sup> 害 <sup>がい</sup>	そう <sup>おも</sup> 思 <sup>おも</sup> う	ちいき で ひつようせい で ひつよう しせつ 地 <sup>ち</sup> 域 <sup>いき</sup> か <sup>で</sup> ら <sup>で</sup> 出 <sup>ひつ</sup> る <sup>よう</sup> 必 <sup>せい</sup> 要 <sup>よう</sup> 性 <sup>せい</sup> が <sup>で</sup> 出 <sup>ひつ</sup> る <sup>よう</sup> の <sup>し</sup> は、 <sup>せつ</sup> 必 <sup>し</sup> 要 <sup>せつ</sup> な <sup>し</sup> 施 <sup>し</sup> 設 <sup>せつ</sup> や <sup>せい</sup> 整 <sup>せい</sup> 備 <sup>び</sup> が <sup>せい</sup> さ <sup>せい</sup> れ <sup>せい</sup> て <sup>せい</sup> い <sup>せい</sup> ない <sup>せい</sup> だ <sup>せい</sup> け <sup>せい</sup> で、 <sup>ち</sup> 地 <sup>ち</sup> 域 <sup>いき</sup> に <sup>あ</sup> い <sup>あ</sup> て <sup>あ</sup> 当 <sup>あ</sup> たり <sup>ま</sup> 前 <sup>え</sup> な <sup>かん</sup> こ <sup>かん</sup> と <sup>かん</sup> と <sup>かん</sup> 感 <sup>かん</sup> じ <sup>かん</sup> る <sup>かん</sup> た <sup>かん</sup> め。
96	かぞく 家族	はったつしょうがい 発 <sup>は</sup> 達 <sup>たつ</sup> 障 <sup>しょう</sup> 害 <sup>がい</sup>	そう <sup>おも</sup> 思 <sup>おも</sup> う	しょうがい 障 <sup>しょう</sup> 害 <sup>がい</sup> が <sup>お</sup> あ <sup>お</sup> つ <sup>お</sup> て <sup>お</sup> も <sup>お</sup> な <sup>お</sup> く <sup>お</sup> ても <sup>お</sup> な <sup>お</sup> く <sup>お</sup> ても <sup>お</sup> 同 <sup>お</sup> じ <sup>お</sup> 人 <sup>お</sup> だ <sup>お</sup> か <sup>お</sup> ら
97	しえんしゃ 支 <sup>し</sup> 援 <sup>えん</sup> 者 <sup>しゃ</sup>	ちてきしょうがい 知的障 害	どちらかとい え <sup>おも</sup> ば <sup>おも</sup> そう <sup>おも</sup> 思 <sup>おも</sup> う	しつもん い と ぜんぶん しょうがい 質 <sup>しつ</sup> 問 <sup>もん</sup> の <sup>い</sup> 意 <sup>と</sup> 図 <sup>ぜん</sup> が <sup>しょう</sup> つ <sup>しょう</sup> か <sup>しょう</sup> め <sup>しょう</sup> ま <sup>しょう</sup> せ <sup>しょう</sup> ん <sup>しょう</sup> 。前 <sup>ぜん</sup> 文 <sup>ぶん</sup> は <sup>しょう</sup> 障 <sup>しょう</sup> 害 <sup>がい</sup> が あ <sup>ひと</sup> る <sup>ほ</sup> 人 <sup>そく</sup> 、 <sup>しょう</sup> 補 <sup>しょう</sup> 足 <sup>がい</sup> は <sup>しょう</sup> 障 <sup>しょう</sup> 害 <sup>がい</sup> の <sup>しょう</sup> あ <sup>しょう</sup> る <sup>しょう</sup> な <sup>しょう</sup> し <sup>しょう</sup> に <sup>しょう</sup> か <sup>しょう</sup> か <sup>しょう</sup> わ <sup>しょう</sup> ら ず、 <sup>き</sup> と <sup>き</sup> 聞 <sup>り</sup> か <sup>り</sup> れ <sup>り</sup> て <sup>り</sup> い <sup>り</sup> る <sup>り</sup> の <sup>り</sup> で <sup>り</sup> 理 <sup>き</sup> 由 <sup>ゆう</sup> の <sup>き</sup> 記 <sup>き</sup> 入 <sup>き</sup> に <sup>き</sup> 困 <sup>こま</sup> り <sup>こま</sup> ま <sup>こま</sup> す。 <sup>しょう</sup> 障 <sup>しょう</sup> 害 <sup>がい</sup> が <sup>い</sup> あ <sup>い</sup> ると <sup>い</sup> い <sup>い</sup> う <sup>い</sup> 事 <sup>こと</sup> は、 <sup>なに</sup> 何 <sup>なに</sup> か <sup>だ</sup> し <sup>だ</sup> ら <sup>だ</sup> 誰 <sup>だ</sup> か <sup>だ</sup> の

				<p>助けが必要である為普通に生活する為の  いろいろな整備や地域の方達が当たり前のように  受け入れてくれる社会であるか？お互い様  と助け合える当たり前前の社会である事が  障害のある方が地域で生活すると言うこと  だと思ひます。</p>
98	支援者	発達障害	どちらかとい えばそう思ひ	<p>自分も含めて、人間だれしも何かしらの偏  りがあると思ひるので、そういった意味で  障害のある人が身近で普通に生活している  のが当たり前だと感じます。</p>
99	家族	身体障害	そう思ひ	<p>障害があるかないかはその人個人の問題で  はない。背が低い人、高い人太っている人、  痩せている人、癌などで闘病している人な  どと同じだと思ひます。何の違いがあるので  しょうか？</p>
100	本人	精神障害	そう思ひ	<p>そう思ひから。</p>
101	本人	精神障害	そう思ひ	<p>それが普通だと思ひから。</p>
102	家族	知的障害	そう思ひ	<p>誰もが生まれたら生きるために普通に生活  するのは当たり前です。障害者と健常者の  違いはそもそも存在せず、誰もが老いたら  障害を抱える可能性はあるわけで、そのよ  うな人は身近に大勢います。犯罪者が身近に  普通に暮らすのとはわけが違ひ。</p>
103	支援者	その他	そう思ひ	<p>インフラ整備等が進んでいないのと  当事者側からの目線もちよつと違ひと思ひ  ところと一般的に当事者に向けての考え方  や理解が進んでいけば当たり前前の事だと思  ひます。</p>
104	支援者	精神障害	どちらかとい えばそう思ひ	<p>障がい者でも健常者でも同じだけ生きる  権利があるため。</p>

105	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	どちらかとい えばそう思う	りゆう ひつよう 理由が必要ですか？
106	かぞく 家族	はったつしょうがい 発達障害	そう思う	みなふつう たす あ バスで皆普通に助け合っているのが にちじょう 日常になっている。
107	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障害	そう思う	じっさい みちか 実際に身近にいるから。
108	しえんしゃ 支援者	せいしんしょうがい 精神障害	どちらかとい えばそう思う	だれ やまい 誰もがなりうる病なので。
109	しえんしゃ 支援者	その他	そう思う	みちか ふつう く しせつ 身近で普通に暮らせないとしたら、施設や びょういん せんたくし 病院といった選択肢になってしまうから。
110	しえんしゃ 支援者	しんたいしょうがい 身体障害	どちらかとい えばそう思う	じっさい にちじょうせいかつ おく なか しやかい 実際に日常生活を送っていく中で、社会の なか い 中で生きているから。
111	かぞく 家族	はったつしょうがい 発達障害	どちらかとい えばそう思う	みせ しょうがいしゃ かた しごと ある お店で障害者の方が仕事をしているし歩い ている時も障害者の方を見かけるから。
112	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	そう思う	ほんらい しょう わ へだ 本来、障がいがあってもなくても、分け隔て なくちいき く なく地域で暮らしていかれることが当たり まえ おも 前だと思うから。
113	ほんにん 本人	しんたいしょうがい 身体障害	そう思う	ふつう みちか しょうがいしゃ 普通に、身近に障害者はいる。
114	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障害	どちらかとい えばそう思う	しせつにゆうしよ たいおう まえ ひつよう 施設入所などの対応をする前に、必要な しえん う かろう かぎ ふつう ほか ひと おな 支援を受けて可能な限り、普通の他の人と同 じような生活を送れることが望ましい。た だ じぶん じょうきょう にゆういん だ、自分たちも状況によっては入院など をすることもあり、それがその人の保全のた め いた だいたいほうほう めに他の代替方法がないのであれば致し方 ないのか。
115	しえんしゃ 支援者	じゅうしょう 重症 しんしんしょうがい 心身障害	どちらかとい えばそう思う	きほんてきじんけん さんちょう かんてん い 基本的人権の尊重という観点から言えば、 う けんり 生まれながらもつ権利であり、すべての人 にじゆう びやうどう ほしやう しやかい に自由や平等を保障する社会であるべきだ とおも けんじょうしゃ ちが しょうがいしゃ かた と思います。健全者と違って障害者の方は う ふじゆう ぶぶん 生まれながらも「不自由」な部分があるとい うことが、ここでいう「普通に生活する」と

				<p>ことにどの程度<sup>ていどあ</sup>当てはまるのか。当事者<sup>とうじしゃ</sup>の方<sup>かた</sup>はどうか<sup>かん</sup>感じているのかが大事<sup>だいじ</sup>なのか<sup>おも</sup>かと思<sup>おも</sup>います。</p>
116	ほんにん 本人	せいしんしょうがい 精神障 害	どちらかとい え <sup>おも</sup> ばそう思 <sup>おも</sup> う	<p>じりつ<sup>い</sup> 自立して生きていく能力<sup>のうりよく</sup>があるなら普通<sup>ふつう</sup>のことだと思<sup>おも</sup>う。</p>
117	しえんしゃ 支援者	せいしんしょうがい 精神障 害	そう思 <sup>おも</sup> う	<p>コロナになり、職<sup>しょく</sup>を失<sup>うしな</sup>ってしまった方等<sup>かたなど</sup>が 増<sup>ふ</sup>えその影<sup>えい</sup>響<sup>きやう</sup>で精神<sup>せいしん</sup>を患<sup>わずら</sup>う方も増<sup>ふ</sup>えてい ます。特<sup>とく</sup>に精神<sup>せいしん</sup>の方<sup>かた</sup>は、患<sup>わずら</sup>っていてもクロー ズで働<sup>はたら</sup>いている方も多<sup>おほ</sup>くいると思<sup>おも</sup>うからで す。</p>
118	ほんにん 本人	しんたいしょうがい 身体障 害	どちらかとい え <sup>おも</sup> ばそう思 <sup>おも</sup> わ ない	<p>みんながグルー<sup>せんたく</sup>プホ<sup>ちいき</sup>ームを選<sup>えら</sup>び、地<sup>ち</sup>域<sup>いき</sup>でな かな<sup>ひとりぐ</sup>か一人暮<sup>ひとり</sup>らしがで<sup>うご</sup>き<sup>うご</sup>ないから、1人<sup>ひとり</sup>で動<sup>うご</sup> いていたり、ヘル<sup>うご</sup>パーと動<sup>うご</sup>いている人<sup>ひと</sup>を時<sup>とき</sup>々<sup>とき</sup> しか見<sup>み</sup>ない。も<sup>と</sup>つと当<sup>とう</sup>事<sup>じ</sup>者<sup>しゃ</sup>が積<sup>せ</sup>極<sup>きよく</sup>的<sup>てき</sup>に社<sup>しゃ</sup>会<sup>かい</sup> 参<sup>さん</sup>加<sup>か</sup>し、かな<sup>けん</sup>が<sup>しやう</sup>わ<sup>しやう</sup>の<sup>あ</sup>よ<sup>ま</sup>う<sup>え</sup>に 地<sup>ち</sup>域<sup>いき</sup>の中<sup>なか</sup>で顔<sup>か</sup>合<sup>あ</sup>わ<sup>あ</sup>せの<sup>じ</sup>と<sup>ち</sup>き<sup>かい</sup>には自<sup>じ</sup>治<sup>ち</sup>会<sup>かい</sup>に 参<sup>さん</sup>加<sup>か</sup>し、防<sup>ぼう</sup>災<sup>さい</sup>や自<sup>じ</sup>立<sup>りつ</sup>支<sup>し</sup>援<sup>えん</sup>協<sup>きやう</sup>議<sup>ぎ</sup>会<sup>かい</sup>、障<sup>しょう</sup>害<sup>がい</sup>者<sup>しゃ</sup> 施<sup>せ</sup>策<sup>さく</sup>協<sup>きやう</sup>議<sup>ぎ</sup>会<sup>かい</sup>など<sup>さん</sup>に積<sup>せ</sup>極<sup>きよく</sup>的<sup>てき</sup>に参<sup>さん</sup>加<sup>か</sup>し、自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>の 障<sup>しょう</sup>害<sup>がい</sup>以<sup>い</sup>外<sup>がい</sup>の他<sup>た</sup>の障<sup>しょう</sup>害<sup>がい</sup>の<sup>ひと</sup>人<sup>ちいき</sup>や地<sup>ちいき</sup>域<sup>す</sup>に住<sup>す</sup>んで いる人<sup>ひと</sup>と<sup>きやう</sup>の<sup>せい</sup>共<sup>ふ</sup>生<sup>か</sup>をも<sup>か</sup>つと深<sup>ふか</sup>めてい<sup>い</sup>くべ<sup>い</sup>き<sup>だ</sup> と思<sup>おも</sup>っている。委<sup>いいん</sup>員<sup>かい</sup>会<sup>かい</sup>のメ<sup>も</sup>ン<sup>も</sup>バ<sup>も</sup>ーと<sup>も</sup>して、も つと地<sup>ちいき</sup>域<sup>かか</sup>と<sup>も</sup>の関<sup>かん</sup>わ<sup>かん</sup>り<sup>かん</sup>を持<sup>も</sup>つてい<sup>も</sup>るつ<sup>も</sup>り<sup>だ</sup> が、他<sup>た</sup>の人<sup>ひと</sup>を見<sup>み</sup>か<sup>み</sup>ける<sup>すく</sup>こ<sup>すく</sup>とが少<sup>せう</sup>な<sup>せう</sup>く、生<sup>せい</sup>活<sup>かつ</sup> す<sup>かん</sup>ること<sup>かん</sup>だ<sup>かん</sup>け<sup>かん</sup>に<sup>かん</sup>し<sup>かん</sup>か<sup>かん</sup>余<sup>よ</sup>裕<sup>ゆう</sup>が<sup>かん</sup>ない<sup>かん</sup>よ<sup>かん</sup>う<sup>かん</sup>に感<sup>かん</sup>じ<sup>かん</sup> ら<sup>かん</sup>れる。も<sup>と</sup>つと当<sup>とう</sup>事<sup>じ</sup>者<sup>しゃ</sup>が地<sup>ちいき</sup>域<sup>さん</sup>に参<sup>さん</sup>加<sup>か</sup>し、自<sup>じ</sup>ら 介<sup>かい</sup>助<sup>じよ</sup>者<sup>しゃ</sup>を<sup>ふ</sup>増<sup>く</sup>や<sup>く</sup>して<sup>しや</sup>い<sup>しげん</sup>く<sup>つく</sup>工<sup>く</sup>夫<sup>ふう</sup>や社<sup>しゃ</sup>会<sup>かい</sup>資<sup>し</sup>源<sup>げん</sup>を<sup>つく</sup> 作<sup>つく</sup>って<sup>ひつ</sup>い<sup>ひつ</sup>く<sup>ひつ</sup>が<sup>ひつ</sup>必<sup>ひつ</sup>要<sup>ひつ</sup>だ<sup>ひつ</sup>と思<sup>おも</sup>っている。</p>
119	しえんしゃ 支援者	た その他	そう思 <sup>おも</sup> う	<p>にほんこく<sup>けんり</sup>みん<sup>けんり</sup>の<sup>けんり</sup>権<sup>けんり</sup>利<sup>り</sup>であるため。</p>
120	しえんしゃ 支援者	しんたいしょうがい 身体障 害	どちらかとい え <sup>おも</sup> ばそう思 <sup>おも</sup> わ	<p>地<sup>ちいき</sup>域<sup>り</sup>に理<sup>り</sup>解<sup>かい</sup>のある<sup>ひと</sup>人<sup>ひと</sup>ば<sup>ひと</sup>か<sup>ひと</sup>り<sup>ひと</sup>で<sup>ひと</sup>なく<sup>ひと</sup>ト<sup>ひと</sup>ラ<sup>ひと</sup>ブル<sup>ひと</sup> が起<sup>お</sup>き<sup>お</sup>や<sup>お</sup>す<sup>お</sup>い<sup>お</sup>。包<sup>ほう</sup>括<sup>かつ</sup>セ<sup>ほう</sup>ン<sup>かつ</sup>タ<sup>ほう</sup>ー<sup>かつ</sup>な<sup>ほう</sup>ども機<sup>き</sup>能<sup>のう</sup>して</p>

			ない	いないところが多く、現場から相談しても解決できることが出来ない事例が多い。
121	家族	知的障害	そう思わない	健常者より、知的障害を持っている事で周りと同じことができない、会話ができない等について変人扱いされる事がある。 健常者（大人も子どもも）に対して障害を持っている人が世の中にはたくさんいる（身体障害だけが障害ではない）という事を学校等で知ってもらわなければならないと考える。 障害を持っているせいか、本当に生きづらい世の中だと感じる。
122	家族	知的障害	そう思う	家族なので。
123	家族	知的障害	そう思う	障がい者イコール危険人物というレッテルを貼られてしまっていると思う。また一般の人の思う障がい者像は脳性麻痺の方を思い浮かべるようで、わからないイコール怖いという図式に他ならない。 インクルーシブな世界を目指す。共生社会を目指す。と言っているのは障がい者の方で、健常者の人にとっては何を言っているのかわからない状態だと思われる。 マイノリティだからこそ発信をし続けなければならないと思うので隣にいる人も実は障がい者なのですよと伝えていきたい。
124	支援者	知的障害	そう思う	障害があってもなくても共に生き、安心して暮らせる地域を作ることが人としての尊厳、権利であるから。
125	支援者	精神障害	そう思う	だってしょうがないじゃん。生まれたんだから。

126	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障害	そう思う	だって生まれた土地だから。地域が好きなんだ。海もあってさ、大学もあって。散歩に行くとしても眺めがいいんだ。
127	ほんにん 本人	せいしんしょうがい 精神障害	そう思わない	障害者年金や生活保護といった経済的政策の受給者に対して世論的なバッシングがあると感じているため。
128	しえんしゃ 支援者	せいしんしょうがい 精神障害	そう思う	誰もが、いつ疾病になり、障がいを抱える事になるかわかりません。疾病、障がいは誰もがなりえる可能性があるため。
129	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障害	そう思う	普通に生活できない理由がわかりません。
130	ほんにん 本人	しんたいしょうがい 身体障害	そう思う	世の中には色々な人がいて当たり前と思う。
131	かぞく 家族	はったつしょうがい 発達障害	そう思う	障がいのある人が地域に住んでいることが不自然とは思わない。
132	ほんにん 本人	はったつしょうがい 発達障害	そう思う	同じ人であるため、人権も意思も尊重されるべきだと思うから。
133	しえんしゃ 支援者	はったつしょうがい 発達障害	そう思う	人の生活は平等になっている必要があるため。
134	かぞく 家族	はったつしょうがい 発達障害	そう思う	障害者であっても、普通に学校に行き、普通に仕事をして、普通に自立した生活が行える事が望ましいと思う。
135	ほんにん 本人	その他	どちらかといえばそう思わない	色々な方は全て普通生活をしているわけではないと思います。それぞれ普通している方もいるし、満足していない方もいます。当たり前とはきついか？と思います。
136	ほんにん 本人	しんたいしょうがい 身体障害	そう思う	みんなちがってあたりまえだから。
137	かぞく 家族	はったつしょうがい 発達障害	そう思う	ほんにん かぞく もそう思って毎日を過ごしています。
138	しえんしゃ 支援者	はったつしょうがい 発達障害	そう思う	かぞくにも障がい者があり、グループホーム、生活介護、地活、放課後等デイサービス、障がい者に携わる仕事をずっとやってきてい

				るので、障がい者がいる生活が身近に感じています。
139	家族	重症 心身障害	そう思う	障害のある方が普通に生活をするのに理由はいらなと思います。
140	支援者	精神障害	どちらかとい えはそう思う	重度の方は病院や施設で生活をされている方が多いかと思いますが、少しのサポートで生活できる方は、一般的に普通に生活されて当たり前だと思います。
141	支援者	精神障害	そう思う	危害を加えるような方であれば、社会で共存するのは当たり前だと思います。
142	支援者	重症 心身障害	そう思う	昔よりも障害を持たれている方が街に出掛け普段の生活をしている。バリアフリーも全面でないにしろ以前よりは進んでいる事もあり、当たり前という認識も増えているのではないかと。 障害といっても、身体、知的だけではなく、精神障害や適応障害など、障害という言葉も以前より身近になっている事もあると思われる。
143	支援者	知的障害	そう思う	誰しものが苦手なこと、できないことはある。それが表面に出ている人とそうでない人の違いであって特に障害者と区分けせずとも世の中にいる個性の強い人が障害者だと思えます。したがって周りにいることが当たり前です。
144	家族	知的障害	そう思う	障害者も社会を構成する一員である。
145	支援者	精神障害	そう思う	自分や自分の家族が障害を持ったとしたら、普通に生活したい、してほしいと思うから。
146	支援者	知的障害	そう思う	赤ちゃんからお年寄りまで色々な人が地域

				で生活しています。その中に、歩くことが難しい方、精神の病を抱えている方、難病を抱えている方、知的障害以外にも色々な困難を抱えている人が生活していると思います。
147	支援者	知的障害	どちらかといえばそう思う	障害のある方を街中で多く見かけるようになった気がする。
148	代筆者	精神障害	そう思う	同じ人間に変わりはない。
149	本人	精神障害	そう思う	障害のあるなしで人を差別してはならない。
150	支援者	知的障害	そう思う	障がいの有無に限らず、人種、性別、性格等が異なる様々な人で社会は形成されている、されるべきと考えている為。
151	本人	精神障害	どちらかといえばそう思う	自身が就労継続支援A型事業所を利用するようになって、ほかの方と触れ合っ、身近で普通に生活しているのが当たり前だという視点を持ってました。が、重度の人との面識がないので軽度の方が普通に生活しているのは当たり前だと思っても、重度の人が普通に生活できるのか疑問ではありますのでどちらかといえばそう思うと回答しました。
152	本人	精神障害	そう思う	世間から障害と呼ばれる特性があったとしてもしっかりと自分の得意を生かして社会に貢献できていれば普通に生活（普通の捉え方にもよるが）していることに何の違和感もない。
153	支援者	知的障害	どちらかといえばそう思わない	施設外で通報など受けたときの理解。ただ駅のホームで歩いているだけで通報されることもありました。ご自身が話せない方なので何時間も拘留され、たまたま所持していた

				れんらくさき ほごしゃ れんらく ごかい と 連絡先で保護者に連絡があり誤解が解けま した。
154	かぞく 家族	はったつしょうがい 発達障害	そう思う	かぞく く しぜん 家族と暮らすことが自然だから。
155	だいひつしゃ 代筆者	ちてきしょうがい 知的障害	そう思う	だれ いっしょ す 誰もが一緒に住むのがあたりまえだから。
156	しえんしゃ 支援者	せいしんしょうがい 精神障害	そう思う	しょうがい ちいき たす あ せいかつ 障害があっても地域で助け合いながら生活 する事は、あたり前だと思います。
157	ほんにん 本人	はったつしょうがい 発達障害	そう思う	がっこう ちいき しょうがい 学校や地域のコミュニティーに障害のある ひと めんしき こうりゆう 人がいて、面識や交流があったので。 けんじょうしゃ にんずう わりあい すく 健常者よりも人数の割合は少ないものの、 かくじつ しゃかい なか そんざい ひとびと にんしき 確実に社会の中に存在する人々という認識 がありました。
158	ほんにん 本人	せいしんしょうがい 精神障害	そう思う	にん ひとり しょうがい も き 基本 9人に一人は障害持ちだと聞くし、基本的 じんけん ほしょう くに 人権が保障されている国なので。
159	ほんにん 本人	しんたいしょうがい 身体障害	どちらかとい えばそう思わ ない	かぞく しせつしよくいん ふたん し 家族や施設職員の負担を知っているから。
160	ほんにん 本人	せいしんしょうがい 精神障害	どちらかとい えばそう思う	わたし しょくぼ しゅうろうけいぞくしえん がたじぎょうしょ 私の職場は就労継続支援A型事業所なの で、障がい者が多いため。
161	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障害	そう思う	ひと みなちが てちょう しんだん 人は皆違うから。手帳や診断があるからとい うだけで、「障害者」と分けているだけ、人 それぞれえてふえて とうぜん みな それぞれ得手不得手があって当然。皆ある いみ しょうがい た ちが い つら 意味、「障害」イコール他と違い生き辛い ぶぶん おも 部分はあると思う。
162	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障害	どちらかとい えばそう思う	ふつう く ひつよう 普通に暮らすためにはフォローも必要です し、なかなかあたり前とまではなりづらいと おも 思います。
163	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障害	そう思う	しょうがい な かか にんげん 障害がある無しに関わらず、人間として とうぜん かんが 当然と考える。
164	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障害	そう思う	しょうがい な だれ き が 障害があっても無くても、誰もが気兼ねな がいしゅつで き こうりゆう よう く外出出来たり交流したりするその様な

				ふうけい のぞ ひと せいかつ かんが 風景が望ましい人としての生活と 考 えてい るため。
165	しえんしゃ 支援者	せいしんしょうがい 精神障害	どちらかとい えばそう思う	けんじょうしゃ せいかつ ひ 健全者として生活していても、ある日、 しょうがい がわ じゅうぶん え 障害のある側になることは十分あり得る から。
166	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障害	そう思う	そもそもなぜ障害者は人里離れた山奥で暮 らさなければならないのか。いったい誰がこ ういう発想のもとに障害者収容施設を設 けたのか根源が知りたい。自分と違う特徴 や特性を持った人を排除しようという考 え 方が 誤りであってそういう人間こそが人里 離れた山奥で暮らせばよかったのではない だろうか。令和の時代になっても未だに地域 に障害者が活動する支援施設やグループホ ームを建設しようとするとは反対する住民が いるのはなぜなのだろうか。「犯罪を犯すか ら?」「住民に迷惑をかけるから?」いや違 うと思う。ただ単純に知らないからであり、 知ろうともしないからである。犯罪なんて誰 だって犯す可能性はあるし、近所迷惑な人な どどこにでもいる。障害者だからという 想像力も思考力も 働 かせない一人ひとり こそが一番の迷惑者だろう。
167	しえんしゃ 支援者	せいしんしょうがい 精神障害	そう思う	せいしんしょうがいしゃ しせつ はたら ため 精神障害者の施設で働いている為。 びょういん つういん つ そ い かんじゃ おお 病院の通院に付き添いで行くと、患者の多 さを感じる為。
168	しえんしゃ 支援者	じゅうしょう 重症 しんしんしょうがい 心身障害	そう思う	ふつう ていぎ 普通の定義がわかりませんが本来そうであ るべきだと 思 思う。
169	しえんしゃ 支援者	しんたいしょうがい 身体障害	そう思う	あ まえ あた まえ じぜん 当たり前前のことが、当たり前になるのは事前の こと 事だし当然の事だから。

170	しえんしゃ 支援者	た その他	おも そう思う	しょうがい 障害のあるなしにかか り関わらず、ひと としてあた り前に生きていくことが、のぞ ましいとつね にかんが えているから。
171	しえんしゃ 支援者	た その他	おも そう思う	むかし 昔に比べてけんさ やしんだん などがひやくてき ひやくてき 的にこうじょう 向上、ようい になり、いぜん 以前は認められていなか ったものがしょうがい 障害としてみと められるよ うになっただけの はなし 話であるよ うにかん じているた め。仮にそ うであろ うとなか ろうと、お なじ にんげん 人間である ことにか わりなく、 みかた 見方をか えればい ちぶ 一部のけん じょうしゃ 健全者よ りいっし ょうけんめ い一生懸命 生きてい るしょう 障がい者 をみくだ していい ぎり 義理はど こにもな いとかん が えている。
172	しえんしゃ 支援者	せいしんしょうがい 精神障害	おも そう思う	しょうがい 障害というの は、ひと その人のこ じん 個人のも んだい 問題では なく、しゃ かい 社会のも んだい 問題なの で。
173	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	おも そう思う	しょうがい 障害がある、 な 無にかか り関わら ずひと はひと だから。
174	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障害	どちらかとい えばそう思う	しょうがい 障害のあるか た 方もちいき 地域でひとり 暮らして いるひと りのこく みん 国民とし てうゑる びーいん ぐがかく ほ 確保さ れるべ きとかん が 考えて いるた め。
175	だいひつしゃ 代筆者	しんたいしょうがい 身体障害	おも そう思う	いろいろな サービス がととの 整ってき てせい かつ 生活し やす くなっ たので。
176	かぞく 家族	はつたつしょうがい 発達障害	おも そう思う	しんだんめい 診断名や じぶん 自分で じかく 自覚が ないだ けでど のかてい 家庭に もとく せい 特性が ある ひと 人は います。 まわ りやそ のひと が 生きに くいと おも わな ければ びょう いん 病院に かか った りけん さ 検査し たり す ること なく せい かつ 生活し てい くで しょう。 その ひと のま わ りが り かい 理解 ある しょ く ば が っこう 職場 や がっこう 学校 なら ば、な に ふ じ ゆう な い せい かつ 生活 が おく 送れる で しょう が、す こ し でも ま わ りと あ 合 わ ない、 どり よく 努力 し ても なに が わ か ら ない のか り かい 理解 でき ない ので あれ ば それは その ひと のも も 持 っ て い る とく せい 特性 であり、 せい しん か 精神 科を じゅ しん 受診 すれば しんだん 診断 が つく か も し れ な

				い障害です。それくらい身近に普通に暮らしている人でも抱えている可能性があるとおもっています。
177	支援者	知的障害	そう思う	個々を大切にしながら、沢山の方々と触れあ い沢山の景色や、四季を感じながら全ての 方々と寄り添いながら、共に生活しながら 活動していく事が当り前の事だと感じてお ります。
178	家族	身体障害	そう思う	家族なので。
179	家族	身体障害	どちらかとい えばそう思わ ない	障害者への理解がないと思うことが多いか ら。
180	支援者	重症 心身障害	どちらかとい えばそう思う	障がい者も地域で住みたい場所に住もうと いう気持ちがある。
181	支援者	精神障害	そう思う	障がいがあっても買い物に行ったり映画を 観たり旅行に行ったりしたい思いは誰もが 同じだと思う。
182	本人	身体障害	そう思う	同じ人間。
183	支援者	知的障害	そう思う	基本的人権が遵守されるのは当然である。
184	支援者	知的障害	そう思う	その考え方は大切だと思いますが、通所型 成人施設を利用している場合は自宅までの 送迎があるので、日曜日以外は近隣の方々と のふれあいが皆無と感じます。
185	本人	精神障害	そう思う	障害あるなし関係なく同じ人間だから。た だ、障がい者自身が支援してもらえるのが 「当たり前」や「特性理解が当たり前」と思 っている方もいるのが残念で仕方ない。
186	支援者	知的障害	そう思う	いろいろな人がいて当たり前前の地域になっ ていく事がこれからの地域の役割だと思う。
187	家族	発達障害	そう思う	急な坂、交通量が多いところ等の条件が

				わる 悪いところは安全面であり立ち入れない かもしれない。あと医療ケアが必要な方も 設備が必要だと思いが、ほとんどの障害の 方が一緒に生活できたらと思う。
188	支援者 しえんしゃ	知的障害 ちてきしょうがい	そう思う おも	がくせいじだい かいじょ 学生時代に介助させてもらった障がいのあ る方から教えてもらった。 職業倫理として。
189	家族 かぞく	発達障害 はったつしょうがい	そう思う おも	かぞく 家族としてはそう思うのは当たり前とは、 仕方がない。 しかし一方で、関係のない方々には迷惑を掛 けることもあるし、何より生産人口として 寄与できない。 税金で保護されるのは国民として申し訳な い気持ちもある。
190	支援者 しえんしゃ	その他 た	そう思う おも	しょう 障がいがあっても一人の人間として生活を していく必要がある為。
191	家族 かぞく	知的障害 ちてきしょうがい	そう思う おも	おな 同じ人間なので。
192	支援者 しえんしゃ	精神障害 せいしんしょうがい	そう思う おも	てきせつ ちりょう りょうよう ひつよう ばあい しかた 適切な治療や療養の必要がある場合は仕方 ない事例もあると思いますが、それ以外であ れば自然な形だと思えます。
193	家族 かぞく	身体障害 しんたいしょうがい	そう思う おも	しょうがい 障害であろうと地域で生活するのが当たり 前だと思えます。
194	家族 かぞく	精神障害 せいしんしょうがい	そう思う おも	かくり しゅうよう じっさい すがた み 隔離して収容してしまうと実際の姿を見 ることがなくなり見慣れていないと怖がっ てしまう。
195	家族 かぞく	発達障害 はったつしょうがい	そう思う おも	ひと みなおな しょう 人は皆同じ。障がいがあっても自分が育っ たところだから。
196	家族 かぞく	知的障害 ちてきしょうがい	そう思う おも	しょう 障がいがある、なし関係なく地域で普通に 生活しているのが当たり前。地域の行事等に 積極的に参加したいです。

197	かぞく 家族	せいしんしょうがい 精神障害	そう おもう 思う	しょうがいかくしゅ しゃかい こうひょう き じだい 障害各種が社会に公表されて来た時代が とうらい みな じぶん まわ 到来した。皆が自分の廻りにその存在を意識 し、認めざるを得ないからだ。
198	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	そう おもう 思う	す な ちいき せいかつ ひと 住み慣れた地域で生活することでその人ら しい日常がより送りやすくなると考える。 サポートしてくれる人を得られやすく持つ ている力を発揮しやすくなると思う。
199	ほんにん 本人	せいしんしょうがい 精神障害	そう おもう 思う	しょう しゃ ふつう せいかつ か ち 障がい者であっても普通に生活する価値が あると思うので地域で生活していてもよ いと思います。
200	ほんにん 本人	せいしんしょうがい 精神障害	そう おもう 思う	せいかつ ししょう 生活に支障をきたさないから。
201	ほんにん 本人	しんたいしょうがい 身体障害	どちらかとい え おもう 思う	みちか ちてきしょうがい こども おやこ 身近に知的障害の子供をおもちの親子さん 達とのつき合いから。
202	ほんにん 本人	ちてきしょうがい 知的障害	そう おもう 思う	はたら ひとりぐ じぶん せいかつ き 働いて一人暮らしをしたり自分で生活を決 める大切なこと。
203	だいひつしゃ 代筆者	ちてきしょうがい 知的障害	そう おもう 思う	かぞく にん く たの 家族3人で暮らすのが楽しいから。
204	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	そう おもう 思う	ひと あ まえ ふつう せいかつ どんな人も当たり前のこと。普通に生活でき ないのは偏見があるから。やまゆり事件とそ の後の一般の人の意見でわかるでしょう。
205	ほんにん 本人	しんたいしょうがい 身体障害	そう おもう 思う	にんげん さべつ 人間として差別があってはならない。
206	ほんにん 本人	しんたいしょうがい 身体障害	そう おもう 思う	あまり意識しないで生活しているから。
207	かぞく 家族	せいしんしょうがい 精神障害	そう おもう 思う	もともとほんにん じゅうきょ いちばんあんしん 元々本人の住居であるし、一番安心できる ところ ところ 所です。近隣に迷惑をかける 所はたしょう が、誰でも高齢になれば同様の状態になり ころんだら他人に助けてもらうこともある。 何かあったら他人の手を借りて救急車を 呼んでもらえるような社会を望みます。
208	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	そう おもう 思う	しょう こせい こと おも 障がいは個性である事と思っている。
209	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	そう おもう 思う	きょうぞん い しぜん かたち 共存して生きることが自然の形であるこ とが望ましいのではないかとおもいます。

210	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	そう思う	もちろん障がいの重さによって違ってくる と思います。
211	だいひつしゃ 代筆者	ちてきしょうがい 知的障害	そう思う	質問のとおり。あたり前の考えだと思 う。
212	しえんしゃ 支援者	その他	そう思う	生まれ育った地域は故郷なので、誰でも周囲 の人と関わりながら暮らす権利はあると思 う。
213	しえんしゃ 支援者	その他	そう思う	障がいのある人もない人も誰もが生活しや すい市であってほしい。地域に居場所がある のはあたり前のことであってほしい。
214	しえんしゃ 支援者	その他	そう思う	すみ慣れた地域で生活をしたいと、誰もが感 じると思ったから。
215	しえんしゃ 支援者	その他	そう思う	障がいがあっても無くても住みたいところ に住む、生活するのが当たり前だと思いま す。支援が必要であるならば支援してもら う。が良いと思います。
216	しえんしゃ 支援者	その他	そう思う	自分がどこに暮らし何を生きがいにするの かは自分で決めたいと思うので、その決定や 思いに障害の有無は関係ないと思ってい る。
217	かぞく 家族	はったつしょうがい 発達障害	そう思う	その通りだから。
218	かぞく 家族	しんたいしょうがい 身体障害	そう思う	障がいがあったとしても普通に暮らすべき だと思うからです。
219	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障害	そう思う	誰にでも悩みや生活する事に困難な事はあ り、目に見えるか見えないか、表現できるか できないか皆同じだと思うので。
220	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	どちらかとい えばそう思う	障がいにくだわるより、困っている人には 助け合う、支え合う、思いやりの気持ちを持 てるようになってほしいと思います。
221	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	そう思う	少なくとも障害のある方は存在するし、 周囲で生活する方も理解は必要です。そうし

				ないとクレームの付け合いになってしまいます。特に強度行動障害についてのこだわりの理解は是非とも必要と考えます。
222	家族	知的障害	そう思う	障害があるからと言って差別するのはおかしい。皆平等です。
223	家族	知的障害	そう思う	そう思いますがまわりの理解がないとなかなか難しいとは思いますが。疲れた時に対処してくれる(短期入所等)制度を充実させてほしいと思います。
224	家族	知的障害	そう思う	区別する必要はなく、家族一緒に暮らすことがあたり前のように社会において一緒にいることはあたり前のように社会において一緒にいることはあたり前。
225	代筆者	知的障害	そう思う	今いる所で普通に暮らせるのが誰でも当然。年寄りや障害のある人などわかるように人が話してくれたり、機械操作を手伝ってくれないと困るとのみ繰り返し訴える。
226	家族	知的障害	そう思う	できるかぎり地域生活するのがよい。
227	家族	知的障害	そう思う	それが現実だからです。
228	本人	身体障害	そう思う	近年はノーマライゼーションの考え方が徐々に認知されてきた。その結果人間社会はいろいろな人たちが共に暮らすということが社会の基本である。
229	本人	精神障害	そう思う	様々な人と生活するのは、自分だけでなく、他の人にも知ってもらう事がとても大切だと感じるのだ。
230	本人	精神障害	そう思う	迷惑をかけたときは誰でも障がいあるなしにかかわらず罰せられるのだから、障がい者も一緒に暮らしてかまわないと思います。
231	本人	精神障害	どちらかとい	以前よりグループホームや作業所などが少

			えばそう思う <sup>おも</sup>	しずつ増えてきてとってもいいなと思いま す。精神障 <sup>せいしんしょうがい</sup> 害 <sup>み</sup> は見た目ではわかりづらかつ たり、社会的入院 <sup>しゃかいてきにゆういん</sup> や偏見 <sup>へんけん</sup> などの問題 <sup>もんだい</sup> ・課題 <sup>かだい</sup> も まだまだあるけれど、障 <sup>しょうがい</sup> 害 <sup>ひと</sup> のある人もない 人もみんなが地域 <sup>ちいき</sup> で自分 <sup>じぶん</sup> らしく生活 <sup>せいかつ</sup> してい ける社会 <sup>しゃかい</sup> になったらいいなと思いま <sup>おも</sup> す。
232	ほんにん 本人	せいしんしょうがい 精神障 <sup>せいしんしょうがい</sup> 害	どちらかとい えばそう思う <sup>おも</sup>	就 <sup>しゅう</sup> 労 <sup>ろう</sup> 継 <sup>けい</sup> 続 <sup>ぞく</sup> 支 <sup>し</sup> 援 <sup>えん</sup> B 型 <sup>がた</sup> 事 <sup>じ</sup> 業 <sup>ぎょう</sup> 所 <sup>しょ</sup> に通 <sup>つう</sup> 所 <sup>しょ</sup> してい るが、スタ <sup>りょう</sup> ッフ <sup>しんてき</sup> が良 <sup>かた</sup> 心 <sup>かた</sup> 的 <sup>かた</sup> な方 <sup>かた</sup> である。
233	ほんにん 本人	せいしんしょうがい 精神障 <sup>せいしんしょうがい</sup> 害	そう思う <sup>おも</sup>	精神病 <sup>せいしんびょういん</sup> 院 <sup>しごと</sup> で仕 <sup>しごと</sup> 事 <sup>ごと</sup> をしてい <sup>しごと</sup> るが、時 <sup>とき</sup> 折 <sup>おり</sup> わめ <sup>め</sup> き 声 <sup>こゑ</sup> や悲 <sup>ひ</sup> 鳴 <sup>めい</sup> が聞 <sup>き</sup> こえて本 <sup>ほん</sup> 当 <sup>とう</sup> は環 <sup>かん</sup> 境 <sup>きやう</sup> に問 <sup>もん</sup> 題 <sup>だい</sup> があ るのではないかと思 <sup>おも</sup> うから。
234	ほんにん 本人	せいしんしょうがい 精神障 <sup>せいしんしょうがい</sup> 害	そう思う <sup>おも</sup>	でも理 <sup>り</sup> 解 <sup>かい</sup> が足 <sup>た</sup> りてい <sup>た</sup> ないと思 <sup>おも</sup> う。
235	ほんにん 本人	せいしんしょうがい 精神障 <sup>せいしんしょうがい</sup> 害	どちらかとい えばそう思う <sup>おも</sup>	なるべく偏 <sup>へん</sup> 見 <sup>けん</sup> のな <sup>な</sup> い環 <sup>かん</sup> 境 <sup>きやう</sup> で住 <sup>す</sup> むことがい <sup>い</sup> いと考 <sup>かん</sup> え <sup>え</sup> る為 <sup>ため</sup> 。
236	ほんにん 本人	じゅうしょう 重症 しんしんしょうがい 心身障 <sup>しんしんしょうがい</sup> 害	そう思う <sup>おも</sup>	地 <sup>ち</sup> 域 <sup>いき</sup> で生 <sup>せ</sup> 活 <sup>いかつ</sup> するの <sup>の</sup> が当 <sup>とう</sup> 然 <sup>ぜん</sup> と思 <sup>おも</sup> いま <sup>おも</sup> す。
237	ほんにん 本人	せいしんしょうがい 精神障 <sup>せいしんしょうがい</sup> 害	そう思う <sup>おも</sup>	い <sup>い</sup> 生 <sup>せい</sup> きてい <sup>い</sup> くた <sup>い</sup> め <sup>い</sup> に当 <sup>あ</sup> たり <sup>ま</sup> 前 <sup>ま</sup> 、当 <sup>とう</sup> 然 <sup>ぜん</sup> か <sup>か</sup> と。

問2 障がいのある人は日ごろの生活の中で、困りごとや不自由さを感じていると思いますか。(理由の記述)

	きにゆうしゃ 記入者	おも しょう 主な障がい など しゅるい 等の種類	せんたくし 選択肢	りゆうとう 理由等
1	かぞく 家族	こうじのうきのう 高次脳機能 しょうがい 障害	かん 感じていると おも 思う	むかし くら 昔に比べたら、障害のある人への理解はそれ なりに広がって来ていると思います。しかしな がら、あまり表立っていないけれども、昔なが らのへんけん み かく 偏見が見え隠れして、今も社会の隅々で しょうがい むりかい おお 障害への無理解によって起こるさまざま 不利益 を被っている当事者は多いと思います。
2	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障害	わからない	こま 困りごとを聞くとパズルが難しいと返答され る。具体的に病院に行く際に困ったことはな いか聞くと同様の答えが返ってくる。
3	ほんにん 本人	しんたいしょうがい 身体障害	かん 感じていない おも と思う	じぶん 自分でだいたいの生活ができるので。
4	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	わからない	ほんにん りかい で き 本人は理解が出来ないので難しいが親として ふじゆう かん 不自由さは感じる。まわりの理解がなく嫌な思 いをする事がある。
5	かぞく 家族	しんたいしょうがい 身体障害	かん 感じていると おも 思う	こま 困りごとだらけだと思う。
6	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じていると おも 思う	ヘルパーが足りない。
7	ほんにん 本人	せいしんしょうがい 精神障害	かん 感じていると おも 思う	こま ごと おお すく 困り事は多かれ少なかれありますが何らかの てだす ひつよう おも 手助けは必要だと思う。
8	だいひつしゃ 代筆者	しんたいしょうがい 身体障害	かん 感じていると おも 思う	じゅうど ざいたく じゅうじ かいごしょくいん ふそく 重度の在宅ケアに従事する介護職員が不足し すぎている。
9	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じていると おも 思う	しょうがい ていど 障害の程度によってはグループホームに入れ なかつたり、就労施設に通うことができな かつたり、病院に入院するときでも個室対応が びょういん にゅういん こしつたいおう 出来ない、家族がそばにいないと精神面が安定

				しないなど、個別的な理由で対応出来ない場合があるから。
10	支援者	精神障害	感じているとおも思う	施設や設備、制度など障がいへの理解は高まってはいるものの、物件探しの際は不動産会社での対応と理解に乏しさを感じます。
11	支援者	精神障害	感じているとおも思う	行動援護のサービスを受けられる状況ではあるが、ヘルパーと出かけた時に不穏になるとヘルパーから迎えに来て欲しいと連絡が入り現場に迎えに行く事があった。そのような事があると、お願いするのが悪いと思ったり、また、迎えに行かなければならなくなるのでは…と思ひ、ヘルパー利用を控えてしまい家族の負担が増える。 結局人手不足があると思うが、同じ行動援護の利用者でも手がかからないで報酬を得た方が事業所としてもやり易いのかな、と、考えてしまったりもする。
12	支援者	知的障害	感じているとおも思う	社会資源の不足、人手不足は福祉業界にも深刻な影響を与えています。
13	家族	知的障害	感じているとおも思う	文字や言語の理解が前提となっていることがほとんどなので誰でもわかるような制度であってほしいです。 特に役所等での様々な手続き、書面は保護者や支援者でわかりづらいことも多く、これまでのやり方を踏襲するだけでなく刷新していただきたいです。 選挙制度でも大変不便を感じるので投票の仕方を変えてほしいです。
14	支援者	知的障害	感じているとおも思う	バリアフリーではないことや、何についても健全者目線で作られているから。

15	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障害	どちらかとい えば感じてい ると思う	ちてきしょうがい じぶん い 知的障害があるため自分の言いたいことを あいて てきせつ つた 相手に適切に伝えることができない人、 こうじのうきのうしょうがい つた ことば うま 高次脳機能障害のため伝えたい言葉が上手く で ひと ひと 出てこない人などは、人とコミュニケーション をとることに不便を感じ、障害の中でも発達 しょうがい せいしんしょうがい ないぶしょうがい がいけん 障害や精神障害、内部障害など外見からは わからない障害を持っている人は、一見する ふつう ひと み いか と普通の人に見えるため抱えている障害につ りかい え むずか いて理解を得ることが難しく、外部からわか しょうがい も かた る障害を持っている方でも、どのような配慮 ひつよう りかい が必要なのかを理解してもらうために時間を よう 要することもあります。知的障害や精神障害 かか かた なか かね けいかくてき つか を抱える方の中には、お金を計画的に使ったり ぎんこう きんゆうきかん てつづ おこな 銀行などの金融機関の手続きを行うことが むずか ひと 難しい人もいます。
16	しえんしゃ 支援者	こうじのうきのう 高次脳機能 しょうがい 障害	かん 感じていると おも 思う	こうじのうきのうしょうがい み 高次脳機能障害は見えづらく、わかりづらく、 りかい おお おも 理解してもらえないことが多いと思う。
17	かぞく 家族	しんたいしょうがい 身体障害	かん 感じていると おも 思う	すべ ふじゅうぶん た がいしゅつつき 全てにおいて不十分で足らずに外出先では ひとびと こうき しせん むね いた ひびなみだ くや 人々の好奇心な視線に胸が痛み日々涙する悔し おも がいしゅつ おつこう たの よろこ い思いになり、外出が億劫になり楽しみも喜 かんたん え いっぽう くに けん びも簡単には得られなくなった一方で国や県、 し いく しえん てあ すく 市には幾つもの支援や手当てによって救われ ている。いつも感謝の気持ちを持っている。
18	かぞく 家族	せいしんしょうがい 精神障害	かん 感じていると おも 思う	やくぶつりょうほうとう ちりょう う せいかつ こと 薬物療法等の治療を受けて生活している事は せいやく おお ふべん かん 制約が多く、不便であると感じる。
19	しえんしゃ 支援者	なんびょう 難病	かん 感じていると おも 思う	せいめい い じ しえん しゅうろう 生命維持のためには、支援があっても就労に たい してのヘルパー支援 ぜいたく とら ひと 対してのヘルパー支援を贅沢と捉える人がい おとな しょうがいしゃ し しゃかいかつどう る。大人が障害者を知らないことで、社会活動 すべ ふべん 全てにおいて、不便にしている。
20	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じていると	し かいん ひつよう な ぼっし 歯科医院で必要の無い抜歯をすすめられた。ど

			おも 思う	うせ治療してもそのうち悪くなってしまうので抜いてしまえばいいと、障害者なのだからそのぐらいの妥協をした方が良くないと理不尽な事を言われた。 本人は口を大きく開けるのが少し苦手なくらいで暴れたり泣いたりする事は全くなく他の歯科医院では普通に長時間の治療も問題無く出来ます。その後病院を変えて普通に治療して頂きました。若い医師のひどい扱いに憤りを覚えました。その時には、ただ黙って聞き流しました。反論しても通じない相手だと思ったので。
21	しえんしゃ 支援者	その他	かん 感じていると おも 思う	福祉制度の整備がまだ充分でなかったり、社会の中での理解が進んでいなかったりするため。
22	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じていると おも 思う	一番私が悲しいかなと思ったのは、外出先での食事場所に苦慮したことです。 日常的に身近にあるファミレスの殆どが「対応できない」と言われ断られました。(特に車椅子利用者、嚙下に配慮が必要な方)中には、入口の段階でバリアフリー構造ではないところも複数ありました。
23	しえんしゃ 支援者	こうじのうきのう 高次脳機能 しょうがい 障害	かん 感じていると おも 思う	対応可能な医療機関が少なく、遠方でも通わなければならなくなるケースが多いです。 また、利用したいサービス量と提供できる支援者側のマンパワーのバランスが取れていないため、十分と言えるサポート体制は作られていない印象があります。
24	しえんしゃ 支援者	じゅうしょうしんしん 重症心身 しょうがい 障害	かん 感じていると おも 思う	重症心身障害者の方たちは、小児診療からの移行が難しい。重症心身障害児者のことを知って、総合的に診察できる診療科があると

			<p>いいと思う。</p> <p>また、重症心身障害者は、特別支援学校を卒業して、社会生活をしていく中で、行くことができる通所が少ない。病態が重く、看護師がみる必要があったり、体調が変わりやすく、入院等で通所に通う日数が少なくなってしまうたりする。</p> <p>そのような方たちは、通所の送迎時に看護師の同乗が必要なのに、看護師が不足しているために通所を諦めることもある。介護者がレスパイトする時間も作れなかったり、介護者の就労にも影響してくる。</p> <p>日々の暮らしを維持するだけでなく、豊かさも求めていいと思う。バリアフリー化は進んでいるが、まだまだ不便だと感じることもある。駅でエレベーターに乗るのに、行列している。障害があっても、色々なことにチャレンジできるといいなと思う。</p>
25	支援者	高次脳機能障害	<p>どちらかといえばそう思う</p> <p>目に見えるもの、そうでないものを含め大変だと思われるから。</p>
26	支援者	重症心身障害	<p>どちらかといえば感じていると思う</p> <p>重症心身障害について言えば、家族の休息が充分とは言えない。目立った災害が起きていない神奈川県では災害時のことが想像できない。</p>
27	本人	難病	<p>どちらかといえば感じていると思う</p> <p>車椅子で外出した時の歩道の段差。市の遊歩道が凸凹で車椅子では散歩ができない。災害時の避難場所として常に電源が必要ないりょういぞんど たか かんじゃ たい ひなんぼしょ 医療依存度の高い患者に対しては避難場所は適切でない。病院避難の手だてを考えてほしい。</p> <p>人材不足による緊急時のヘルパー確保が難しい。</p>

				い。
28	ほんにん 本人	なんびょう 難病	かん 感じていると おも 思う	れい 例にあるようなことを聞いたことがある。
29	ほんにん 本人	なんびょう 難病	かん 感じていると おも 思う	しょうがいしゃ 障害者になってからは、まいにち せいかつ こま 毎日の生活で困りご とや不自由さがたくさんあるため。
30	ほんにん 本人	なんびょう 難病	どちらかとい えば感じてい ると思う	われわれ きんいしゆくせいそくさくこうかしょう かんじゃ 筋萎縮性側索硬化症ALS の患者は、 じゅうどしょうがい じかん かんご かいご う 重度障害のために、24時間の看護と介護を受 けなければ生きていけません。それを支援しよ うという いりょうしゃ や かいごしゃ で あ うん 医療者や介護者に出会えるかは、運の ようそ じつたい 要素があるのが実態です。 とく かいごしゃぶそく い ひつよう 特に介護者不足が言われており、それを必要な だけ確保できるかは、個人差があります。
31	しえんしゃ 支援者	じゅうしょうしんしん 重症心身 しょうがい 障害	かん 感じていると おも 思う	すなお ひょうじょう こうどう で かた おお げんいん さが 素直に表情や行動に出る方が多く、原因を探 していくと わたし おも いじょう こま 私たちが思っている以上に細かい ことに きづき えいきょう う 気づき影響を受けるなどのストレスを かん ばあい すく 感じている場合が少なくない。
32	かぞく 家族	しんたいしょうがい 身体障害	かん 感じていると おも 思う	わ こ しんたいしょうがい きゅう りょういくてちょう 我が子は、身体障害2級、療育手帳B1で、 じゅうど 重度ではない。 しかしながら、サポートが手厚かった特別支援 がっこう そつぎょうご じぶん こうきょうこうつうきかん つか 学校を卒業後は、自分で公共交通機関を使っ て通うことが こんなん であるがために、そうげいつ 困難であるがために、送迎付きと げんていつ しゅうろうしえんさき せんたく いう限定付きの就労支援先しか選択ができな かった。ヘルパーを使用したいと思っても、 かんきょう ととの こんなん 環境が整わず困難である。 ほんにん い おも しゅうろうさき 本人としては、行きたいと思える就労先では なく、げんてい ぼしょ さい いっしょう お 限定された場所で18歳からの一生を終 えていくのかと みらい きぼう も 未来に希望を持っていない。
33	かぞく 家族	じゅうしょうしんしん 重症心身 しょうがい 障害	かん 感じていると おも 思う	しょうがい 障害があるため、はたら しゅうにゅう え 働けず、収入が得られず、 じりつ むづか たいりよく な ふくししせつ 自立も難しい。体力が無いため、福祉施設へ つうしょ むづか かぞく の通所も難しい。サポートする家族も、かかり

				きりになり、仕事 <sup>しごと</sup> が持てず、収入 <sup>しゅうにゅう</sup> が得られない。そのため、サポートする家族 <sup>かぞく</sup> が高齢 <sup>こうれい</sup> になっても、年金 <sup>ねんきん</sup> が得られない。
34	支援者 <sup>しえんしゃ</sup>	知的障害 <sup>ちてきしょうがい</sup>	感じていると 思う	保護者 <sup>ほごしゃ</sup> が、公共 <sup>こうきょう</sup> の乗り物 <sup>のもの</sup> に乗ったり、大勢 <sup>おおぜい</sup> の場所 <sup>ばしょ</sup> に行くのを避ける。 幼稚園 <sup>ようちえん</sup> の入園 <sup>にゅうえん</sup> を断られる。
35	家族 <sup>かぞく</sup>	知的障害 <sup>ちてきしょうがい</sup>	わからない	知的障害 <sup>ちてきしょうがい</sup> 以外 <sup>いがい</sup> の人の事 <sup>こと</sup> はよくわからない。
36	家族 <sup>かぞく</sup>	知的障害 <sup>ちてきしょうがい</sup>	感じていると 思う	ヘルパーさんが足りない。 保険 <sup>ほけん</sup> に入れない。
37	家族 <sup>かぞく</sup>	知的障害 <sup>ちてきしょうがい</sup>	どちらかとい えば感じている と思う	一応 <sup>いちおう</sup> だんだん <sup>せいど</sup> 制度 <sup>かんきょうせいび</sup> や環境 <sup>せき</sup> 整備も昔 <sup>せき</sup> にくらべて出来 <sup>でき</sup> ているのですが、施設 <sup>しせつ</sup> や生活 <sup>せいかつ</sup> 支援 <sup>しえん</sup> 等の職員 <sup>しょくいん</sup> 不足 <sup>ふそく</sup> や資金 <sup>しきん</sup> 不足 <sup>ふそく</sup> イコール補助金 <sup>ほじょきん</sup> など十分な運営 <sup>じゅうぶん うんえい</sup> するには足りない等の理由 <sup>りゆう</sup> で、制度 <sup>せいど</sup> やサービスがあっても皆 <sup>みな</sup> が使えない。それにあまりにもそれぞれに良い悪い <sup>よわる</sup> ？の差 <sup>さ</sup> がありすぎるのも事実 <sup>じじつ</sup> です。
38	本人 <sup>ほんにん</sup>	精神障害 <sup>せいしんしょうがい</sup>	どちらかとい えば感じている と思う	自治会 <sup>じちかい</sup> 役員 <sup>やくいん</sup> 辞退 <sup>じたい</sup> するのに一悶着 <sup>ひともんちゃく</sup> （開示 <sup>かいじ</sup> してまです）。体調 <sup>たいちょう</sup> が良い日 <sup>よひ</sup> と悪い日 <sup>わるひ</sup> があるというのが根本 <sup>こんぽん</sup> 的に理解 <sup>りかい</sup> されない。積極 <sup>せっきよく</sup> 的支援 <sup>てきしえん</sup> がない。自立 <sup>じりつ</sup> 支援 <sup>しえん</sup> 医療 <sup>いりょう</sup> の案内 <sup>あんない</sup> も手 <sup>て</sup> に入 <sup>い</sup> れてない人 <sup>ひと</sup> が多い。市 <sup>し</sup> の福祉 <sup>ふくしか</sup> 課 <sup>か</sup> に障害 <sup>しょうがい</sup> 者 <sup>しやてちやう</sup> 手帳 <sup>ていあん</sup> のできることに案内 <sup>あんない</sup> が少なく、色々 <sup>いろい</sup> ご提案 <sup>ていあん</sup> したのですが、意見 <sup>いけん</sup> が通 <sup>とお</sup> らないのは仕方 <sup>しかた</sup> ないですが言葉 <sup>ことば</sup> を理解 <sup>りかい</sup> してもらえないを超 <sup>こ</sup> えて音量 <sup>おんりょう</sup> を認識 <sup>にんしき</sup> したていど <sup>ていど</sup> はんのう <sup>はんのう</sup> で、引越 <sup>ひ</sup> したいです。
39	支援者 <sup>しえんしゃ</sup>	重症心身障害 <sup>じゅうしょうしんしんしょうがい</sup>	どちらかとい えば感じている と思う	ひとり <sup>ひとり</sup> では食事 <sup>しょくじ</sup> をすることも難 <sup>むずか</sup> しい。助 <sup>たす</sup> けてもらって生きていく必要 <sup>ひつよう</sup> があるため。
40	家族 <sup>かぞく</sup>	知的障害 <sup>ちてきしょうがい</sup>	感じていると 思う	日々 <sup>ひび</sup> 、何か <sup>なに</sup> と人 <sup>ひと</sup> の助け <sup>たす</sup> が必要 <sup>ひつよう</sup> だが世 <sup>よ</sup> の中 <sup>なか</sup> そんなに親切 <sup>しんせつ</sup> な人 <sup>ひと</sup> ばかりでない。

41	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じていると おも 思う	ヘルパーが足りない。 最重度の障害児者を受け止める施設・サービス (入所、通所、ヘルパー等全体的に)足りない。 受給量の時間数が足りない。
42	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じていると おも 思う	発語がなく、言葉の意味も理解出来ないので 自分の気持ちを理解してもらえないから。
43	かぞく 家族	はったつしょうがい 発達障害	かん 感じていると おも 思う	外出先でのトイレ。
44	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	どちらかとい えば感じてい ないと思う	まだ、これは困ったと思った事に直面してな いからです。
45	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じていると おも 思う	障害内容によっては本人自身は感じていない 場合があるとは思いますが、家族やお世話している ものが、時間や手間、周囲への配慮などに悩んで いると感じる。
46	だいひつしゃ 代筆者	ちてきしょうがい 知的障害	どちらかとい えば感じてい ないと思う	例文のような事に直接接していないためよく わかりませんが、何かしらの不自由さは感じら れていると思います。
47	ほんにん 本人	じゅうしょうしんしん 重症心身 しょうがい 障害	かん 感じていると おも 思う	ヘルパーが足りず家族への負担が多く困って いる。
48	ほんにん 本人	せいしんしょうがい 精神障害	どちらかとい えば感じてい ると思う	はっきりした不自由な面がないと援助しても らいにくいからです。
49	しえんしゃ 支援者	その他	どちらかとい えば感じてい ると思う	バスを利用している時、少し乗る時に足を怪我 している人が、苦勞しているように見えまし た。
50	ほんにん 本人	せいしんしょうがい 精神障害	かん 感じていると おも 思う	金の問題で困っている障害者が多いです。 また、家庭的になかなか外に出してもらえない 方が多くいます。お金、家庭的に問題のある人 が差別的扱いを受けています。

51	しえんしゃ 支援者	じゅうしょうしんしん 重症心身 しょうがい 障害	かん 感じていると おも 思う	しょうがいじ ほごしゃ がいしゅつ ひとめ き 障害児の保護者は外出するにも人目を気にす るかた おお おも くるまいす りょう とき る方が多いと思います。車椅子を利用する時に だんさ 段差がある、エレベーターを利用しなければな らぬのでスムーズに行動できない。買い物を するにも広い通路があるお店でないと行くこ とができない。
52	ほんにん 本人	しんたいしょうがい 身体障害	かん 感じていると おも 思う	じぶんじしん がいしゅつ いし 自分自身が外出をしたい意思があるのに対 し、ヘルパー不足などの理由で満足に外出が できていないから。
53	ほんにん 本人	しんたいしょうがい 身体障害	どちらかとい えば感じてい るとおも 思う	バリアフリーとは書いてはあつたりするもの じっさいくるまいす むづか た た の実際車椅子では難しいところも多々ありま す。(昔よりはよくなつたが)
54	しえんしゃ 支援者	はつたつしょうがい 発達障害	わからない	きっとこま けいけん 困ることは経験されているだろうと思 うが、じつたいけん 実体験がないため、しょうがい かか 障害を抱えている方 のたいけん 体験がわからない。
55	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じていると おも 思う	トラブルに巻き込まれた時、いろいろな面 しょうがいしゃ 障害者であるがゆえに理解してもらえない事 があつた。
56	かぞく 家族	はつたつしょうがい 発達障害	かん 感じていると おも 思う	みんかんほけん けいやく 民間保険の契約ができない。 ようちえん とま ほいく ことわ 幼稚園のお泊り保育を断られた。 スイミングスクールやジムのにゅうかい ことわ 入会を断られた。 クレープショップのイトインスペースで、 こうれい かた しょう しゃ 高齢の方に「障がい者はこんなところで食べ ないで」と面と向かつて言われたこともある。 しょうがい しゃ 障がい者グループホームも行動しょう 障がいがあるとたんきにゅうしょ 短期入所もできるところがほとんどない。 みせ つうろ せま しょうひんだな たか くるま か 店の通路が狭く商品棚が高く車いすでの買 い物 むづか ほどう せま なな かたむ いが難しい。歩道が狭く斜めに傾いている ため、り 1人での外出ががいしゅつ ことわ 怖くてできない。近所にきんじよ

				<p>しょうてん 商店がない。</p> <p>ネットスーパーやインターネットの<sup>てつづ</sup>手続きが <sup>むずか</sup>難しい。</p> <p>かんこうち だんき おお くるま い 観光地は段差が多くて車いすでは行けない。</p>
57	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障害	<p>どちらかとい え<sup>かん</sup>ば感じてい ると<sup>おも</sup>思う</p>	<p>じしん しょう こと りかい はな 自身の障がいの事を理解してもらえないと話 す<sup>かた</sup>方が多いから。</p>
58	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障害	<p>かん 感じてい<sup>おも</sup>ると 思う</p>	<p>じぶん いし ひょうしゆつ むずか 自分の意思を表出することが難しいことが たくさんある<sup>なか</sup>中で、その<sup>いし</sup>意思を<sup>じょうず</sup>上手に<sup>じつげん</sup>実現して いくために<sup>ひつよう</sup>必要な<sup>しえん</sup>支援を得るためには<sup>じんいん</sup>人員 不足<sup>ぶそく</sup>からも<sup>せいかつ</sup>生活の中<sup>なか</sup>では<sup>ふじゆう</sup>不自由さを<sup>かいしょう</sup>解消する ことは<sup>むずか</sup>難しいと<sup>おも</sup>思う。多くは<sup>おお</sup>あきらめや<sup>がまん</sup>我慢 で<sup>お</sup>終えて<sup>ひび</sup>しまうやるせなさは日々ある。</p>
59	かぞく 家族	はったつしょうがい 発達障害	<p>かん 感じてい<sup>おも</sup>ると 思う</p>	<p>こ はったつしょう ことども ころ 子に発達障がいがありますが、子供の頃には がっこう べんきょう ついていけなく おちつきのない こ 子でしたが、その頃は<sup>ころ</sup>発達障がいと<sup>い</sup>言う<sup>しょうがい</sup>障害 についての<sup>ちしき</sup>知識がなく、<sup>なん</sup>何とか<sup>しゆうしよく</sup>就職をさせて わか 若い内は<sup>うち</sup>頑張らせて<sup>おとな</sup>きましたが、大人になって しごと つ <sup>ながつづ</sup>仕事に就いても<sup>しよくぼ</sup>長続きしなく、<sup>ひと</sup>職場の人たちと かんけい じょうず つく <sup>かんせんしょう</sup>関係が上手に<sup>ころ</sup>作れず、<sup>ころ</sup>コロナ<sup>ころ</sup>感染症の頃 しごと <sup>ひ</sup>仕事がなく、<sup>せいかつ</sup>引きこもりが<sup>みだ</sup>ちとなり、<sup>みだ</sup>生活が乱 れて<sup>こま</sup>困ったため、<sup>せいしんか</sup>精神科で<sup>そうだん</sup>相談し<sup>はったつしょう</sup>発達障がい の<sup>しんだん</sup>診断を受け<sup>う</sup>ました。<sup>おや</sup>親も<sup>こうれいか</sup>高齢化して<sup>しょうらい</sup>将来に ふあん <sup>かん</sup>不安を感じて<sup>てきせつ</sup>いますが、<sup>じょうほう</sup>適切な<sup>しえん</sup>情報や<sup>しえん</sup>支援の きかん <sup>すく</sup>機関が<sup>こま</sup>少なく<sup>おお</sup>困ることが<sup>おお</sup>多かったです。</p>
60	かぞく 家族	しんたいしょうがい 身体障害	<p>どちらかとい え<sup>かん</sup>ば感じてい ない<sup>おも</sup>思う</p>	<p>しょうがい こと ぜんてい いろいろ うご 障害がある事が<sup>こと</sup>前提で<sup>ぜんてい</sup>色々<sup>いろいろ</sup>と<sup>うご</sup>動いているの で、<sup>かん</sup>どちらか<sup>こと</sup>という<sup>すく</sup>と<sup>すく</sup>感じる事は少ない。</p> <p>おや どうきよ あいだ よ <sup>こん</sup>親と<sup>ごどくりつ</sup>同居している<sup>こと</sup>間は<sup>よ</sup>良いが、<sup>こと</sup>今後<sup>こと</sup>独立して く <sup>こと</sup>暮らす<sup>ふじゆう</sup>事になると<sup>かん</sup>不自由さを<sup>かん</sup>感じて<sup>かん</sup>いくかも しれない。</p>

61	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じていると おも 思う	しょうがい たい りかい ひと おお 障害に対して理解している人が多くないか ら。
62	かぞく 家族	しんたいしょうがい 身体障害	かん 感じていると おも 思う	ちい ころ きんじよ まちいしゃ み 小さい頃は、近所の町医者では、診てもらえな い事が多かった。とくに、耳鼻科、皮膚科。じ っとしてられない。引っ越しをすると、声が おお 大きいなどでトラブルもあった。
63	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	どちらかとい えば感じてい るとおも 思う	おやぼな いっかん りよう 親離れの一貫としてショートステイを利用し ていたが、そういう理由での利用がコロナ以降 むずか 難しくなりました。
64	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じていると おも 思う	せつ ひと りかい ひと 接していない人は理解ができない人もいるの で、温かさはないと感じる。
65	かぞく 家族	はったつしょうがい 発達障害	かん 感じていると おも 思う	へん ひと おも 変な人って思われているその空気感がわかる とおも と思う。
66	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じていると おも 思う	じぶん きも かんが ひと ひょうげん 自分の気持ちや考えを人にうまく表現する ことが、苦手だったりできない事が多いから。
67	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	どちらかとい えば感じてい るとおも 思う	じぶんじしん ぶきよう じかく でき こと 自分自身、不器用だと自覚があり出来ない事の おお 多さなどにより不自由さは感じていると思 います。自分の行動や考え、感情などの表現が あいて うま つか こと ひょうげん 相手に上手く伝わらない事などに苛立ちなど があるとおも 思います。
68	かぞく 家族	はったつしょうがい 発達障害	かん 感じていると おも 思う	みみ き 耳が聞こえないため、車内放送がわからない。 しゅわ でき ひと さぎょうじよ 手話が出来る人が作業所にいなくて、いつも こどく 孤独。
69	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じていると おも 思う	どうさ 動作がゆっくりなので世の中のスピードに着 いていけない。理解が難しい事も多いのでサ ポートも必要。優しい気持ちで見てくれる人ば かりではない。 いま わたし げんき いっしょ せいかつ 今はまだ私も元気なので一緒に生活している が、親が高齢になってからの身近な世話がどこ かのう まで可能なのか。

				ぎょうせい サービスを利用して生活の質は下がってしまうのではないかと。
70	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	どちらかといえませんが感じていないと思う	つうしよさき しせつ 通所先の施設においては本人の特性を概ね理解していただいている。 まだ家族と同居していることもあり、地域での生活にも不便や疎外感を感じることは少ないのではないかと。
71	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	どちらかといえませんが感じていると思う	じぶん では全てのことに出来ないことが多いから。
72	かぞく 家族	せいしんしょうがい 精神障害	かんと感じていておもう	ひとりぐ 一人暮らしをしたくても、部屋を借りることがむずかしい。適切な医療を受けられないなど。
73	かぞく 家族	しんたいしょうがい 身体障害	かんと感じていておもう	びやういん 病院に行きづらい。 がいしゆつ 外出できない。
74	ほんにん 本人	せいしんしょうがい 精神障害	かんと感じていておもう	せいとう りゆう 正当な理由なく、若しくはある程度正当な理由をもって診察や契約などを断られるシーンは、多く起きていると思われる。それは事実だと思ふ。不自由さを感じている。 その半分くらいは、仕方ない面があり、そのもう半分のさらに半分は、誤解や偏見が原因で、残り4分の1は過剰な理解が「無理じゃないかな」と線を引かせている。その結果、我々は不自由さを感じている。
75	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障害	かんと感じていておもう	いどうしえん 移動支援のヘルパーが不足しているため事業所に通所できず困っている。
76	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障害	かんと感じていないと思ふ	しよくいん 職員に頼れるから。
77	ほんにん 本人	せいしんしょうがい 精神障害	かんと感じていておもう	びやういんじゆしん 病院受診で受診拒否をされたときは、大変驚きました。ご本人は何度か経験をされた事があるようでした。

				<p>生活保護で精神障害手帳をお持ちでしたが、何の障害もなければ仕事は出来、保険証も持てたでしょう。</p> <p>仕事が出来ない状態だから、国が保護費という形で援助してくれているだけなのに・・・</p> <p>受診拒否をする病院があることが、私にとってとても衝撃的でした。</p>
78	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じていると おも 思う	<p>社会福祉法人の職員でさえ、障がい者ファーストでなく、地域住民ファーストと考えているので、家族しか、本人を守れないと感じています。グループホームは、地域の理解がないと難しいと思います。</p>
79	かぞく 家族	はったつしょうがい 発達障害	どちらかとい えば感じてい ると思 う	<p>障害に理解のある病院へ通うために自宅から車で20分ほどの少し離れた所に通っています。(以前は車で40分)その方が本人も安心して診察を受けてくれるからです。</p> <p>習い事をしていますが、幼い頃、一番最初に相談した近くの教室では「対応できない」と言われ、少し遠いところに通っています。</p> <p>今まで幸い大きな災害にあったことはないですが、知的障害と自閉症で感覚過敏が強いため、本人の安定を考えれば決められた場所での集団での避難は難しいと思います。わがまと言われそうですが、どこまで行政が個別対応してもらえるかと心配になります。</p>
80	だいひつしゃ 代筆者	ちてきしょうがい 知的障害	どちらかとい えば感じてい ないと思 う	<p>今はそんなに困っていないから。</p>
81	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じていると おも 思う	<p>同じ福祉といっても、高齢者や子ども分野と比べて、理解が進んでいない事を日々の生活で感じているから。週末の余暇支援や移動支援が</p>

				<p>すく 少なく、週末は親が高齢になっただとしてもみていかなければならない。今後、自分が年齢をかかさ重ねて行った時に、多動の我が子をどこまで見られるか心配である。</p>
82	代筆者	身体障害	感じているとおも思う	<p>トイレに行きたいのに職員不足で1時間以上も待たされる。</p> <p>グループホームで自分の好きな時間に寝られない(時間が決まっている)ヘルパーさんとの関係があまり良くない。</p> <p>将来はひとり暮らしをしたい。</p>
83	支援者	身体障害	感じているとおも思う	<p>役所からの書類とか申請書の内容が難しいので、内容をわかりやすくしてほしい、ふりがなを振って欲しい。</p>
84	本人	精神障害	感じているとおも思う	<p>支援やサービスがあっても、行き届かないことが多い、生活の中で不便が不安を感じることもあると思うから。</p>
85	家族	知的障害	感じているとおも思う	<p>一人で移動することが困難。いつも誰かが付いてくれるとは限らない。</p>
86	支援者	精神障害	そう思う	<p>意思を上手く伝えられなかったことやいじめられたことなどの経験談を聞くし、現在も一人暮らしなどに対する不安や困りごとを持っている話なども聴く。</p>
87	本人	身体障害	どちらかといえば感じているとおも思う	<p>ヘルパーが障害者を理解していない。</p>
88	本人	精神障害	感じているとおも思う	<p>病院で出される薬が合わなくて、体が思い通りに動かなくなるときがある。</p>
89	家族	知的障害	感じているとおも思う	<p>親が高齢になり、障害の重い子どもの世話が、出来なくなった時、預ける先がない。近場のグループホームは軽度対象で、重度障害者は</p>



			おも 思う	などほんにん きず ことば な 等本人を傷つける言葉を投げかけられる。その ためにじしょうがい 為二次障害につながりさらに社会に入ること でき が出来なくなった。
101	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じていると おも 思う	ぎんこう いろいろ てつづ じ か こと でき ことわ 銀行の色々な手続きで字を書く事が出来ず断 られたケースがあります。 こうけんにん た てつづ だいぶじかん よう 後見人を立てたが手続きで大分時間を要した。
102	しえんしゃ 支援者	はったつしょうがい 発達障害	かん 感じていると おも 思う	けんこう ひと く たいへん よ なか 健康な人が暮らしていくのも大変な世の中な ので、障害を持っている人はそれ以上に生き づらさがあるのだとすいそく 推測します。
103	かぞく 家族	しんたいしょうがい 身体障害	かん 感じていると おも 思う	たと くやくしよ こうてききかん かんない 例えば区役所や公的機関によっては館内に てんじ かんせんどうろ ほどう 点字ブロックがない。幹線道路の歩道であつて も、自転車にとって危ないからと言う理由で、 じてんしゃ あぶ い りゆう 点字ブロックを設置してもらえない。 けんじょうしゃ かぞく い りゆう こうにゆう 健全者の家族がいるからと言う理由で購入 できない日常生活用具があり、受けられない サービスがある。
104	ほんにん 本人	せいしんしょうがい 精神障害	かん 感じていると おも 思う	かん おも 感じていると思うから。
105	ほんにん 本人	せいしんしょうがい 精神障害	かん 感じていると おも 思う	しょうがい おおや きよか お 障害があることで大家さんから許可が下りず ひ こ こと おお 引越してできない事が多いから。
106	かぞく 家族	はったつしょうがい 発達障害	かん 感じていると おも 思う	じたく てい きより すきま ながて 自宅からバス停までの距離がある。隙間が苦手 の の お じかん ほか かつ でバスの乗り降りに時間がかかり、他の方に めいわく ほうもんかいご りかい 迷惑をかけてしまう。訪問介護に理解のあるへ ルパーさんが見つかりにくい。自分の働く じょうけん しゅちょう りようしゃ よ そ 条件ばかり主張して、利用者に寄り添った、 せいかつ ささ しえん りかい 生活を支える支援を理解してくれていない。
107	しえんしゃ 支援者	その他	かん 感じていると おも 思う	かんきようせいび すず しょうがいたうじしゃ 環境整備を進めても障害当事者のためでは なく、こうれいしゃ しょうしや ふつう 高齢者やベビーカーの使用者が普通に しょう じぶん あ じぎょうしょ さが 使用していたり、自分に合った事業所などを探 してもこうちん う じぎょうしょ おお 工賃などを売りにしている事業所が多

				すぎるので見ている目線が違いすぎるから。
108	支援者	精神障害	感じているとおも思う	救急車で病院に向かったが精神障害の理由で断られた。
109	家族	知的障害	感じているとおも思う	障害者本人を見ていれば、わかります。
110	家族	発達障害	わからない	ヘルパーさんに登録しているので不便は感じないがそうでない人も居ると思う。
111	支援者	精神障害	感じているとおも思う	周りの理解が足りていないと感じるから。
112	本人	身体障害	感じているとおも思う	ガイドヘルパーの不足により、外出が困難なことがある。
113	支援者	精神障害	感じているとおも思う	病院での診察時に思いを伝えられなくなり不安なようす。
114	家族	知的障害	どちらかといえは感じているとおも思う	個々に困りごとが違うから。
115	支援者	身体障害	どちらかといえは感じているとおも思う	理解度の程度もあると思いますが、本人を見てみると日々楽しく生活できていると思う。
116	家族	発達障害	どちらかといえは感じているとおも思う	グループホーム、施設が少ないので入れません。
117	家族	知的障害	感じているとおも思う	障がいに対して一般市民の理解が足りないの で、特性などをわかってもらえず、我慢したり、 肩身の狭い思いを知ることが多々あると思う から障がいがあるからと諦めてしまうこと も多いと思う。当事者の持つ力を引き出して くれるような支援者、理解者が欲しい。
118	家族	知的障害	感じているとおも思う	とにかく人手不足を理由にして支援の手が足りていない。重度は特に手がかかるので、受け

				たいサービスが受けられない。
119	ほんにん 本人	しんたいしょうがい 身体障害	かん 感じていない おも と思う	せいかつ ひとりぐ ふじゆう かん 生活して（一人暮らし）不自由さを感じて いない。（せいかつかいごじぎょうしょ しゅうろうけいぞくしえん かたつうしょ そうだんじぎょうしょ 型通所、相談事業所がついている）
120	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障害	どちらかとい えば感じてい ないと思う	かん かん 感じているといえば感じているのかもしれないが、しょう ひと ひごろこま 障がいがない人も日頃困りごとや ふじゆう かん 不自由さは感じている。それは、とくだん しょう 特段「障がい」 ということにとつか 特化せず、それぞれがそれぞれの りゆう ほんせい 理由によって発生する。 とうじしゃ い ふだん じょうきょう こま 当事者で言えば、その普段の状況に困りごと とら と捉えていないかもしれない。
121	しえんしゃ 支援者	じゅうしょう 重症 しんしんしょうがい 心身障害	どちらかとい えば感じてい ると思う	しょう うむ だれ ふじゆう 障がいの有無にかかわらず、誰も不自由さ かん おも を感じることはあると思います。 ただそのかん かた 感じ方は、やりたいことがあるがそがい 阻害 されているときなどに感じるものであるとていぎ 定義 するならば、けんじょうしゃ かん ふじゆう 健常者の感じる不自由さとは ていど き おも 程度に差があるかと思います。 じゆう か もの い けんじょうしゃ ふじゆう 自由に買い物に行ける健常者はそこに不自由 さはかん 感じないかもしれませんが、みせ 店にあるもの じゆう こうにゆう ふじゆう かん のを自由に購入できないと不自由に感じるか もしれないです。いっぽうしょうがい ほう ふだん 一方障がいのある方は、普段 じゆう か もの い でき ばあい か 自由に買い物に行くことが出来ない場合は、買 い物にいつでも行けるようになればじゆう かん 自由と感 じるのではないかと思ひます。 けんじょうしゃ おな すいじゅん ものごと おこな 健常者と同じ水準で物事が行えるようにな ってきたらおな めせん ふじゆう 同じ目線で「不自由さ」についてかた 語 れるようなき 気がします。 あ まえ げんじょう そこが当たり前になっていない現状では けんじょうしゃ み ふじゆう かん 健常者から見れば不自由だと感じます。 ただじゆう かん 自由になったと感じるハードルはけんじょうしゃ 健常者 も かんかく ちが おも の持つ感覚とは違うように思ひます。

122	ほんにん 本人	せいしんしょうがい 精神障害	どちらかとい えば感じてい ると思う	しょうがい かいじ こうき けんお きょうふ ぼあい 障害を開示すると好奇、嫌悪、恐怖など場合に よって不愉快な感情をぶつけられることがあ る。
123	しえんしゃ 支援者	せいしんしょうがい 精神障害	かん 感じていると おも 思う	たんしんせいかつ かた きんせんかんり むずか 単身生活をしている方のなかで金銭管理が難 しく、飲み物も購入出来ない方がいらっしゃ います。 サービス利用も検討していますが他の方に 管理をされることに抵抗を感じているため、サ ービスを受けることが出来ずままならない 食生活を送っている方がいらっしゃいます。 就職をしても長続きしない方が多々いらっ しゃいます。精神面の波があり、行かないと、 とわかっているが行けない、家から出ることが 出来ない等。対人関係がうまくいかず悩まれて いる方も多々いらっしゃいます。
124	ほんにん 本人	しんたいしょうがい 身体障害	かん 感じていると おも 思う	わたし いぜん す し もど 私は以前住んでいた市に戻ってきましたが、 バリフェスなどの関係で、不動産屋さんとのつ ながりもあったので、すぐ入居できましたが、 住宅改造が1回しか使えないことや、その人の しょうがい あ せいど すく 障害に合わせた制度が少ないことなどが挙げ られます。重度訪問介護が地域で使えるところ もあるので、仕事中に使えるともっと生活しや すくになると思います。
125	しえんしゃ 支援者	た その他	どちらかとい えば感じてい ると思う	しょう がい のある方の望むことが社会の一員とし て生活するうえで、どうしても制約がかかって しまうため。
126	しえんしゃ 支援者	しんたいしょうがい 身体障害	かん 感じていると おも 思う	せいしんしつかん ちてきしょうがい わか りようしゃ 精神疾患、知的障害などの若い利用者にはハ ラスメントなども多く、女性のヘルパーを派遣 することがためらう時が多い。就労者の安全 たんぼ いらい ことわ 担保のため、依頼を断っている。

127	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じていると おも 思う	しょうがい 障害があるせいで、しょうがい 障害があっても診てくれ る病院と診てくれない病院がある。 診てくれないのなら、ホームページ等に 障害者お断りと載せてほしい。
128	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じていると おも 思う	どこに行くとしても、対応可能であるか、苦勞 して理解のある所を探して繋がっている。
129	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じていると おも 思う	特に病院などでは怖いのが先に立ってしまいパ ニックになっている状態になりやすい。また 日常でもちょっとした変更でパニックになっ てしまう。パニックになっている状態を理解 して欲しい。わかってほしい。支えてほしい。
130	しえんしゃ 支援者	せいしんしょうがい 精神障害	かん 感じていると おも 思う	ヘルパーさんが足りないな。最近ヘルパーさん 来てないんだ。買い物に困っています。グルー プホームで土日のこと。
131	しえんしゃ 支援者	その他	かん 感じていると おも 思う	社会資源の不足が、ニーズに即応できないた め。
132	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じていると おも 思う	土曜日、食事（を作ってくれる）のヘルパーさ んがいない。お金（の管理）が時々できない。 足が悪くてバスの上のところにつまずくから 乗れない。電車はエレベーターがついている。 ひとりじゃ行けないけどヘルパーさんと行け る。バスは乗れない。前は乗れていたよ。ミュ ージアムへ行きたい。でも行かれない、ヘルパ ーがいないよ。
133	ほんにん 本人	せいしんしょうがい 精神障害	どちらかとい えば感じてい ると思う	ひとめでわかりにくい障害のため、配慮されな いことが多い。特に仕事において周りに理解さ れないことが多く生きづらさを感じる。
134	しえんしゃ 支援者	せいしんしょうがい 精神障害	かん 感じていると おも 思う	支援で関わった方、支援をしている現在でも、 他分野の支援者から偏見を感じた事がありま す。「精神障害者だから」と住いを断られた

				り、受診自体を断られたりと日々感じる事があります。
135	支援者	知的障害	感じているとおも思う	ハード面でのバリア（わかりづらい表記や段差など）や差別的な対応、金銭的な不自由さなど多岐に渡り不自由さを感じていると思われる。
136	本人	身体障害	感じているとおも思う	聴覚障害者では音声全てが見える形になっていない。 手話で話すときの限界（相手が知らない等）、聴覚障害者に対する理解の限界を感じる。
137	家族	発達障害	感じているとおも思う	本人にしかわからない不自由さを理解できないという人が家族にもいるから。 本人が常に劣等感を感じて、自分が社会や家族の一員として認められていない、もしくは煙たがられていると思込んでいる。
138	本人	発達障害	どちらかといえ感じているとおも思う	言葉でのコミュニケーションが難しいということはあるが、基本的には、変わらないと思込んでいるから。
139	家族	発達障害	感じているとおも思う	障害児が遊べる公園は少ない。 小学校に行くまでの移動が一人でできない。
140	本人	その他	感じているとおも思う	パートの契約をした後、大家さんは何かわからないですが、いきなり断られた経験があります。凄く困りました。私だけでなく、他の者も同様な状況になっていたことがありました。 パート・アルバイトについて 生活の為、パートとかアルバイトをしたいのに、ほとんど断られています。かなり厳しい状況です。 避難場所について どんなことが起きても、避難場所へ足を運ばない方もいます。私はまだ経験なしなので、実際

				<p>起きた場合にはやむなく、我慢するしかないし、避難場所へ行くだろうが、ストレス、精神的には無理と考えられます。</p> <p>地区には手話ができる方がほとんどいない。付き合いも滅多にないです。</p>
141	本人	身体障害	感じているとおもう	<p>人の意識も含めた社会に障害があるから。</p>
142	家族	発達障害	感じているとおもう	<p>本人はなかなか理解できないことが多い様で、その場面はできるだけ避ける様に過ごしている。</p> <p>家族もできるだけ手を伸ばさないようにしているが、時々混乱する事がある。</p>
143	支援者	発達障害	感じているとおもう	<p>最重度または重度のお子さんは、受け入れ先がなく困っていると保護者達から話を受けています。また、近所の理解が得られず、引っ越しを余儀なくされた保護者もいました。行動障害が強い方は特に家族も本人もストレスのかかる生活を送っているようです。</p>
144	家族	重症心身障害	わからない	<p>病院で診療を断られたことはありませんが、心無い言葉で悲しくなったことはあります。</p>
145	支援者	精神障害	感じているとおもう	<p>なかなか理解されない、間に相談員や家族が入って説明しないとうまくいかないとの話を聞きます。就労賃金も最低賃金に満たない、働く場所も少ない、一人で外出できないのに家族やヘルパーが見つからず、外出が出来ないとよく聞きます。</p>
146	支援者	精神障害	感じているとおもう	<p>民間のお部屋を借りる時等、障害を理由に断られるとおもいます。</p>
147	支援者	重症心身障害	感じているとおもう	<p>重度の医療的ケアを持たれる方が通える場所を増やしてほしい。もしくは、重度の在宅サー</p>

				<p>ビス等の社会資源が足りておらず、実際には家族や事業所に委ねている事が多く感じる。医療的ケアが必要な特別支援学校の学生さんの進路の選択肢が限られている。選ぶというよりは通える場所を確保出来るかどうかと迫られている。</p> <p>医療的ケアを必要とされる方が新卒時ではなく、途中で他生活介護事業所に選択することが難しい状況なため、本人さんの選択意思よりも、まず通える場所の確保が先決になっている。</p>
148	支援者	知的障害	感じているとおもう	<p>障害者でなくとも不自由さを感じているので、障害者も感じているはず。</p>
149	家族	知的障害	感じているとおもう	<p>将来の生活場所や生活支援が確保されていない。</p>
150	支援者	精神障害	感じているとおもう	<p>精神障害や発達障害への理解はまだ足りていないと思います。交通事故と同じように誰が障害を持ってもおかしくないものだと社会で受け入れる姿勢が必要です。</p>
151	支援者	知的障害	感じているとおもう	<p>病院で診察を断られた。障害特性のために警察を呼ばれた。体調の不調を表出できず、支援者が気づいたときはかなり進行していた。希望を聞いても支援者がキャッチできないなどなど……。ひょっとするとご本人は不自由と感じていない可能性もありますが……。それにすら気づいていないかも。</p>
152	支援者	身体障害	どちらかといえば感じているとおもう	<p>未就学の障害児がいる家族で、本人の通える施設がなく、また兄弟も通える施設がなく、母親が精神的にも追い込まれているケースが</p>

				ある。経済的な負担などもある状況です。 社会的資源の活用もしていますが、より当事者の立場に寄り添った対応が必要と思われるケースが今あります。
153	代筆者	精神障害	どちらかとい えは感じてい ると思う	将来親がいなくなった時の不安。結婚できるか不安。
154	本人	精神障害	感じていない と思う	とくに生活に不便は感じない。
155	本人	精神障害	どちらかとい えは感じてい ると思う	本人を交えて分かりやすく、かみ砕いて説明をしてほしい。
156	支援者	知的障害	感じていると 思う	以前に比べて社会の理解、受入れ状況に広がりが見られるようになったと思うが、まだまだ偏見的な見方や差別等を感じる事がある。又、障がい当事者に対する情報が必要な方に、必要な形（障害特性に配慮されない）で届いていない印象を受ける。
157	本人	精神障害	どちらかとい えは感じてい ると思う	軽度か重度かによりますが、重度の人は困りごとや不自由さを感じていると思います。私自身は友人から距離をとられ、詐欺ばかりが距離を詰めてくるので困っています。孤独に陥った人に詐欺、占い、リーディングやスピリチュアル、政党関連、宗教関連などが親しい友人のように近づいてきます。孤独でさみしいですのでいように利用されます。
158	本人	精神障害	感じていると 思う	他人の偏見を考慮してしまい積極的に行動できない。通院、服薬を続けなければならない。
159	支援者	知的障害	どちらかとい えは感じてい	気づいていない方も一定数いますが理解されている方もいます。ヘルプマークつけています

			<p>おもう  <small>おも</small> と思う</p>	<p>がおおぜい かた つ      が大勢の方が付けているようになったので  <small>りかい ひく おも</small>      理解は低いと思います。</p>
160	<p>かぞく      家族</p>	<p>はったつしょうがい      発達障害</p>	<p>かん      感じていると  <small>おも</small>      思う</p>	<p>せいかつ      生活のほとんどに人の手を借りなければなら  <small>ひと て か</small>      ないが、親以外の人手がない。  <small>おや いが い ひとで</small>      親が高齢化して動けなくなると我慢しなければ  <small>おや こうれいか うご がまん</small>      ならないことだらけになる。</p>
161	<p>だいひつしゃ      代筆者</p>	<p>ちてきしょうがい      知的障害</p>	<p>かん      感じていると  <small>おも</small>      思う</p>	<p>じたく せいかつ つづ      自宅での生活を続けていきたいのに、ヘルパー  <small>すく しやくしょ しょくいん</small>      さんが少ないし、市役所の職員さんからそん  <small>じかん で い</small>      なに時間が出ないと言われた。</p>
162	<p>しえんしゃ      支援者</p>	<p>せいしんしょうがい      精神障害</p>	<p>どちらかとい  <small>かん</small>      えば感じてい  <small>おも</small>      ると思う</p>	<p>わたくしども しえんしせつ しょくいん さいきん こうれいか      私共は、支援施設の職員です。最近では高齢化  <small>すす ひとりぐ かた おお い</small>      が進み一人暮らしの方が多くなり生きづらさ  <small>かん かた おお</small>      を感じている方が多いです。</p>
163	<p>ほんにん      本人</p>	<p>はったつしょうがい      発達障害</p>	<p>かん      感じていると  <small>おも</small>      思う</p>	<p>こちらでいう「障がい者」に当てはまらないか  <small>しょう しゃ あ</small>      もしれませんが。部屋がゴミ屋敷のようになって  <small>へ や やしき</small>      いるのに、助けを求める手段がわからずに困  <small>たす もと しゅだん こま</small>      っている人を知っています。障害のためかご  <small>ひと し しょうがい</small>      病気なのか、ご本人は自分で何でも出来ると思  <small>びょうき ほんにん じぶん なん で き おも</small>      っていて、周囲にもそういう風に言ってしまう  <small>しゅうい かぜ い</small>      ので、必要な援助を受けられないままゴミが家  <small>ひつよう えんじょ う</small>      の外まであふれ、洗濯もできずお風呂も入って  <small>そと せんたく ふろ はい</small>      いない状態が長く続いています。  <small>じょうたい なが つづ</small>      必要なものがいつも見当たらずに困っている  <small>ひつよう み あ こま</small>      る、と話していて、そういう時はどこからか  <small>はな とき</small>      泥棒が侵入して盗まれた、と話します。  <small>どろぼう しんにゅう ぬす はな</small>      必要な診断すら受けられない状況（ご本人に  <small>ひつよう しんだん う じょうきょう ほんにん</small>      しょうがい びょうきなど じかく      障害や病気等の自覚はない）なのがもどかし  <small>しょうがい びょうきなど じかく</small>      いのですが、今後も大変な生活をされると思い  <small>こんご たいへん せいかつ おも</small>      ます。この方は未診断ですが、置かれている  <small>かた みしんだん お</small>      状況は困難を極め、まさに「障害」の中で生  <small>じょうきょう こんなん きわ しょうがい なか い</small>      きていると感じます。  <small>かん</small>  <small>ほか はったつしょうがい しんだん う ちじん</small>      他の発達障害の診断を受けた知人ですが、</p>

				<p>たんじかんきんむ きぼう しゅうい はいりよ ひつよう 短時間勤務を希望していて、周囲の配慮を必要 としているので、「行政サービスがあるよ」 「障害者雇用もあるよ」とお知らせしても、 「障がい者支援課」という表現に抵抗がある らしく、自分が障がい者と言われることが耐 え難く感じ、ハードルが高いようです。(私的 には以前よりすごくオープンになったと感じ ていますが。)「障がい者」に属すると、どこか ちが せかい ひと おも かん 違う世界の人に思われてしまうと感じるよう です。</p> <p>また、自分のようなものが社会保障を受けてい いのか申し訳なく、楽しんで得をしていると思わ れるのではないかとの負い目がある。というよ うな事も言っていました。ご本人は現在も しょうがい しょうがいしゃ ぞく 障害をオープンにしないままで就職活動を つづ ほんん おお はい 続けていますが、殆ど落とされるか、入っても きんむじかん にんげんかんけいとう きび かんきよう 勤務時間や人間関係等が厳しすぎる環境の しよくば や え こと おお こま 職場で辞めざるを得ない事が多く、困っている ようです。</p>
164	ほんにん 本人	せいしんしょうがい 精神障害	どちらかとい えば感じてい ると思う	<p>し 知らなかったりで利用していないことはある と思う。しょうがい も かぞく し 障害持ちを持つ家族も、知らないで りよう おお おも 利用していないサービスは多いと思う。これ は、しょうがい も ふつう しみん 障害持ちでなくても、普通の市民でも、 ぎょうせい し りよう ひと 行政サービスを知らなくて利用していない人 がおお おな じじょう おも りよう とうじしゃ が多いのと同じ事情だと思う。利用する当事者 にならないと、そのサービスの存在を知らな い、そういう構造が、ぎょうせい 行政サービスにはある。 たと じちかい わか ひと さんか 例えば、自治会に若い人が参加しないとか、 しょうがいがくしゅうせつ そんざい し 生涯学習施設の存在を知らないとか。</p>
165	ほんにん 本人	しんたいしょうがい 身体障害	かん 感じていると おも 思う	<p>ひとでぶそく ねが おお 人手不足でお願いできないことが多い。</p>

166	ほんにん 本人	せいしんしょうがい 精神障害	かん 感じていると おも 思う	しょうがいねんきん しんせい きやつか うえ ねんきん 障害年金の申請を却下された上に、年金 じむしょ たんとうしゃ わたし たい ひつよう しよるい 事務所の担当者が私に対して（必要な書類が か してき ひじょう こうあつてき たいど 欠けていると指摘して）非常に高圧的な態度で せつ ひじょう ふゆかい 接してきました。非常に不愉快でした。 また、わたしは（いずれもてちょう かいじ うえ 私（は）は（い）ず）れ（も）手帳を開示した上での にゅうしゃ かいしゃ たんきりしよく 入社でしたが）4つの会社を短期離職するこ とを強いられました。さらに、わたしはしやくしょ 市役所において、過去に、就労移行支援事業所をへんこう 変更しよ うとしたら、なぜじぎょうしょを 変えるのかと、変え るのよはよくないことだといわんばかりの態度 たいど で担当者が私に接してきました。私は事業所 に おける くんれん くつう たお 訓練が苦痛で倒れたにもかかわらず、 です。そのようなもの言いはふゆかい 不愉快でした。
167	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じていると おも 思う	たしゃ そんちよう う 受け入れ共に生きる 他者を尊重することや、受け入れ共に生きる しやかいぜんたいてき きはく ということが社会全体的に希薄。
168	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じていると おも 思う	おや あと しょうらい ふあん はなし き 親なき後、将来への不安な話をよくお聞きし ます。あつとうてき す み 圧倒的にマッチした住まいが見つかりづ らいです。
169	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じていると おも 思う	ふじゆう かん こと でき ほどじゆう 不自由さを感じる事が出来ない程自由を し 知らない方が多くいる段階かと。具体的な ふじゆう かんきょうとう じよじよ かいぜん 不自由さ（環境等）は徐々に改善はされている かん と感じている。
170	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じていると おも 思う	がいしゅつ かず た がいしゅつ 外出したいけど、ヘルパーの数が足りず外出 もままならないことがあったり、りようしゃ たいはん 利用者の大半 の方は困っている？ということにじかく な 自覚が無か ったりすることをた たかん 多々感じるがあります が、しょうがいしゃ ちいきせいかつ ささ 障害者の地域生活を支えるためには がいしゅつ ほうもん きょうか ひつよう おも 外出、訪問のサービスの強化が必要かと思う。
171	しえんしゃ 支援者	せいしんしょうがい 精神障害	かん 感じていると おも 思う	いろいろ けいやく ほっせい ことがら かん ことわ 色々な契約が発生する事柄に関して、お断り う を受けることが多い。見た目とは異なり、でき

				<p>のうりよく る能力はあるができないことが周囲に伝わり にくい。</p>
172	支援者	知的障害	<p>かん 感じていると おも 思う</p>	<p>いろいろ ふじゆう 色々と不自由さはあるが、やはり支援が必要な ひと 支援が行きわたらないことが一番の ふじゆう おも 不自由さだと思う。ひとりでは日中の通所先 に行けない人がいるのにヘルパーが不足して いるという理由から利用できず在宅生活を よぎ 余儀なくされることが非常に多い。 かぞく かいご 家族が介護できなくなり誰かの支えなしでは 生きていけない人は障害者支援施設(いわゆる にゆうしょしせつ 入所施設)やグループホームで支援を受け ながら生活していく、もしくは、自宅にヘルパ ーに来てもらって支えてもらわなければなら ないが、国は入所施設はもう建設しない。その かわりにちいき 代わりに地域にグループホームを増やすとい りっぱ ほうしん かか う立派な方針を掲げているが、新設のグループ ホームはすでにあたまう 頭打ちになっており、それどこ ろか既存のグループホームであってもしよくいん 職員が ひへい つぎつぎ りしよく 疲弊して次々に離職していく状態でその存続 すらあや 危ぶまれている。欧州の福祉の仕組みを と い かって 取り入れるのは勝手だが、地域で暮らすにはお かね くに ないがし 金がかかることを国は蔑ろにして職員一人 ひとりのきもちにたよ 頼り過ぎでは地域生活など じつげん 実現するわけではないことを真剣に考えてもら わないと、しょうがい も ひと 障害を持った人たちの不自由さは えいえん かいけつ 永遠に解決されない。</p>
173	支援者	精神障害	<p>かん 感じていると おも 思う</p>	<p>せいしんしょうがいしゃ しせつ すく 精神障害者の施設が少ない(グループホーム、 いえ たいおう むずか ほう う ざら すく 家で対応が難しい方の受け皿が少なく社会的 にゆういん おお 入院が多くなっている現状)。</p>
174	支援者	重症心身 障害	<p>かん 感じていると おも 思う</p>	<p>しゃかい 社会モデルとしての障害が多いと感じている ので。</p>

175	支援者	身体障害	どちらかとい えは感じてい ると思う	いろいろな場面で制約されることが多いから。
176	支援者	その他	感じていると 思う	障害者本人だけではなく、ご家族様、周囲の支援をされている方々も不自由を感じていると思います。
177	支援者	その他	感じていると 思う	自ら訴えたいことが思った通りに伝えられない、伝えたい言葉が見つからないなど、自分の考えを発信するだけでも難しいケースは多くあると感じ、上手に支援できるヘルパーや体制などが地域によっては整っていない箇所があるように思える。一相談員はもちろん、事業所や市町村単位だけでは不十分だと思うので、国が先導して障害福祉の発展を推し進める必要があると考える。
178	支援者	精神障害	感じていると 思う	経済的に困っている人が多い。 一人暮らしができない。
179	家族	知的障害	感じていると 思う	ただ、挨拶をしようと思って近づいただけで怒られた。
180	支援者	知的障害	感じていると 思う	通院できる病院が少ない。 外出するのが難しい。宿泊できる場所が少ない。介助者が少ない(事業所も含め)。
181	代筆者	身体障害	わからない	ないないと考えるよりも、あることに感謝をして、より環境が増えていくように考えているので。
182	家族	発達障害	どちらかとい えは感じてい ると思う	制度を利用したいのに、気軽に相談できるようなシステムになっていない。どこに連絡したら、制度の説明をしてもらえるかわからない。
183	支援者	知的障害	どちらかとい えは感じてい	障がい者は、3種類ございますが、精神障がい者、身体障がい者に関しては、諦めてしまう

			<p>おもう        と思う</p>	<p>こと たた おも        事が多々あるかと、思います。</p> <p>ヘルパー ぶそく たく かん        ヘルパー不足などが特に感じていると以前お        はなし き ござ        話を聞いたことが御座います。</p>
184	かぞく 家族	しんたいしょうがい 身体障害	<p>どちらかとい        えば感じてい        ると思う</p>	<p>せいめいほけん かにゅう        生命保険に加入できません。</p>
185	しえんしゃ 支援者	た その他	<p>かん        感じていると        おも        思う</p>	<p>こんざつ えき かいだん        混雑している駅のホームや階段など。ホームか        てんらく えき さく せっち        ら転落しないようにどの駅も柵を設置してほ        しい。</p>
186	かぞく 家族	しんたいしょうがい 身体障害	<p>かん        感じていると        おも        思う</p>	<p>うた じっさい つか        バリアフリーと謳っていても実際には使えな        ところ おお けんじょうしゃ かんが はんだん        い所が多い。健常者が考え、判断したことで        ほんとう い み りかい おも        は本当の意味の理解ではないと思うことが多        いから。</p>
187	しえんしゃ 支援者	じゅうしょうしんしん 重症心身 しょうがい 障害	<p>かん        感じていると        おも        思う</p>	<p>しょうがい ひと        障害の人もコミュニケーションをうまくとれ        ひと        る人もいればとれない人もいる。</p> <p>たいちょう よ ひ わる ひ せいかつ        体調が良い日もあれば悪い日もあり生活する        くのう        のに苦労している。</p>
188	しえんしゃ 支援者	せいしんしょうがい 精神障害	<p>かん        感じていると        おも        思う</p>	<p>せいしんしょうがい かと み つた        精神障害の方は見かけではわからず、伝えた        つた こんらん        いことがうまく伝わらず混乱することで、相手        いや げんどう こま        に嫌な言動をされ、困ることがある。</p>
189	しえんしゃ 支援者	せいしんしょうがい 精神障害	<p>かん        感じていると        おも        思う</p>	<p>けんじょうしゃ くら こと        健常者と比べてしまう事。</p> <p>しゃかいしげん ふそく        社会資源が不足している。</p>
190	ほんにん 本人	しんたいしょうがい 身体障害	<p>かん        感じていると        おも        思う</p>	<p>けんじょうしゃゆうせん しゃかい つね しょうがいしゃ けんきょ        健常者優先の社会なので、常に障害者は謙虚        いた め        でなければ痛い目にあう。</p>
191	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障害	<p>どちらかとい        えば感じてい        ないと思う</p>	<p>しょうがいしゃ けんりりかい きゅうそく かいぜん        障害者の権利理解は急速に改善されていま        こうれいしゃ いちぶ みんかんきぎょうがい かがた        す。高齢者の一部や民間企業以外の方々        きょういくしゃ やくしょ まどぐち りかい す        (教育者、役所の窓口など)の理解が進んでい        ないように感じられます。</p> <p>たく かながわけん すいしん        特に、神奈川県で推進していますインクルーシ        きょういく おお もんだい せいど        ブ教育については大いに問題があり制度だけ</p>

				<p>をつくって、その後のフォローが出来ていないため、担当教員が疲弊しています。最大の被害者はインクルーシブ教育を選択した障害者です。教育委員会を中心とした障害者への不理解は早急に改善すべきだと思います。</p> <p>また、過度な養護論は、逆差別が生じる危険性があります。</p> <p>あくまで平等にすることが肝要であり、人が平等に持っている権利と義務を理解する中で政策を進めてください。</p>
192	支援者	知的障害	感じているとおもう	<p>放課後等デイサービスの利用を希望する方が多い中、事業所不足を感じます。株式会社の参入が多く、本来の目的が薄れているように感じます。</p>
193	本人	精神障害	感じているとおもう	<p>認知行動療法やSSTなど、医療が必須と認識していない点や支援者、家族や周囲の情報不足。知的障害や精神疾患の方には必要な治療とリハビリだと感じます。</p> <p>そして、理解されてそれで、関わる事が出来ない判断され契約時の解除の部分を盾に支援から離れる。</p> <p>どこに相談して良いのかわからない。</p>
194	支援者	知的障害	感じているとおもう	<p>ヘルパーが足りない。</p> <p>中でも意識の高いヘルパーがまた少ない。</p>
195	支援者	発達障害	感じているとおもう	<p>まだ環境的にも整っていない場所が多いから。</p>
196	支援者	知的障害	感じているとおもう	<p>人的資源、ハードの資源も、障がいのある方が、十分にサポートを受けられる社会ではないから。</p>
197	家族	発達障害	感じているとおもう	<p>行政サービスはあらゆる面で確保されている</p>

			おも 思う	<p>いっけんおも ちいき しせつじじょう          ように一見思えるが、地域の施設事情などによ          り不便さを感じる地域も多い。          なに まんしつ まんいん う い          何より、満室や満員で、受け入れてもらえない          のは歯がゆい面が感じられる。特に、国の方針          で、社会に溶け込んで（インクルーシブ）行く          という方針で入所施設が増えない現状は、          ほうしん にゆうしよしせつ ふ げんじょう          家族を苦しめていると思う。</p>
198	しえんしゃ 支援者	その他	かん 感じていると おも 思う	<p>しょう 障がいがあることでアルバイト先が見つから          ない、身近の紹介でしかアルバイト採用がな          い。</p>
199	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じていると おも 思う	<p>しょうがいしゃ たい りかい すく          障害者に対する理解が少ない。</p>
200	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じていると おも 思う	<p>じゅうどしょうがいしゃ やまなか しせつにゆうしよちゅう          重度障害者で山中の施設入所中であれば、          かぞく じゆう あ す た          家族と自由に会えない。好きなものが食べられ          ない。ひつようじょう こうどう せいげん          必要以上に行動が制限されている。</p>
201	しえんしゃ 支援者	せいしんしょうがい 精神障害	どちらかとい えば感じてい ると思う	<p>こ こ とら かんかく げもん          個々に捉える感覚がそれぞれで、場面ごとに          へんか          変化するかもしれないと思いますが、感じてい          る方もいると思います。</p>
202	かぞく 家族	しんたいしょうがい 身体障害	みきにゆう (未記入)	<p>さいわいにも むすこ ばあい いま こと かん          幸いにも息子の場合、今はそのような事を感じ          ずることはありませんがこれから高齢になれ          ばだんだんで おも          ば段々出てくると思います。          また なかま なか かん ひと          又、仲間の中にはすでに感じている人はいると          おも          思います・・・</p>
203	ほんにん 本人	その他	どちらかとい えば感じてい ると思う	<p>じっさい し あ しょう しゃ ふじゆう おも          実際に知り合いの障がい者から不自由な思い          を耳にしたことがあるので。</p>
204	かぞく 家族	せいしんしょうがい 精神障害	かん 感じていると おも 思う	<p>しょう 障がいへの理解不足により、地域社会、親戚等          にオープンにできないストレスを感じている          ほんにん かぞく おお          本人、家族が多い。</p>
205	かぞく 家族	はったつしょうがい 発達障害	どちらかとい	<p>じゅうどじへいしょう み          重度自閉症のため見られるヘルパーがいない</p>

			えば感じてい ると思 う	のか、毎回支援するヘルパーがいないと受けて もらえない。人材不足なのか。
206	かぞく 家族	じゅうしょうしんしん 重症心身 しょうがい 障害	どちらかとい えば感じてい ると思 う	おやな 親亡きあとの もんだい 問題で やかん 夜間も せわにん 世話人がいるグル ープホームを検討して、行政も積極的に参加 してほしい。
207	かぞく 家族	せいしんしょうがい 精神障害	かん 感じていると おも 思 う	しょうがい 障害があるから ていちんぎん 低賃金で はたら 働かざるを得ない じょうきょう 状況 なか 中で けいざいてきしゃかいてきじりつ 経済的社会的自立の こんなん 困難がある。
208	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じていると おも 思 う	そもそも制度や支援についての理解が十分で なかつたり、「申請」できないことにより制度が い 生かされていないケースが少なくないと思 い ます。現実問題としてヘルパーさんも足りない とおも います。
209	ほんにん 本人	ちてきしょうがい 知的障害	どちらかとい えば感じてい ないと思 う	しょうがいしゃ 障害者に対する たい 対応は たいおう それほど わる 悪くないと思 おも います。
210	ほんにん 本人	せいしんしょうがい 精神障害	かん 感じていない おも 思 う	スタッフや訪問看護などのサポートがあるの こま で困ってはいないと思 おも う。
211	だいひつしゃ 代筆者	しんたいしょうがい 身体障害	かん 感じていると おも 思 う	ひなんばしょ 避難場所では ひとり 一人では なに 何もできない。
212	ほんにん 本人	しんたいしょうがい 身体障害	かん 感じていると おも 思 う	いっしょ 一緒にボランティアをしている方の親(母)の しょうがい 障害がひどくなり風呂の介助が大変で腰を痛 めボランティアにも出てこれなくなり施設 への入所が大変なことを知りました。
213	ほんにん 本人	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じていると おも 思 う	おや 親が契約して子どもの しょうがいしゃ 障害者とは けいやく 契約したく ない。精神の人はアパート仲間から断られる せいしん 精神の人は ひと アパート なかま 仲間から ことわ 断られる き と聞いている。
214	だいひつしゃ 代筆者	ちてきしょうがい 知的障害	どちらかとい えば感じてい ると思 う	なかなかうまく言えないから。
215	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じていると	グループホームで生活して、週末は実家、しか

			おも 思う	しゅうだんせいにかつ にがて ひとり す たす し 集団生活は苦手。一人で住んで助けてくれ る人たちに援助してほしい。
216	ほんにん 本人	しんたいしょうがい 身体障害	どちらかとい えば感じてい ると思う	まえ やくしょ せいど せいど ていあん 前は役所からこういう制度があると提案され りよう 利用しましたが、近年は本人から言わないとだ め。役所の対応？！
217	ほんにん 本人	しんたいしょうがい 身体障害	どちらかとい えば感じてい ると思う	げんざい ふつう せいにかつ おく ねんれいとう 現在は普通の生活を送っているが、年齢等によ り ほうこうこんなん ばあい しせつ とく にゅうしょ り 歩行困難になった場合、施設（特に入所 しせつ しせつ にゅうしょ しんばい 施設）にスムーズに入所できるか心配だ。
218	かぞく 家族	せいしんしょうがい 精神障害	かん 感じていると おも 思う	か もの い いくとき いえ とお 買い物に行くとき、家から遠いスーパーなら きらく と ほけんない みせ し ひと おお 気楽だが徒歩圏内の店は知っている人が多 ぎで入りづらい。陰口を言われることがある。
219	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じていると おも 思う	グループホームでの季節に合わせての衣類の きせつ あ いるい チェック不足。部屋や水回りのチェック。皮膚 ぶそく へや すいまわ ひ ふ が弱いので風呂上りでの皮膚の様子を見逃し よわ ふろあが ひ ふ ようす みのが てしまい悪化する。
220	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じていると おも 思う	しょうがいしゃほんにん こうれい とき いばしょ 障害者本人が高齢になった時の居場所や しえんしゃ かか じゅうじつど し 支援者の関わりの実度を知りたい。
221	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じていると おも 思う	しょう じ まで てあつ ひかくてき かん 障がい児までは手厚く（比較的）感じます。が、 しえんしゃ しゃ となった とき い たため みち 障がい者となった時から生きていく為の道は とて すす かん とても少なく感じています。
222	だいひつしゃ 代筆者	ちてきしょうがい 知的障害	どちらかとい えば感じてい ると思う	グループホームの職員の入替わりが激し しよくいん い か はげ い。長く勤める職員が少ないので関係性が作 なが つと しょういん すく かんけいせい つく れず相談が出来なくて困ることがある。
223	しえんしゃ 支援者	た その他	どちらかとい えば感じてい ると思う	につちゅういちじしえん いどうしえん ほごしゃ すこ 日中一時支援や移動支援など保護者が少し ちから か とき しげん ふそく 力を借りたい時の資源が不足している。
224	しえんしゃ 支援者	た その他	かん 感じていると おも 思う	さまざま こま かん かか ひと ひと め み 様々な困り感を抱えている人がいて、ひと目見 ただけではわからないといった方も多く周囲 かた おお しゅうい から孤立してしまうこともあります。理解不足 こりつ りかいふそく はすぐに解決できるような簡単な問題ではあ かいけつ かんたん もんだい

				りませんが障害福祉業界や社会が努力すべき点だと感じます。
225	支援者	その他	感じているとおも思う	興味関心そのまま置き物などに手をのばしたり、他の人に触れたり定型発達の子と違う動き(行動)をとることにより、周囲の人が行動を理解できず、表情や態度が悪くなっていることがあると思う。その姿を見て保護者が困ったと感じるのではないか。
226	支援者	その他	感じているとおも思う	障がいのあるお子さんが安心して過ごせる場所、預け先時間が限られていることにより、ご家族(主に母親)が日常生活(通院や買い物)に難しさがあると感じる。
227	支援者	その他	感じているとおも思う	美容室の予約を断られると良く聞きました。
228	支援者	その他	感じているとおも思う	社会全体に合理的配慮が浸透しきれていない。
229	家族	発達障害	感じていないとおも思う	我が家の場合は、社会資源を使って一人でアパートで生活していますので、いろいろな方に助けをいただいています。
230	家族	身体障害	どちらかといえは感じていないとおも思う	道路が整備されていない所で歩きづらさを感じます。
231	代筆者	知的障害	感じているとおも思う	外出したいが事業所が移動支援サービスを行っていないので困る。
232	支援者	知的障害	感じているとおも思う	身近にいないので実感があまりないが不便なのだろうと思う。
233	家族	発達障害	感じているとおも思う	外出し、普段生活し慣れている所からでみると、とても強く感じます。(介助している私たちがそう感じるので、本人はなおそう感じていると思います。)

234	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じていると おも 思う	こくれんけんしょう あしかせ 国連憲章が足枷になっているのと しょくいんぶそく 職員不足 でにゅうきよしせつ ていんぞう しんき せつりつ で入居施設が定員増や新規に設立ができません。 しかしにゅうきよま なんじゅうにん げんじつ 入居待ちが何十人もいる現実を ちやくし こま ひと へ 直視しないと、困っている人が減らないし、 さいあく きつりく 最悪、殺戮になってしまうひげきあと 悲劇が後をたちませ ん。
235	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	どちらかとい えばかん 感じていると おも 思う	うちのこ しせつ せわ の子は施設でお世話になっているのでお かけさまでふじゆう かん 不自由は感じていませんがじたく 自宅で せいかつ なかま びょういん う い 生活している仲間からは病院の受け入れを ことわ き 断られるとよく聞きます。
236	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	感じていると 思う	せいど とうじしゃ ひつよう おも 制度が当事者に必要と思うものになっていな い。サービスのていきょう じゅうぶん 提供が充分でない。施設の りよう ちてきしょう 利用が知的障がいには利用しにくいと思う。
237	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じていると おも 思う	おや しえんしゃ いけん ちが あず 親と支援者の意見が違い、預かってもらえない などふつごう 不都合があったりする。
238	かぞく 家族	はったつしょうがい 発達障害	かん 感じていると おも 思う	きょたくかいご りよう じりつせいかつ 居宅介護を利用して自立生活をしたいが、ヘル パーさんが不足してできない。受け入れの う い 良い病院を見つけるのがたいへん 大変。 えきまえ の ぼ ぎょうさき べつ いろわ 駅前バス乗り場で行先き別で色分けしてあっ たがしかくしょう しゃ かた なら よ たが視覚障がい者の方がどこに並んで良いか わからず、こま 困っておられました。
239	だいひつしゃ 代筆者	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じていると おも 思う	みせ びょういん なに てつづ 店や病院、何か手続きしたいとき、カードやパ スワードを覚えていたり、打ちこんだり、どれ をどうあつか 扱ったらよいかいちいちわからな い、できないことがしょう 生じてきている。 わす ひと おし 忘れることもあるし、そこで人がいて教えてく れたりきかい あつか だいこう 機械の扱いを代行してほしい。自分 はがっこうじだい おし 学校時代に教えてもらっていなかったが、おそ 教わ ったらできたかもしれないともいう。
240	ほんにん 本人	しんたいしょうがい 身体障害	かん 感じていると	しかくしょうがいしゃ ばあい いえ か とき ことわ 視覚障がい者の場合、家を借りる時、断られる

			おも 思う	こと おお さいきん いんしょくてん 事が多い。最近のセルフレジや飲食店のタブ レット端末は音声読み上げがないので私達が どくりよく つか つか つか つか 独力ではほとんど使えない。その他障害特性 におう きのう つ どうぐ かい はつ に応じたヘルプ機能が付いた道具の開発が ひつよう おも 必要だと思う。
241	ほんにん 本人	せいしんしょうがい 精神障害	かん 感じていると おも 思う	ひと 人とのコミュニケーションがとりにくい。
242	ほんにん 本人	せいしんしょうがい 精神障害	かん 感じていると おも 思う	なに こと おお とき しょう しゃがわ 何か事が起こった時、障がい者側のせいにし て、事を済ませようとする人がいる。(盗まれた ひがしいしゃ おも けんじょうしゃ ぬす ほう ようご 被害者なのに、健全者(盗んだ方)を擁護する)
243	ほんにん 本人	せいしんしょうがい 精神障害	かん 感じていると おも 思う	しょうがい はたら はたら いぜん 障害があつて、働きたくても働けず、以前 さぎょうじょ つうしょ こうちん ひく 作業所に通所していましたが工賃が低く、 きんせんてき くろ ふあん おお 金銭的にも苦しさや不安が大きいです。また とうじしゃ しょうがい ひと かぞく 当事者だけでなく、障害のある人の家族が しょうがい かぞく にな だれ そうだん 障害のある家族のケアを担って誰にも相談で きずに孤立したり、悩んでいたりする人もたく さんいて、自分がケアラー・ヤングケアラーの ひと しょうがい ひと かぞく こりつ 人たち、障害のある人の家族も孤立しない、 たす い 「助けて」が言えるようになってほしいと思 います。
244	ほんにん 本人	せいしんしょうがい 精神障害	どちらかとい えば感じてい ると思う	まえ 前のグループホームで支援者に虐待の態度を と しえんしゃ ぎやくたい たいど 取られた。もっと支援員を良くしてもらいた い。
245	ほんにん 本人	せいしんしょうがい 精神障害	どちらかとい えば感じてい ないと思う	しょう しゃどうし あ 障がい者同士でもわかり合えないことがあ る。
246	かぞく 家族	じゅうしょうしんしん 重症心身 しょうがい 障害	どちらかとい えば感じてい ると思う	へるぱー ぶそく ため つき すうかい がいしゅつ でき ヘルパー不足の為、月に数回の外出も出来な いことがある。その場合、家族が対応するが、親 な おや 亡きあとはどうなるのか心配である。
247	ほんにん 本人	せいしんしょうがい 精神障害	かん 感じていると	けんじょうしゃ うえ めせん い 健全者から上から目線で言われる。

			おも 思う	とく しごと じぶん ぶん 特に仕事で自分の分だけコップがないとか た あり 多々有。
--	--	--	----------	--

ひょうか 評価シート (こばしら 小柱ごと)

おおぼしら 大柱	ちゅうぼしら 中柱 1	すべての人の権利を守るしくみづくり
I	こばしら 小柱 (1)	けんりようご すいしん ぎやくたい ぼうし 権利擁護の推進、虐待の防止
	もくひょう 目標	すべての人の権利が守られ、障害者虐待のない社会を目指します

とうじしゃひょうか いけん  
<当事者評価 (意見)>

かぞく  
(家族)

しょうがいしゃ こうれいか たい せいど あんない すく うえ ケースワーカー すべ  
・ 障害者の高齢化に対する制度やサービスの案内が少なすぎる上に、C W でさえも全  
て把握していない人も多い。

し けいかく そうだんいん た うえ しかく と しょうがい りかい な  
市は計画相談員が足りなすぎる上に、ただ資格を取っただけのような障害に理解無く、  
ふくししせつ ちしき な ひと おお たよ しょうらい こと かんが  
福祉施設やサービスの知識も無い人が多く頼れない。また「将来の事について考えるの  
は役割ではない」という相談員もいたり、モニタリングはするけど悩み相談しても聞いて  
くれない相談員もいたりする。

また きんねんとうさん ふくししせつ せけん じきゅう あ たんか あ あ  
また近年倒産する福祉施設もある。世間の時給は上がるが、単価が合わせて上がっている  
わけではない。

しせつ ろうきゅうか ひど し たてか し ふくし よさん さ ほ  
施設の老朽化も酷く、市は建替えをしないという。市は福祉に予算を割いて欲しい！

・まさしく、例と同じです。

ひょうか 評価シート (こばしら 小柱ごと)

おおぼしら 大柱	ちゅうぼしら 中柱 1	ひと けんり まも すべての人の権利を守るしくみづくり
I	こばしら 小柱 (2)	しょうがい りゆう さべつ かいしょう 障害を理由とする差別の解消
	もくひょう 目標	しょうがい りゆう さべつ な あんしん く しやかい めぎ 障害を理由とした差別を無くし、安心して暮らせる社会を目指します

とうじしゃひょうか いけん  
<当事者評価 (意見) >

とうじしゃ  
(当事者)

- か ど はいりよ せつ のぞ  
・過度に配慮せず、フラットに接してもらえるサービスが望ましい。
- しなのおよ ちく しょうがい し  
・市内及び、地区にはもっと障害について知ってほしいです。

パート・アルバイトのかわか もんだい なに どりくみ きゅうよ やす  
関わる問題は何かサービスの取組をしてほしいが、給与は安すぎる  
と困ります。ちょうしや おな こうへい  
聴者と同じく公平してほしい。

しえんしゃ  
(支援者)

しょうがい かた しえんたいせい ぜいじゃく かん めん ととの すす  
・障害のある方の支援体制の脆弱さを感じる。ハード面を整えることは進められている  
おも じんぎいくせい すす かん そうだんしえんじぎょうしょ かず  
と思うが、人材育成が進んでいないと感じられる。相談支援事業所やグループホームの数を  
ふ じりつ ちいきせいかつ じつげん さいじゅうようじこう かん ともな  
増やすことは自立した地域生活を実現するためには最重要事項と感じているが、それに伴  
そうだんしえんせんもんいん せわにん しつ こうじょう ひつす おも げんじょう じゅうぶん  
う相談支援専門員、グループホームの世話人の質の向上が必須と思われる。現状は十分  
しつ かくほ かん いたく う おお しやかいふくしほうじん じんぎいくせい  
な質が確保されているとは感じられない。委託を受けている大きな社会福祉法人が人材育成  
かん こんぼんてき かいかく しせい むずか おも げんじょう おお しやかいふくしほうじん  
に関して根本的な改革をする姿勢がないと難しいと思われる。現状、大きな社会福祉法人  
しよくいん りしよく おお じぎょうぞんぞく かのう しんばい  
の職員の離職が多く、事業存続が可能なのか心配。

ひょうか 評価シート (こばしら 小柱ごと)

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 1	ひと けんり まも すべての人の権利を守るしくみづくり
I	こばしら 小柱 (3)	い し けっていし えん すいしん 意思決定支援の推進
I	もくひょう 目標	だれ みづか い し ほんえい せいかつ おく しゃかい め ぎ 誰でも自らの意思が反映された生活を送れる社会を目指します

とうじしゃひょうか いけん  
<当事者評価 (意見) >

とうじしゃ  
(当事者)

• まだ <sup>かんが</sup> 考えていないからよくわからない。何 <sup>なに おも</sup> も思っていない。

かぞく  
(家族)

• 知的障 <sup>ちてきしょうがい</sup> 害のある本人 <sup>ほんにん</sup> の気持ち <sup>きも</sup> がどうしたいのかがわからないとき <sup>かぞく</sup> が家族でもある。どう <sup>ほんにん</sup> やったら本人 <sup>い し</sup> の意思 <sup>さいだいげんそんちよう</sup> を最大限 <sup>しょう</sup> 尊重 <sup>りかい</sup> できるのか、障 <sup>けんしゅう</sup> が理解 <sup>きかいとう</sup> ができるような研修 <sup>きかいとう</sup> の機会等 <sup>きかいとう</sup> あるといい。

• 本人 <sup>ほんにん</sup> が望 <sup>のぞ</sup> む暮 <sup>く</sup> らしにどうサ <sup>しえんしゃみな</sup> ポート <sup>かんが</sup> できるかを支援 <sup>ひつよう</sup> 者 <sup>おう</sup> 皆 <sup>く</sup> で考 <sup>く</sup> えながら必要 <sup>く</sup> に応 <sup>く</sup> じ、暮 <sup>く</sup> らし <sup>く</sup> の変化 <sup>く</sup> に対応 <sup>く</sup> してほしい。

• 入 <sup>にゅうしょせつ</sup> 所施設 <sup>ほんにん</sup> では本人 <sup>きぼう</sup> の希望 <sup>きせい</sup> もあつて帰 <sup>うなが</sup> 省 <sup>かぞく</sup> を促 <sup>う</sup> されますが家族 <sup>い</sup> が受け入 <sup>きび</sup> れが厳 <sup>きび</sup> しさがあり <sup>きび</sup> ます。本人 <sup>ほんにん</sup> が帰 <sup>かえ</sup> りたいのは家族 <sup>かぞく</sup> が一番 <sup>いちばん</sup> 分 <sup>わ</sup> かってい <sup>わ</sup> るから、できれば家族 <sup>かぞく</sup> の帰 <sup>きせい</sup> 省 <sup>きせい</sup> できない <sup>きせい</sup> 事情 <sup>じじょう</sup> を汲 <sup>く</sup> み取 <sup>と</sup> ってほしいです。

しえんしゃ  
(支援者)

• インクルーシブ <sup>じつげん</sup> の実現 <sup>む</sup> に向けてと <sup>ちいきいこう</sup> いうこと <sup>みな</sup> で、地 <sup>おな</sup> 域 <sup>かんきょう</sup> 移行 <sup>せいかつ</sup> や皆 <sup>かんが</sup> と同 <sup>かんが</sup> じ環 <sup>かんが</sup> 境 <sup>かんが</sup> での生活 <sup>かんが</sup> を考 <sup>かんが</sup> え <sup>かんが</sup> るよ <sup>かんが</sup> うにな <sup>かんが</sup> ったと思 <sup>かんが</sup> うが、生 <sup>おも</sup> 活 <sup>せいかつ</sup> する場 <sup>おも</sup> や所 <sup>せいかつ</sup> 属 <sup>おも</sup> 先 <sup>せいかつ</sup> の環 <sup>おも</sup> 境 <sup>せいかつ</sup> が整 <sup>おも</sup> ってい <sup>おも</sup> ないよ <sup>おも</sup> うに感 <sup>おも</sup> じ、障 <sup>おも</sup> 害 <sup>おも</sup> を抱 <sup>おも</sup> える方 <sup>おも</sup> を地 <sup>おも</sup> 域 <sup>おも</sup> で”生 <sup>おも</sup> 活 <sup>おも</sup> させてい <sup>おも</sup> る”状 <sup>おも</sup> 況 <sup>おも</sup> にな <sup>おも</sup> ってい <sup>おも</sup> るの <sup>おも</sup> ではない <sup>おも</sup> かと思 <sup>おも</sup> う。本 <sup>おも</sup> 人 <sup>おも</sup> が生 <sup>おも</sup> 活 <sup>おも</sup> しやす <sup>おも</sup> い場 <sup>おも</sup> を選 <sup>おも</sup> 択 <sup>おも</sup> できる <sup>おも</sup> こと、そ <sup>おも</sup> の選 <sup>おも</sup> 択 <sup>おも</sup> 肢 <sup>おも</sup> に地 <sup>おも</sup> 域 <sup>おも</sup> 以 <sup>おも</sup> 外 <sup>おも</sup> の場 <sup>おも</sup> 、入 <sup>おも</sup> 所 <sup>おも</sup> 施 <sup>おも</sup> 設 <sup>おも</sup> など <sup>おも</sup> も含 <sup>おも</sup> めて検 <sup>おも</sup> 討 <sup>おも</sup> でき <sup>おも</sup> ること <sup>おも</sup> が大 <sup>おも</sup> 切 <sup>おも</sup> である <sup>おも</sup> と思 <sup>おも</sup> う。

ひょうかシート (こばしら 小柱ごと)

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 2	ともに生きる社会を支える人づくり
I	こばしら 小柱 (1)	しょうがいふくし ささ じんざい かくほ いくせい 障害福祉を支える人材の確保・育成
I	もくひょう 目標	だれ あんしん く ちいしやくかい ささ ふくしじんざい かくほ 誰もが安心して暮らせるよう地域社会を支える福祉人材を確保、 いくせい 育成します

とうじしゃひょうか いけん  
<当事者評価 (意見) >

とうじしゃ  
(当事者)

・職員がもっと増えてほしい。職員が増えると外出等の機会が増えて生活が楽しくなる、もっと外出をしたいと返答されていました。

・訪問介護や訪問入浴などのサービスは、様々なコストアップ要因にさらされており、事業者の撤退や人員の不足といった話を耳にします。経営の原資は請求に対する国保連からの支給ですが、最低賃金の引き上げは経営には負担となります。県にも市にも、さらなる支援をお願いしたい。

・いろいろなことをわかりやすく教えてほしいです。

かぞく  
(家族)

・福祉施設で働く人材が不足している。不足するとレベルも低くなり利用者への対応も不十分となる。行政も人材不足に対して何か取り組んでほしい。安心して預けられる施設を家族は望んでいます。

・現在の生活水準に対して障害年金が充分ではない。検討していただきたい。グループホームも検討するが、劣悪環境ばかり。預けられない。施設職員が無資格者が多すぎてうんざりする。(言い方は悪いが、通常社会で仕事になんらかの支障があるような方や、他の会社では難あり通用せず就職したような方が多い。制服もなく格好も見なりもだらしな方が多い。それも資格なしで誰もが簡単に就職出来るからだろう。人手不足は理解出来るが、職員の雑な業務や暴言などが実は蔓延している現状。障害者は具体的に受けたハラスメントを声に出出来ません。監視カメラの充実などを検討してもらいたい。行政によって職員になるためには有資格などハードルを高めて、賃金も上げて職員のプライドと質を高めていただきたいと切に願います。ヘルパーさんという言い方も廃止してあげて欲しい。世の中なんでもかんでもお手伝いしてくれる便利屋だと勘違いしているように感じます。もう少し敬意のある名称になると良いと思います。そのためにも有資格のみの採用に力を入れ

ほ  
て欲しい。

・現在は、日中は通所施設、平日夜間はグループホームに行っています。ありがたいと思  
っています。ただ、通所施設では、送迎の職員と看護師が不足していて、円滑に通所出来  
ない事もあります。専門職の雇用が必要な重心の施設には、手厚い支援をお願いします。

・現在通所している施設では行政の基準以上の数のスタッフを独自に配置し、比較的手厚  
い支援を受けられていると思う。そもそも行政の基準通りでは利用者に十分な支援ができ  
るのか疑問である。ところが行政から施設(社会福祉法人)等への補助金は年々減額される  
一方であると聞く。もっと施設など現場の現状を知って予算を回していただきたい。賃金  
も含めて介護職員の待遇改善も必要と感じる。

親の高齢化に伴い、先々グループホームでの生活を希望しているが、まだ十分な数のホーム  
ムが有るとは思えない。土地や物件、スタッフの確保など社会福祉法人でのグループホーム  
の増設には様々な高いハードルがある。行政の後押しが必要不可欠。

・どこも人手が無いのはわかる。経済活動で利益を上げる企業はいくらでも、時給を上げて、  
人員確保が出来る。しかし、障害関連で働く人には会計上、それが出来ない。支援者は  
気持ちがあっても、生活維持のためには、障害者事業から離れざるをえない。人手を集め  
るためには、時給アップが最重要だと思う。

・サービスがあっても、担い手が足りずに使えないことが多い。全ての分野で働き手が減  
っている状況の中で、福祉に携わる人員の確保をこれからどうするのかとても気になっ  
ている。

知的障がいでの支援はロボットでは代われないことが多いと思う。人対人の支援をどのよう  
に継続していくか、早急に考えるべきだと思う。

・障害ある人も、昔よりはるかに長生きになって来ています。高齢化が進む日本で、  
障害者の高齢化についても、社会全体で考えていって欲しいです。

・障害をもつ子どもがいます。私が元気に仕事をして収入があるうちはできるだけ一緒  
に暮らしていこうと思います。しかし、私がいなくなった後、どう生活していくのか不安  
です。グループホームも70人待ちとかいう状況です。なるべく家で生活できるようヘル  
パーさんの利用や介助者の利用ができるようになると思います。

・国の障がい分野の対応の遅れを感じています。

虐待対応について、行政のバックアップが充分得られない現状(措置入所先が無く、  
虐待通報を行っても迅速な対応がなされていないように感じます)。

障がいサービスについて、民間事業所の参入が多くみられ、事業所の量は増えてきてい

ますが、サービスの質の面で課題が多く感じます。職員の不足で日雇い職員が対応をされている事業者もあり、サービスの提供される上での基準等の見直しが必要と思います。

・夜間は人手不足でベッドから落ちて片麻痺側の骨折等があってもわからず放置されている現状がある為世話人が増える事と同時にある程度、身体の異常の有無を確認する等の知識、おかしいと思ったら放置せず、夜間でも対応できるようにしてほしい。先づは上司に報告する等、時と場合により、適切な対応が出来る人材研修等を受ける機会を設け、質の向上を計ることを積み重ねることが大切と思われます。

### (支援者)

・支援力が低く、役割を果たせない日中支援型のグループホームのクレームをよく聞く。さらに施設の受け皿、短期利用も少ない中で、入所や入居を希望する支援学校、施設卒の児童は、どこへ向かうのか。障害分野の人材不足の解消の向け、県として、どのように考えているのか。

・支援者にもさまざまな人がいる。運営会社が営利企業に広がり、民間の創意工夫による良い支援や就労も進んでいるが、他方で、制度を悪用して収益を得ようとするケースもある。行政としての見極めも、厳しくし過ぎれば事業者は遠ざかり、緩和しすぎれば抜け穴が出てくるので、難易度が高まっていると思う。良い支援が地域に広がるためにも、メリハリの指導や監査が必要だと思う。その中で、物価高騰、人材不足などを背景に、事業経営そのものが困難になっているので、良質な支援を継続しやすくするためにも、助成金や補助金の充実に加えて、事務処理の効率化（メールが対応できない、修正点が細かすぎるなど）については、事業者の運営をサポートする体制を整えてほしい。そして、行政職員が隔々まで理解して対応してほしいと思う。

・今後直接支援のヘルパーの担い手はどのようにしたら増えるでしょうか。他の職業と同じように処遇が上がることは大切。「ケア」という職業が広がるようになってほしいです。

・福祉サービスや行政の取り組みについては市町村ごとで規模や数も違いますし一概には言えませんが、行政はじめ関係の皆さんは様々取り組まれていると思います。

ただ、実際に携わる福祉人材不足は長いこと課題で挙がっていて、担い手となる福祉に関連する仕事を目指す人が障がいや介護に関わらず全般に増えると良いな、と思います。

・障害福祉サービスは人の命や生活に密接に関わる重要な仕事であるにもかかわらず、社会的評価や賃金の面で十分に報われておらず、体力的な負担や長時間労働、変則的なシフト勤務、感染症対策、精神的な負担、仕事内容に見合わない給与などが挙げられ全産業

平均よりも低い水準の賃金が続き、職業としての魅力が伝わりにくいという課題もあり、若い世代や新規就業者の離職の一因で社会的評価の低さは、障害福祉サービスは新卒者の減少や定着率の低さにもつながり、人手不足をさらに深刻化させています。現在現場で働いている職員は、より良いサービス向上を目指して頑張っていますが、生活は一向に良くなり、モチベーションもなかなかあがらない中でも奮闘しています。障がい者が地域社会で豊かに生活できる環境を整えていくのと同時に、障がい者を支える側の環境にも配慮していただきたい。

- ・職員の問題で、人が集まりません。(特に施設職員が不足しています)
- ・上記に記載されるご家族の訴えが一部に過ぎず、移動支援の利用を希望するもヘルパー不足などの理由から断られたとの報告が利用者ならびに保護者の方々から多数寄せられています。この現状が改善されることを強く望みます。
- ・子どもの発達に不安があり相談をしに行っても上から物ごとを言われたり、親を少しばかにするような発言があったりする。子や親に寄り添ってほしい。相談しに行っているのだから。市がそうだと支援を受けたい子どもの親の心が折れると思います。

ひょうか 評価シート (こばしら 小柱ごと)

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 2	とも <span style="font-size: small;">い</span> に <span style="font-size: small;">しゃかい</span> 生きる <span style="font-size: small;">ささ</span> 社会 <span style="font-size: small;">ひと</span> を支える <span style="font-size: small;">ひと</span> 人づくり
I	こばしら 小柱 (2)	ほけん <span style="font-size: small;">いりよう</span> ・ <span style="font-size: small;">ささ</span> 医療 <span style="font-size: small;">じんざい</span> を支える <span style="font-size: small;">かくほ</span> 人材の <span style="font-size: small;">いくせい</span> 確保 <span style="font-size: small;">いくせい</span> ・ <span style="font-size: small;">いくせい</span> 育成
I	もくひょう 目標	だれ <span style="font-size: small;">あんしん</span> して <span style="font-size: small;">く</span> 暮らせる <span style="font-size: small;">ちいきしゃかい</span> よう <span style="font-size: small;">ささ</span> 地域社会 <span style="font-size: small;">ほけん</span> を支える <span style="font-size: small;">いりようじんざい</span> 保健 <span style="font-size: small;">いくせい</span> ・ <span style="font-size: small;">いくせい</span> 医療人材を <span style="font-size: small;">かくほ</span> 確保 <span style="font-size: small;">いくせい</span> 、 <span style="font-size: small;">いくせい</span> 育成 <span style="font-size: small;">いくせい</span> します

とうじしゃひょうか いけん <当事者評価 (意見) >

しえんしゃ (支援者)

・障害とひとこと言おなでみかたくかたくおおられておもしまうおもことで、同じ見方をされる方が多くいると思います。

そのこといによって、かん生きづらさおもを感じはったつづらさおもられているのもあるおもと思います。また、SNSがはったつ発達し、  
さまざまかた方たちのいけん意見をあ目のきかい当たりふにするわたし機会しょうがいしゃふくしが増えしごとました。私わたしたちはしょうがいしゃふくし障害者福祉しごとを仕事しごとと  
しているため為、あるい意味み障害者い視線いでのもの物かんがのかた考かたえ方よをしてなかいますよが、世よの中なか、みなみんなみながみなみん  
なしょうがいしゃ障害者たいに対してちしき知識こわがあるおもわけかたではないかたので、すく怖いこと思いことをしたかた方もすく少なかたからすくずこといること事ことを  
知しりましたこわ。怖いおも思いかたをしたに方おなたちはおも二度おもと同じおも思いおもはおもしたおもくおもないおもと思おもうおものはおもわおもからおもなくおもな  
いおもですおも。そかたの方おもたちのおもケアおももおも必要おもだおもと思おもいますおも。単おもに、おも理おも解おもが無おもければおも知おもるおも努力おもをおもすおもればおもいおもい、おもというおも考おもえ方おもはおも安おも易おもなおものだおもと思おもいましたおも。みんなおもがおも暮おもらしおもやすいおも世界おもの実おも現おもはおもどのおも部分おも  
のおもすりおも合おもわせおもなおものかおも？おも妥おも協おも？おも共おも生おも？おも課おも題おもはおも多おもいおもかおもと思おもいますおもが、おも私おもはおも児おも童おも発おも達おも支おも援おもにおも携おも  
わおもっているおもので、おも幼おも児おも期おものおも過おもごおもしおも方おものおも大おも切おもさおもをおも感おもじておもいおもますおも。現おも状おも、おも児おも童おも発おも達おも支おも援おももおもマン  
パおもワおもーおもがおも足おもりおもませおもん。充おも実おもしたおも支おも援おものおも提おも供おものおも為おものおも受おもけおも入おもれおも体おも勢おも作おもりおものおも改おも善おももおも必おも要おもとおも感おもじおもま  
すおも。

ひょうかシート (小柱ごと)

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 3	あんしん くらせる ちいき 安心して暮らせる地域づくり
II	こばしら 小柱 (1)	そうだん し えん たいせい 相談支援体制の構築
	もくひょう 目標	だれ みちか ちいき しつ たか そうだん たいせい せいび 誰もが身近な地域で、質の高い相談ができる体制を整備します

<当事者評価 (意見) >

(当事者)

・個別具体の政策ではなく、一般論で。参政党の躍進が示すように、昨今、「弱者」が優遇されていることに対する不満が噴出している。なので、あまり寄り添いすぎると、横槍が入る可能性が高い。「弱者だから支援しましょうね」みたいな態度だと、令和ではバッシングを招くリスクが高い。というわけで、どこまでが「正当な支援」かを見定めて、その範囲内で福祉サービスを行なったほうが良いとは思う。逆に言うと、権利ばかり主張して、と思われないような、適度な配慮というか適度な支援が望ましい、と思う。何を適度と見做すかは、個人により差がある。障害者には様々な濃淡があり、人により必要な支援は変わってくる、さらにはそれはわがままでなく最低限の支援なのだと、世間を説得する情報発信も、必要になってくるのではないかと。世間体。当事者も税金を払っている人も納得できる支援のあり方を、ブロードリスニングでもなんでも良いので、見つける努力を、行政に期待している。

・市町村による障がい福祉課の対応の格差があることをなくしてほしい。障害福祉サービスの申請から受給までかなりの期間がかかるので短くしてほしい。

・わからないことや困ったりしたことができたらスタッフに相談することに決めている。

・身体障害者手帳によるサービス等手帳をもらう時点で教えてもらいたかった。10年以上もたって知り利用させてもらった事あります。

・障害+高齢で相談窓口に行けないときの対応や、施設等の内容を知りたい。

・生活が困ったり、つきそい(買い物)等の(話す)タイミングがうまくつかめないのそこがもっと気軽に出来るシステムがあるといいなと思う。遠慮がちになっている。

(家族)

・その人にどんなサービスが利用できるのか、行政の方から積極的に教えて欲しい。情報を取れる人はよいが、そうでない人はサービスを知らずにいることがある。

制度がどんどん変わっていくので、ついていくのが大変だし、どんなサービスがあるのか、その人にあった事業所の紹介など、相談事業所の相談員によって、かなり違うのが現状だと思ふ。

・将来的に成年後見制度とかも必要となると思ふのですが、そういった今後何か必要なサービスや親がもし亡くなってから自分が障がいがある兄を見ることになると思ふのでその時にどういったことが必要なかが聞きたいです。

・サービスの対象や利用方法をわかりやすく教えて欲しい。福祉の仕組みについて知りたい。働いているスタッフの賃金がアップできるような仕組みを作りたい。

・現在グループホーム入居先を探している。情報が得難い。支援センターに相談に行ったが最初だけ、フォローがない。

・困った時に対応してくれる窓口が必要。たらい回しにさせられることもあるし、もっと気軽に相談できる所があればと思ふ。多職種によるアウトリーチが欲しい。

・「個別に質問したいときは」、どこに質問したらいいのかわからない(行政は全くあてにならない)。

介護している家族の経済状況が、障害者の生活やリハビリまで大きく影響してしまうのは考え物です。

・相談支援専門員を増やし、全員に相談支援がつくようにしてほしい。困った時は基幹相談へと案内していますが、本当に困っている人は今まで関わっていない相談員に一から話をするのは本当に大変な事なのを理解してほしい。高齢者はケアマネがキッチンとつづのに障がいの相談支援員は少ない。相談支援事業所や相談支援員がケアマネのように増えるよう予算をつけてほしい。

最近株式のグループホームが増えてはいるが、本人に何か問題があるとすぐ退所してもらふとの話を聞いたことがある。認可だけではなく、キッチンと運営されているか確認できるシステムをお願いしたい。また、人員不足のため、開所できない日があるグループホームやショートステイがある。施設職員の充実のため、支援員への処遇改善の予算をつけてほしい。

・社会資源を増やすためには、障害者施設の小規模化、現在改革はされているが、まだまだ虐待などもあるし、県立施設のあり方、検討会などももっと当事者も入れて考へるべきだと思ふ。ヘルパーに関しては、自分たちが地域に出ることが少ないことにより、障がいがあることは知っていても、どのような支援をしていけばいいのかわからない方も多いと思ふし、行政によって支給決定なども違うため、実際によつての統一感が欲しい。各委員会や、行政会議、地域の区民会議などなどに、まだまだ障害当事者が入ることが必要だと思つて

います。社会資源を増やす事は、施設を増やすことだけではなく、地域社会とのつながりや社会参加という点でも必要だと思ふ。障害に関わらず、何かあったときに、ワンストップサービスできるような行政改革も必要である。手当てが減って住むことが難しくなっているし中山間地域も抱えているため、人口もそんなに増えない。共生を考えるためには、障害当事者と地域のことを知ることが大事である。

・ どういうサービスがあるのか知りたい。

・ どういうサービスがあるのか、どういふ事業者があるのか、どのように手続きをしたらよいか、障がい福祉サービスをワンストップで行う部署や機関がほしいです。

生まれ育った、または家族が近くにいる地域にグループホームができるようになってほしい。地域住民の反対でグループホームの建設を断念するというようなことが起こらないような社会になってほしいです。

・ 本人は現在一人暮らしの当事者です。現在はヘルパーさん3～4人の支援を受け、本人の姉二人も住居まで通い手伝っているが、家族の手伝いは手伝えるのはあと3～4年。本人だけで区役所に行くことは難しく、その場合、各種の手続きを区役所が訪問してできる制度にしてほしい。

・ 例題と同じくどういふサービスがあるのか、どうしたらそのサービスを利用できるのかをわかりやすく教えてくれるところが欲しい。

### (支援者)

・ 町内に相談支援事業所をつくってほしい。

・ 計画相談員を増やしてほしいです。

・ 私の働く施設では、保護者の高齢化によりその子ども(知的障害を持つ利用者)との暮らしに困難が生じてきている例が散見されます。まず、一人っ子さんの場合、親の介護をする人、決定をする人がいないということが明らか。先の未来を見通して準備しているご家族と、全く情報がなく孤立しているご家族と分かれている印象です。福祉は「サービスを使いたい」と申請することによって初めて提供されるもので「今は結構です」と言われてしまうと支援者としては正面から支援することができません。両親のどちらかが体調を崩す、認知症になった結果、辛い状況になっている利用者さんもいて頭を悩ませています。両親の介護も含めて相談をワンストップで担当できる相談事業を早急に整備していただきたいです。(一応相談機関はあるが機能しているかは疑問。ケースが多すぎる? 課題が複雑すぎる?) 相談支援事業所が立ちゆくような施策が必要。皆さん、ぼんやりとした不安で一杯。力のある相談員さんと一緒にぼんやりした不安を早急に課題化して何年後か

に備えられるようにしてこそ真に安心して毎日常生活できると思います。

・まずは障害に感じている方のニーズを引き出してほしい。

・ご家族様が不在（いない）でも、安定して生活できる入所施設が、少ないと思います。

相談窓口を増やしてほしい（明るく、広いスペースがあるといいです）

・障害を持つこどもの支援をしています。保護者の方がその障害に応じてどんな支援があるのか、どこに行けばいいのか、誰に相談したらいいのか、がわからなくて困っている場合が多いです。市は相談支援がとても薄く、人口も事業所も多いので、区役所などが大変そうです。もっとわかりやすく、「まずはここで聞いてみてください」というところ（結局相談支援なのですが）があるとよいなと思いました。

・情報を自ら探さなければ得られず、また申請主義的であること。行政側が人権保障の課題だと捉えていないように感じられることについて改善されたいと思う。

障害等の種類については、複数選びたいところでしたが、1種に限定されていたためにその他を選択しました。

・どのような事に対して、どういうサービスを選び、どうやってどこに申し込めばいいのかを丁寧に教えてくれる場所がほしい。色々な事を気軽に相談できる場所や人を増やしてほしい。何かあった時に安心してすぐに使える医療機関を増やしてほしい。支援学級や支援学校卒業後に進める進路がほしい。

・障害者権利条約の勧告にもあるように、精神障害者や重度障害者が地域で生活していくためには、地域サービスの充実が不可欠であると思います。

また計画相談が不足しているようにも思う。当事業所でも3分の1程度の利用者さんはセルフプラン。また計画相談に連絡しても受け持ち利用者数が多過ぎて、なかなか計画相談の支援を受けられていないのが実情ではないかとも感じる。

ひょうか 評価シート (こばしら 小柱ごと)

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 3	あんしん 安心して暮らせる地域づくり
II	こばしら 小柱 (2)	ちいきせいかついこうしえんとう じゅうじつ 地域生活移行支援等の充実
	もくひょう 目標	ちいきせいかつ きぼう しょうがいとうじしや じしん はんだん もと あんしん ちいき 地域生活を希望する障害当事者が、自身の判断の下、安心して地域 で暮らせる社会を目指します

とうじしやひょうか いけん <当事者評価 (意見)>

とうじしや (当事者)

・グループホームの職員を増やして欲しい(支援員ヘルパー)。私はヘルパーがいないと生きていけません。

・重度障害者等福祉手当がなくなるのがつらいです。パニック障害の人が一人で電車の練習ができる支援や、家庭内の問題を支援すると場があると助かります。

・夜間に職員さんなどがいてくれるグループホームが増えてほしい。

・夜間に世話人(2人以上)がいるグループホームが増えてほしい。日中過ごせるグループホームも増えてほしい。

・移動支援の事業所を増やして欲しい(移動支援していたところがなくなってしまっただ次が見つかっていない)。移動支援の利用時間をもう少し長く利用できるようになって欲しい(もう少し遠出したい)。

・聴覚障害者専用のグループホームが欲しい。

・アパート型のグループホームが市内で少ないと感じる。自立支援医療受給者証や療育手帳、精神保健福祉手帳の更新がオンラインで済ませられれば良い。

・何度申込をしてもグループホームに入れない。親亡きあとはどうしたらいいのか。

かぞく (家族)

・グループホームを増やしてほしい。

・親が高齢化して、子どもの行く末が心配でならない。知的障害者が入所できる施設が増えてくれないと、本当に困る。

・グループホームの数を増やしてほしいです。

・障害者の緊急宿泊先として、近隣の高齢者施設の利用が可能となるのではないかと思います。障害者のグループホームでは強度行動障害のある人のホームを増やしてほしい。

各市町村でグループホームの居住支援金が違っているので、高いところに合わせてほしい。

しょうがいしゃせつ はたら せいかつしえんいん きのむしや きゅうよ せんしんこく こくさいひかく おこな  
障害者施設で働く生活支援員などの勤務者の給与の先進国における国際比較を行ってほ  
しい。かんごし ほういくし くら ひじょう やす じょうたい やす きゅうふきん じんざい  
看護師や保育士などに比べて非常に安い状態のようです。安い給付金でよい人材を  
あつ しせい ぎもん も けんしよくいんな きゅうよ え  
集めようとする姿勢に疑問を持ちます。せめて県職員並みの給与が得られるようにすべきで  
かいかい せいど あつか しごと むづか しごと  
す。介護職は人を扱う職業です。機械や制度を扱う仕事ではなく、もっと難しい仕事  
おこな  
を行っています。

ぎょうせい じぎょうしゃ ようきゅう しりょう ちょうふく しりょう ていしゅつしりょう  
行政が事業者に要求する資料で重複する資料があるのではないのでしょうか。提出資料の  
ごうりか げんば たちば かんが けん とも い せいさく ちゅうりよく  
合理化を現場の立場になって考えてほしい。県は共に生きる政策に注力していますが、  
なかい なかい えんもとりようしゃ しぼうじあん ふせ にど  
なぜ、中井やまゆり園元利用者の死亡事案が防げなかったのでしょうか。二度とこのような  
ことをなくす政策をおこな  
行ってほしい。

ちいき く あ まえ おも かんじん う ざら た じょうきょう  
・地域で暮らすのは当たり前だと思っ  
かんが おや ふあん おお  
ていますが、肝心な受け皿が足りていない状  
況を考えると親の不安は大きいです。

はい ぶそく ふだん しえん むづか  
・グループホームも入れない。ヘルパー不足で普段の支援もなかなか難  
せいど つか じんざいぶそく  
制度があっても使えなくなっている。人材不足なのか。

しょうらいのこ ちこ あんしん あず やかん せわにん おや  
・将来的に子どもが安心して預けられる夜間に世話人がついていてだけでなく、親と  
せわにん れんけい こ しえん ふ おや いっしょ す  
世話人が連携して子どもを支援できるようなグループホームが増えてほしい。親も一緒に過  
ごせる老人ホームをかんが  
考えてほしい。

・グループホームの数を増やしてほしいです。

#### しえんしゃ (支援者)

ふ ほ こめ ねだん たか  
・グループホームやサテライトが増えて欲しい。お米の値段がまだ高い。

しえんしゃ りようしゃ せつ なか かん いろいろ せんたくし すく  
・支援者としてご利用者の中で感じることは、やはり色々な選択肢が少なく、また  
じょうほう すく げんじょう せいかつ か ひじょう ふあん かん かた おお  
情報も少ないこともあり現状の生活を変えることに非常に不安を感じている方が多くい  
おも おも ほんらい せいちよう かにい へんか  
ると思われます。本来であれば成長の過程でライフステージの変化があってしかるべきと  
おも へんか たいおう よわ かぞく どうよう へんか もと けいこう かん  
思いますが、変化への対応に弱く、ご家族も同様に変化を求めない傾向にあると感じます。  
すく りよう じかん ぼしよ かぎ ふ かつどう  
ガイドヘルパーが少なく利用できる時間や場所も限られているため、もっと増えたら活動の  
はば ふ おも えき ちか ぼしよ かよ ばしよ  
幅も増えるのではないかと思われ  
えら おも かのう ふくし しえんひ  
ます。それらを可能にするためには福祉の支援費  
こうじょう けんとう いただ おも ふくし しごと じょうげんきんがく き しごと  
の向上も検討して頂けたらと思  
しよくいん あ ここ こころざし ししつ たよ  
職員のモチベーションが上がりづらく、個々の志や資質に頼ってしまっ  
しごと だれ しごと ひつよう むづか しごと かん  
ています。仕事は誰にもできる仕事ではなくかなりスキルが必要な難しい仕事だと感じております。  
しつ たか しえん しよくいん しつ あ おも  
質の高い支援をするためにも職員の質を上げたいと思っています。

いりようてき ひつよう かた う い じぎょうしょ だとう ほうしゅうかいてい わり  
・医療的ケアが必要な方を受け入れている事業所に妥当な報酬改定をしてもらいたい。割

にあわないうことばではないが、さいさんなかせいかつかいごじぎょうあらかいせつ  
に合わないという言葉ではないが、採算がとれない中では生活介護事業をどこも新たに開設  
しようおもわれないのではないか。

いりょうてきかたうけいかのうグループホームがふえていくと、ちいきくしょうがいしゃ  
医療的ケアの方も受入れ可能なグループホームが増えていくと、地域で暮らせる障害者の  
方もふえていくと思います。

- ・グループホームがふえて行ってほしい。
- ・ワンルームタイプのグループホームがふえてほしい。

ひょうか 評価シート (こばしら 小柱ごと)

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 4	ちいきせいかつ さき ふくし いりょうたいせい 地域生活を支える福祉・医療体制づくり
II	こばしら 小柱 (1)	しょうがいふくし など せいび じゅうじつ しつ こうじょう 障害福祉サービス等の整備・充実と、質の向上
	もくひょう 目標	しょうがいふくし じゅうじつ だれ しつ たか しえん う 障害福祉サービスが充実し、誰もが質の高い支援が受けられる しゃかい めざ 社会を目指します

とうじしゃひょうか いけん <当事者評価 (意見) >

とうじしゃ (当事者)

- ・いつまでも自宅<sup>じたく かぞく</sup>で家族と生活<sup>せいかつ</sup>したいので色々な制度<sup>いろいろ せいど</sup>の充実<sup>じゅうじつ のぞ</sup>を望みます。
- ・友人<sup>ゆうじん</sup>の両親<sup>りょうしん</sup>が不自由<sup>ふじゆう</sup>になった時<sup>とき</sup>に、もう少し<sup>すこ</sup>お金<sup>かね</sup>とヘルパーさん<sup>たいおう</sup>の対応<sup>はや</sup>が、早<sup>はや</sup>かったら良かった<sup>よ</sup>と思<sup>おも</sup>いました。
- ・もっと立地<sup>りっち</sup>の良いグループホーム<sup>よ</sup>が増えてほしい。
- ・いま56歳<sup>さい</sup>なので、今後<sup>こんご</sup>の将来<sup>しょうらい</sup>について、少し不安<sup>すこ ふあん</sup>が出てきた。出来る<sup>でき</sup>だけいまの生活<sup>せいかつ</sup>を続けて<sup>つづ</sup>いきたい (家庭<sup>かてい</sup>から生活<sup>せいかつ</sup>介護<sup>かいご</sup>へ通<sup>かよ</sup>いたい)。
- ・ヘルパーさんが欲しい<sup>ほ</sup>な。車<sup>くるま</sup>で買い物<sup>か</sup>へ連れて<sup>もの</sup>行って<sup>つ</sup>くれる。1対1<sup>い</sup>で行きたい<sup>たい</sup>。
- ・グループホームの世話<sup>せわ</sup>人が一人<sup>ひとり</sup>で対応<sup>たいおう</sup>していますが、手<sup>て</sup>がかかる方<sup>かた</sup>は断<sup>ことわ</sup>られることが多<sup>おほ</sup>い。運営<sup>うんえい</sup>を維持<sup>い</sup>するには人件費<sup>じんけんひ</sup>を削<sup>けず</sup>る必要<sup>ひつよう</sup>があるとは思<sup>おも</sup>うが、障害者<sup>しょうがいしゃ</sup>を世話<sup>せわ</sup>するには一人<sup>ひとり</sup>では無理<sup>むり</sup>。そうすると重度<sup>じゅうど</sup>の方ははじかれる傾向<sup>けいこう</sup>になっていると思<sup>おも</sup>う。介護度<sup>かいごど</sup>と職員数<sup>しょくいんすう</sup>は数字<sup>すうじ</sup>で割り切<sup>わ</sup>れるものではない。給与<sup>きゅうよ</sup>が低い<sup>ひく</sup>のも人手不足<sup>ひとでぶそく</sup>を加速<sup>かそく</sup>させ、結果<sup>けつかけ</sup>障害者<sup>しょうがいしゃ</sup>が困<sup>こま</sup>る。という悪循環<sup>あくじゅんかん</sup>を国<sup>くに</sup>は作り出<sup>つく</sup>している。
- ・ピアサポーターとして支援側<sup>しえんがわ</sup>をしているが、支援者<sup>しえんしゃ</sup>の収益<sup>しゅうえき</sup>の為<sup>ため</sup>での支援内容<sup>しえんないよう</sup>が多い<sup>おほ</sup>と感じ<sup>かん</sup>じる。特にグループホーム。サビ管<sup>とく</sup>が登録<sup>かん</sup>はされているはずが、現実<sup>げんじつ</sup>には居<sup>い</sup>なかったりする。支援者<sup>しえんしゃ</sup>の障<sup>しょう</sup>がい者<sup>しゃ</sup>目線<sup>しやめせん</sup>を自分達<sup>じぶんたち</sup>都合<sup>たつごう</sup>での解釈<sup>かいしゃく</sup>しているケースが多い<sup>おほ</sup>と感じ<sup>かん</sup>ています。
- ・夜間<sup>やかん</sup>に世話人<sup>せわにん</sup>がついているグループホーム<sup>せわにん</sup>ができるようにしてほしい。または、できやすい制度<sup>せいど</sup>にしてほしい。
- ・障害<sup>しょうがい</sup>の方<sup>かた</sup>でもできる仕事<sup>しごと</sup>をもっと増<sup>ふ</sup>やしてほしい。もっと工賃<sup>こうちん</sup>が増<sup>ふ</sup>やせるようにしてほしい。
- ・成人期<sup>せいじんき</sup>以降<sup>いこう</sup>のサービスはとて不足<sup>ふそく</sup>していると思<sup>おも</sup>います。学齢期<sup>がくれいき</sup>後の人生<sup>じんせい</sup>は長い<sup>なが</sup>です。
- ・良質<sup>りょうじつ</sup>なサービス！選択<sup>せんたく</sup>できるようなサービスの拡充<sup>かくじゅう</sup>を望<sup>のぞ</sup>みます。そして福祉職<sup>ふくししょく</sup>の魅力<sup>みりよく</sup>ややりがいの発信賃金<sup>はっしんちんぎん</sup>アップ、研修<sup>けんしゅう</sup>などのスキルアップ<sup>りょうじつ</sup>で良質<sup>りょうじつ</sup>な職員<sup>しょくいん</sup>が増<sup>ふ</sup>えることを望<sup>のぞ</sup>みます。

す。

・年寄りや障害を持った人は生活するのに困り方が3つ位にわかれていると思う。それぞれにあった支援をしてほしい。

・施設から地域へと言われているが、地域で暮らすためのサポート体制の充実や重度の障害者が入居できるグループホームの充実や介護スタッフの充実が待たれる所である。

・障がい者でも入れるサービス付き高齢者住宅が増えたらいいです。

・作業所や就労継続支援A型、B型は近くてもOKしてほしい。同じ敷地内でもOKというふうにしてほしい。アパート型のグループホームが増えてほしい。

・ガイドヘルパー利用が多くできるようになってほしい。

・自立した生活を障がい者が一人でも多くできるようにしてほしい。

### (家族)

・大人の障害者のサービスを増やしてほしい。

・社会的にはバリアフリーの方向性であり、その時々々の困り事があると相談して、結果、なんとか工夫しながら対応してくれるところがおおかんしゃしているが、障がい者が重い故に「周りに迷惑になるから我慢しなければ」と遠慮しながら生活している。自宅や施設での虐待の報道に目が行くのは他人事ではないから。障がい者や高齢者の福祉の担い手が不足しているのは、待遇が悪いから。実際、介護保険や障がい者の制度で使えるサービスは国のルールとして限られているのなら、担い手を公務員の待遇として、その仕事だけで生活できるようにすべき。また、自宅生活の重度障がい者は障がい年金を貯めている方もいる。「将来のために貯金する」よりも、自立に向けて福祉サービスを利用できるようにして、経済を回していくほうが有効だと考える。

・コロナ以前はガイドヘルパーを利用して余暇活動を楽しんでいたのに、今は全く利用できない。余暇活動の充実を図ってほしい。

・今後、年齢を重ねていくにあたり家族から離れグループホームに入る様になると思いますが、色々なタイプのグループホームを紹介していただけるサービスなどわかりやすく教えて欲しいです。

・作業所に情報補償、手話通訳が欲しい。聾者のグループホームが欲しい。

・日中も、お帰りと、出迎えてくれる職員配置が欲しい。当事者(我が子)は、パート勤務で、13時に終わります。世話人が来るまで、時間を持て余しています。

・入所だから移動支援は利用できません、等そのサービスは利用できませんと言われた事がある。困って相談にいても、必要なサービスを紹介されるわけでもなく、正直なところ

ろ我慢するか、高いお金を出してお願いして利用するしかないのが現状です。

・最重度の知的障害者33歳の息子。言語によるコミュニケーションはできない。指示も入らないが、言っていることは何となくわかる様子。そこで、「今の生活は楽しいか？」と聞いたら無反応。「暇？」と聞いたら、首を動かし目を合わせた。暇なのだとわかりました。

グループホームも入所施設も、放置、虐待等が心配です。だからといって、自宅でヘルパーと二人きりも危険があります。当事者も家族とずっと、と思っている方々も多いと思います。ただ、家族の負担を気にされている方々が多いように思います。自立を望み自由を手に入れたい方もいらっしやいますが、安全面をどう確保するかが問題になると思います。

障害者の地域での暮らしに理解あるヘルパーさんを増やせるようにしてほしいです。

・自分が死んだあとの事を考えると不安しかない。障害を持っている我が子が生きていけるような世の中にしてほしいが、ヘルパーさんや施設が足りない今、未来ではもっと不足するだろうと感じている。障害があるせいで部屋が借りられない、施設が足りなくて入れないなど、様々な負の連鎖が起こりそうだが、それが少しでも改善されていく事を願うばかりだ。

・在宅でしか生活ができない人、日中作業所に行き帰る人、グループホームや入所施設に戻る人、日中支援型グループホームに居る人、入所施設にいる人など様々だが、万人が平等に福祉サービスを受けられるような、環境を作ってあげて欲しい。家族や福祉に携わるひとがみんな笑顔で過ごせる。そんな社会作りをして欲しい。

・障害者グループホーム、日中支援型を増やす方向の施策を実行していただきたい。または入所施設の拡充を希望する。

・学校を卒業すると今まで使っていた放課後等デイサービスが利用出来なくなり、通所先が早く終わるので家で過ごす時間が長くなり負担が増えたように感じる。

グループホームも実際のところ少なく利用もいつから出来るか、わからないので不安に感じる。

・障害のある人が地域で暮らしていくためには、家族の力がなくては成り立たず、家族の犠牲ありきの制度が多い。(特に医ケアのある重心の子ども)本人も親も兄弟も、自分の生活を、すべてとは言わないがある程度犠牲にせず暮らせる制度、行政を行ってほしい。

・市内2ヶ所の入所施設が古く傷みがあったり、悪臭がしたりしている。そこで一生を過ごさせるのかと思うと心が痛む。市では、グループホームを増やしていく方針のようだが、少人数の方が本能的にも落ち着けるのかも…と思うが、不穏になった時に他の方への

影響を考えると大人数の施設がいいのかな、とも思う。しかし、先のような状況だとしても迷う。行政の方には、現場を見て欲しいし、なんなら泊まってお風呂やトイレを使ってみて欲しい。あなたの大切な家族をそこに入所させたいと思いますかと聞きたい。家族は長い間、一般の方のように好きな時に出かけたり、家族で集まったりが容易に出来なかったり、仕事時間の短縮をしなければならなかったり…色々なことに不自由を感じているし、我慢や諦めも沢山していることを伝えたい。

・福祉サービスを利用しているにあたって、障害者に対して精神的虐待が多すぎる。明日は我が身とも思えずに障害者に対して酷い施設が多すぎる。もっと監督する機関が必要。

施設は働いている者を庇うので表面化していない。お金を貰って職業としているのであればもっと勉強して学ぶべき。プロ意識にかけている。

・移動支援が充実してほしい。時間帯、年齢や性別なども制限がなく、流動的に登録が出来てサービスが利用できる世の中になってほしい。

・女性だけのグループホームが増えてほしい。高齢者（親）と障害者（子）が同じ敷地内で暮らせるグループホームや施設を作してほしい。

・ガイドヘルパーの事業所や施設などに助成金、補助金等もっと増やして人の確保がより良く出来るようにしてほしい。特に知的障害の本人が年をとっても交通機関を使えなくなっても車での通所が出来る様にして欲しい。

・親亡き後の心配。区内にグループホームを増やしてほしい。

アンケート意味ある？行政に期待していません。

・生活介護の幅をもっと広げてほしい。年齢とその個人を判断する事ができるシステムをとってほしい。

・福祉サービスをもっと充実させていただきたいと思います。費用の面など。

・支援付グループホームが増えてほしい。

・夜間や休日にサービスを受けるのが難しいので、24時間対応してほしい。

・親なき後のことを考えたときに、一人暮らしや自宅での生活も考えたいと思うが、支援なしには難しいと思う。その為のアイデアを支援者の人と考えているが、どうしても支給量や支援者不足で「難しいよね」になってしまう。入所の施設よりグループホームが良いとも思うが、グループホームの質・量ともに現実としての難しさも感じている。住む場所と活動場所を明確に分離して、現存している入所の施設を、制度上グループホームという扱いにすれば良いのでは？とも思う。

・タクシーの定期券みたいなサービスがほしい。子どもの学校の送迎や習い事の送迎してくれるサービス。

・通所に際して移動支援を利用するにあたり、現状のヘルパー事業所に自己負担として支払う車両の利用料金（距離×80円）が高額となるため、保護者としてはやむを得ず本人を説得し、自宅から最寄りの事業所に（週5回のうち3日間）通所している。市内の事業所におけるヘルパー不足が顕著であるため、移動支援を依頼できるヘルパー事業所が選択肢として乏しく、車両の利用料金を比較することが儘ならない。車両利用に伴う自己負担額を減額させることが出来れば、本人が希望する事業所での生活が送れるのだが・・・

・最重度の人でも、支援を受けることができ、親元から離れても落ち着いた生活を送れるようなサービスを充実してほしいです。

### （支援者）

・具体的に児童から大人になってからでもサービスがあることをモデルケースを挙げてもらいAプラン、Bプラン、Cプランなど具体的に障害に合わせホームページに紹介があるとよい。福祉に長く真摯に直接携わって働いてくれる人に感謝制度があるとよい。

・サービスの利用の仕方、請求方法がわかりやすくなると思います。重症心身障害児のご家族は家族内で抱えがちなので、入浴介助のヘルパー利用や介護タクシーなど気軽に利用できると負担軽減になると思います。

・「地域活動支援センター」に対する補助金制度が制定以来15年以上ずっと変わっていない。就労継続支援A型やB型などの事業所は加算が多くなりそれなりに行政も対応している中で、なぜ「地域活動支援センター」には対応しないのか。「地域活動支援センター」だけが取り残されている現実を是正する必要を強く感じている。しっかりと対応していきましょう!!!

・ほしいものを一緒に買い物へ行ってくれる人がほしい。

・サービス提供する事業所と行政との一体感がもう少しあると良いのかもしれないと思います。

・職員の人権擁護についての指針が欲しい。

障害者の支援をするスタッフの処遇改善。

・計画相談員です。地域で単身生活を行う場合、居宅系のサービス不足でサービスを選べる状況にない、ご本人の要望に応じることができず調整に苦慮しています。特に精神障害をお持ちの方の特性で、コミュニケーションの特性や人の相性など、さまざまに希望がありますが、調整したところ「〇〇しかありません、」と返答せざるを得ない状況です。

一方で、キャンセルが多いと収入になりませんが、毎週ご利用いただける方が、事業所にとってメリットがあります。など精神疾患の方の体調の波でキャンセルが多いケースなど、ヘルパー事業所のマンパワー不足や稼働率と障害特性の理解が繋がっていかず、事業所や支援者の熱意だけではどうにもならない状況です。長期入院者の地域移行やグループホーム、単身生活など地域の暮らしを支えることを推し進めるにあたって、生活に直接支援していただける大事なヘルパーの人材確保は、優先にして取り組むべきと考えています。

・障害をお持ちの方の余暇活動、移動が悩ましいです。駅から電車には何とか乗れても、駅までのバスに乗れません。ヘルパー付添いでも無理な方は多くいらっしゃいます。ご自宅から車を利用して外出したいのですが、車運転OKのヘルパーが少ないのが状況です。移動支援は公共交通機関を使うことになっているので、障害をお持ちの方の余暇活動の充実が図れません。

・国の障がい分野の対応の遅れを感じています。  
虐待対応について、行政のバックアップが充分得られない現状（措置入所先が無く、虐待通報を行っても迅速な対応がなされていないように感じます）。

障がいサービスについて、民間事業所の参入が多くみられ、事業所の量は増えてきていますが、サービスの質の面で課題が多く感じます。職員の不足で日雇い職員が対応をされている事業者もあり、サービスの提供される上での基準等の見直しが必要と思います。

・最重度や重度、行動障害が強い方を受け入れてくれる放課後等デイサービスを増やしてほしい。

・福祉業にもっとたくさんお金を下さい。高齢者も障害者もそれを支える支援員にも、もっとたくさんお金を下さい。下世話な話になりますが、お金をくれれば今の制度、サービスの質、人材不足、障害者・高齢者の住む場所すべてが解決されます。ただし、個人に支払うのではなく、施設や企業といったところにお金を出してほしいです。個人に出すとそれを負担する施設がつぶれます。施設がつぶれると住む場所、サービス、人材がなくなり結局福祉に関わる全ての人が困ります。

・障害者に必要なものと制度、福祉サービスの間にはズレがあるかもしれません。身体的、知的、精神という区分けはありますが、制度やサービスについては共通のものが多いように思います。それぞれにフィットした内容に変えるだけでも不自由さを解消することができるのではないのでしょうか。

・障がい当事者を支える福祉サービスに従事する職員、事業所が滞りなく質の高いサービスを当事者に提供できるよう、他産業に負けないぐらいの報酬水準を検討して欲しい。

また ぶつかこうとうとう しゃかいじょうせい おう りんきおうへん ほうしゅうたいけい くに とも じつげん いただ  
又、物価高騰等、社会情勢に応じた臨機応変な報酬体系を国と共に実現して頂きたい。

・障害者に対して国は、働くことを強く進めています、高齢化等を考えますとやはり  
安心して生活できるようにしていただきたい。

・一人ひとりに合った生活の選択肢がまだ少なすぎますが、事業展開するにも報酬額が少  
なく資源が増える要素が少なすぎます。

・障害福祉サービスが、全国的に展開される中で障害のある方は色々な市町村に転居して  
いる。例えば、グループホームがその例であるが、受給者証や保健関係が居住地特例によ  
り発行市町村の変更は住所地が変わってもその住所地に移ることはない。生活保護の支給に  
関してもしかり。そのことによって、同じところに住まいながらサービス支給時間の上限  
時間が市町村の決まりによって異なる。特に移動介護は、市町村単独のサービスであるため  
に受給者証発行の市町村に指定を受けていないと利用できない。そのため、他の市町村の  
グループホームやアパートに転居して生活している者は指定を受けている事業者がない(ま  
たは非常に少ない)ために、適当なヘルパーを確保することは難しいのが現状である。移動  
介護は、その方の生活の質を高めるため必要なサービスと考える。市町村の単独事業のま  
まではサービスを受けられないことが起こっているのが現状である。このサービスに関し  
ては、全国一律のサービスであって欲しい。相談支援専門員、サービス管理責任者が不足し  
ている。特に相談支援に関しては、福祉サービスのことに限らず、医療なども連携、年金  
や後見人の申請などの相談もあり生活場面すべてにおいて核をなす位置づけにされている。  
なんでも相談に業務が投げられる現状である。しかし、収入の面でいえば非常に少なく  
赤字であるのが現状。相談支援を丁寧にやればやるほど収入のない動きが発生しうるの  
が現状(例えばサービスにつながるまでの期間にいろいろ手を尽くしても収入はない。  
対象者の生活を整えるために年金相談、生活保護申請、医療機関とのやりとりや医療機関  
そのものを探す手伝いなどをしても収入にはつながらない。)の中で、相談の業務を継続  
し続けるのが各事業所非常に困難である。収入が低いので、給与も安い。障害者年金を  
もらい特例子会社などで就労している人の方がはるかに高収入である。個人的にはその  
現実を見ながら業務を継続することのむなしさもある。福祉サービスに従事する人が圧倒的  
に足りていないのは周知の事実であると思われる。

・意思決定支援や本人支援と言いながら、現実的には人材不足で対応できない現状もある。

どのようにすれば本人が思い描くような支援につながるのか?事業所だけでは難しいし、  
地域の人材や外国人採用など取り組んでいる所もあるが、全般的には厳しい現状である。  
何かしらの打開策を試行錯誤しているが今後の展望も不安である。

・市町村単位で任意の形で決めている地域生活支援事業の運営に差があるように感じており、特に日中一時支援事業所の設置に偏りがあり、成人の夕方の過ごす場所が不足している。また、不足しているサービスのほかに、知的重度、または重度障がい者が日中もしくは夜間に生活できる場所として、具体的に生活介護やグループホームなども不足しており、国としては設置運営を後押しする政策を期待。一方で、入所施設でないと生活が難しい障がい者が多くいる反面、いたずらに中身を考へない地域移行を謳ってくる風潮はどうにかしてほしいと思っており、現状の整理と把握、仮に本気で重度障がい者が地域で生活するならば実現できるプランを検討してもらいたい。

・障害を持つ児童でも一時的に預かってもらえるところ。お母さんが少しでもお子さんと離れて心身ともに休まるような施設があるといいのかもしれない。

・送迎などの問題があり人手不足等解消の手段があればよい。

・夜中に世話人がついていいるグループホームを増やしてほしい。

・重度障がい者への支援事業に対する問題があります。支援について、金銭的・人的な行政の協力が不足しているように感じます。医療的ケアが必要な方の受け入れる事業所がありません。社会福祉法人中心の施設拡大には限界がありますので、是非とも行政と事業所との積極的な連携を強化して従来の入所型施設から民間施設への以降を促進する政策を打ち出してください。

「やまゆり園」の事故は、強度行動障がい者への支援では必然的に発生したと思います。「やまゆり園」で支援に携わっていた職員は、本来は真面目で支援に熱心な方が多かったのではと推測します。非常に困難な支援であるのです。また親の立場も強くなっており重度障がい者の支援については、親からの訴えが増加する懸念があります。その環境で行政が一方的に保護者養護の立場で指導すると新たな事業所は増えないのではないのでしょうか？ 行政が上から物を言うだけの立場から、一緒になって問題解決するように考え方を一歩前進させることが本当のサービス向上につながると思います。

・自らサービスの利用や相談事業所探しをしないと情報が入りにくい。

・自宅近くにあるグループホームが増えるとそのままの環境で生きていけるのになかなか近くのグループホームで優先的に入れるなどの制度がない。

・障がい者向け賃貸住宅（訪問介護事業所併設が好ましい）。

・共有、連携、切れ目ない、包括的な、共生社会をつくっていくことは望ましいことだが、そのために制度や体制をつくっていくことで、逆行していくこと、要は制度をつくれればつくるほど、切れ目ができることがあたりまえと考へる必要あると思います。また実践を担

っている事業者の現場からもっと情報を集め、代表的団体や組織の声ではなく、末端の事象の声から、どのように制度解釈をすれば機能するか（制度遵守ばかりではなく応用や拡大解釈の必要性があるのか）を聴取分析する必要があると思います。

・重度の方（重心・行動障がい）が安心して暮らすことができるグループホームが増えていくことを切に願います。

・重症心身障害の利用できるグループホームなどの社会資源が少ない。

・障害者の短期入所の予約がなかなか取れないのと、グループホームなどの資源が少ないので、高齢者施設の一部（ショートステイや入居）を障害者も利用できるといいなと思います。

・生活介護で送迎、入浴サービスをしている所が少なく、利用者さん、ご家族が大変困っています。

・書類手続きを簡素化し、業務の軽減を図れる仕組みづくりを県で取り組んでほしいです。

例：体制届、指定更新などの各種届出や申請

・専門的な支援を行う場所を大事にして欲しい。（手取りの向上につなげて欲しいです）

ひょうか シート (こばしら 小柱ごと)

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 4	ちいきせいかつ ささ ふくし いりょうたいせい 地域生活を支える福祉・医療体制づくり
II	こばしら 小柱 (2)	ちいき しえんたいせい せいび 地域における支援体制の整備
	もくひょう 目標	ちいき かだい ちいき かいけつ たいせい せいび 地域の課題を地域で解決できる体制を整備します

＜当事者評価 (意見)＞

(当事者)

・「65歳の壁」・・・障害をお持ちの方が、65歳だから介護保険ねって、相談員からケアマネに変更。ケアマネさん達も特に精神疾患の患者さんには、戸惑いを感じているのかな？と感じることがあります。認知症に似ても非ですし・・・

(家族)

・ひとりっ子なので計画相談を頼っておきたいが、どこもいっぱい事業所が見つからない。(同級生は支援学校の時点で計画相談がついたので、最重度優先なのか?) 計画相談が必要になった時(親が子どもを見られなくなったとか)すぐ受けられるようにしてもらいたいです。市境に住んでいるので、居住地ではなく隣町の障害福祉サービスを利用したいのに、断られてしまった。市町村で分けないでもらえると助かります。

ずっと家で子ども(20歳以上)を見ている人がいます。日中一時や移動支援は、定期利用が通常かもしれませんが(定期じゃないと断られる)、臨時的に単発でも利用できるサービスが増えると、何かの時に助かると思います。「臨時」だけだと小さくて体力がない事業所は潰れてしまうので「臨時対応加算」みたいに付けてあげて欲しいです。そしてそういう事業所が地区内に1ヶ所でもあると有難いです。地区内の生活介護事業所など専門知識がある施設で、ショートステイの昼間版みたいな? 日中一時支援が併設された施設があったらなというイメージです。

大人になってからの方が選択肢が少なくなった気がします。高齢になったら今より介護保険サービスが利用できるようになる分、選択肢は増えるのでしょうか、でも知的障害や自閉症があると断られたりするのでしょうか。専門知識がある人に見てもらいたいけど、その代わりお願い出来る場所が限定されてしまうのも困るし、今は親があれこれ考えて動けますが、今後は心配になりながら日々過ごしています。

- ・集中的支援が必要になってしまった方の行き場がない。緊急時の受け入れ先がない。
- ・「申請」が前提となっている制度や支援なので、仕組みがあっても支援が受けられずに苦

しんでいる方々も少なくないと思います。民生委員制度も形骸化していると思います。障  
がいのある方たちが受けられる支援を受けることができる社会の在り方を望みます。

・本人には2～3の質問とも抽象的でうまく聞けませんでした。自閉的で、中度の知的  
障害がある本人は今の困難とこれまでの困難（トラウマ）や見聞きする他人の困難も気に  
していています。

#### （支援者）

・地域の中で生活するためにはグループホームは必要ですが、グループホームに入所でき  
ない方のためにも入所施設は必要だと思います。

・障がいがある方でも自由に自身の生活に必要なことを選択ができるように幅を広げて欲  
しい。そのためには教育機関や福祉現場、就労先の共有がとても重要だと思うので集ま  
れるような機会を設けていただきたい。

ひょうか  
評価シート (小柱ごと)

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 4	ちいきせいかつ ささ ふくし いりようたいせい 地域生活を支える福祉・医療体制づくり
II	こばしら 小柱 (3)	ほけん いりようしさく すいしん 保健・医療施策の推進
II	もくひょう 目標	しょうがいとうじしゃ みちか ちいき できせつ ほけん いりよう う 障害当事者が身近な地域で適切に保健・医療を受けることができる しゃかい めざ 社会を目指します

とうじしゃひょうか いけん  
<当事者評価 (意見) >

しえんしゃ  
(支援者)

・高次脳機能障害のことがわからない場合は、誰に相談すればいいのかという情報提供  
や確認を行い、せつかく相談に来た当事者やご家族の思いを大切にしてほしい。高次脳機能  
障害がある方が利用できる社会資源が増えていくといいと思う。

ひょうか 評価シート (こばしら 小柱ごと)

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 4	ちいきせいかつ ささ ふくし いりようたいせい 地域生活を支える福祉・医療体制づくり
II	こばしら 小柱 (4)	しょうがい こ しえん じゅうじつ 障害のある子どもへの支援の充実
	もくひょう 目標	しょうがい こ かぞく いっしょ す な かんきょう あんぜん く 障害のある子どもが、家族と一緒に、住み慣れた環境で安全に暮 らせるよう支援体制を整備します

とうじしゃひょうか いけん <当事者評価 (意見)>

かぞく (家族)

・サービスも必要だと思うが、地域や学校から別枠扱いが本人の道のりを左右していると  
かん 感じている。

しえんしや (支援者)

・当事者目線と謳っているが世の中そんなに甘くないと思っています。本当に当事者目線の  
しさく すず いっぼんでき う い よ ほんとう とうじしゃめせん  
施策を進めるなら一般的に受け入れられるにはどうしたら良いかも検討して欲しいで  
す。津久井やまゆりの事件をいつまでも引きずっていたのでは何も進まない。前を向いて行  
つくい じけん ひ なに すず まえ む い  
かなくてはいけない。津久井やまゆりの慰霊に予算をつけるならもっと救わなくてはいけな  
い人が沢山いると思う。慰霊は大切だが元県立施設の法人にお金を落とすすぎです。もっと  
ちいき がんば ひとたち め む ちいき く とうじしゃ だんたい しえん  
地域で頑張っている人達に目を向けるべきです。地域で暮らす当事者や団体への支援の  
じゅうじつ ねが  
充実をお願いします。

・市の療育センターが、就学前の幼児を対象にしており、小学校の生活での躓き、困  
し りょういく しょうがくまえ ようじ たいしょう しょうがっこう せいかつ つまづ こま  
り感が表出した児童に対しての同様のサービスを受けられる場所がない。また、その影響  
かん ひょうしゅつ じどう たい どうよう う ぼしよ えいきょう  
かはわからないが、ご本人の、と言うより、保護者のニーズに合わせたサービスを求められ  
ほんにん い ほごしゃ あ  
ている印象あり、放課後等デイサービスの療育の専門性や質の向上に対して、行政の取  
いんしょう ほうかごとう りょういく せんもんせい しつ こうじょう たい ぎょうせい と  
り組みで出来ることがないか検討して頂きたい。

ひょうかシート (こばしら 小柱ごと)

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 4	ちいきせいかつ ささ ふくし いりょうたいせい 地域生活を支える福祉・医療体制づくり
II	こばしら 小柱 (5)	しょうがいとうじしゃ かぞくとう しえん じゅうじつ 障害当事者やその家族等への支援の充実
もくひょう 目標		しょうがいとうじしゃ ささ かぞく ふたん へ かぞく あんしん く 障害当事者を支える家族の負担を減らし、家族がともに安心して暮 らせるための支援を充実させます

< とうじしゃひょうか いけん 当事者評価 (意見) >

(当事者)

・大人の ADHD の自助グループや当事者の交流会を定期的に主催・開催してほしいです。就労移行支援に通っていた時、同じ ADHD の当事者の方々とお話する機会に恵まれ、社会での立ち位置、生きづらさ、もどかしさとともに、自己流の対策方法を共有したり、困った出来事をシェアするだけでいままで感じたことのない開放感と、初めて「伝えるにくいもどかしさ」が伝わった！と感じる経験ができました。発達障害は目に見えにくいので、共感・実感はされにくいのです。日本社会のように、規律を守る習慣が定着していて、無言のルールで「言わなくてもわかるよね？」流の社会において、空気を感じたり・行間を読んだり・察するが苦手な ADHD の人が「普通の人」の振りをして生き抜いていくのはかなりのつらさ・しんどさがあります。障害そのものを取り除くことは難しくても、ADHD 当事者同士の交流の場が定期的にあると孤立感を感じる事が減ります。ASD 等ほかの発達障害の方も同じような気持ちを持っていると思いますが、症状が近い人同士の交流がより親密性が高まるというか、馴染みやすく交流が持ちやすいと考えています。当事者の会を開く際には、ぜひ少人数で、まとめ役に発達障害の知識のある健常者の方がいると尚いいと思います。理由は、初対面が苦手なのと、逆に話し始めると止まらない特性を持つ方が多いからです。当事者の会、ぜひぜひお願いしたいです。私自身も含め、発達障害の方々は苦手な分野以外では健常者と負けず劣らずの能力を発揮できる人が多いです。そこを眠らせて放置するのはもったいない、と就労移行支援の利用者の方々と触れ合っていく中でも実感できました。発達障害を持っている人は、目に見えない困難と闘ってきている人たちです。粘り強さと人に対する優しさがあります。必ずこれからの社会に役立っていく人たちです。「支援された人は支援する人になる」という CM じゃないですが、私自身いま地域のボランティアにも参加しています。支援してもらった恩は必ず心に残っていて、いつか花開きます。さらに言えば、支援されながらも誰かを支援することもできます。今困っている人が、

その人のできることを探すために、必要な支援をしてもらいたいと思います。

・全国的に障害のある2級以上の人は、その他の医療費を無料にして頂くと、大変助かります。予算の配分の中で再配分を行うことで、賄えると思います。

### (家族)

・以前神奈川県では療育手帳で福祉手当が貰えたがまた復活して欲しい。

・生活保護を受けながら、多少家賃の高いグループホームでも余裕を持って自活出来るようにしていただけるような制度があれば良いと思います。

・我が家は3人家族で、特別障害者が2人います。障害のない1名が、特別障害者2人のサポートをしているため、働きに出られません。特別障害者が2名以上いる家庭には、加算手当を付けてもらいたいです。障害のない1名も、働きに出られないため、将来年金がほとんど受給できません。

特別障害者手当の基準が厳しすぎて、受給できません。心臓1級、知的A1(判定はA2)、肢体不自由3級でも受給できません。主治医も、「判定が厳しくなり、ほとんど受給できない」と仰っていました。自立できず、体力がなく預けることもできず、困っています。

・重い心臓疾患があり、暑さ寒さに脆弱です。地震などで停電した場合、エアコンが使えず、生命に関わってしまいます。→マンションに住んでいて、屋上は広く空いており、日当たり抜群です。マンションの屋上に、太陽光発電を乗せる政策を実施してもらいたいです。

(かかる費用は、売電でまかなうなど、マンションが負担せずに済む方法が良いです。)よろしくお願いたします。

### (支援者)

・当事者の生活しづらさだけでなく、その家族も現在、未来に不安を感じていると思う。

・障害のある方も社会生活を営める基準で社会で共存をすることは当たり前のことです。が、動物を何度も繰り返し虐待をしたり、社会のルール(ゴミを他人の敷地内にばらまく)、

(意味不明な事を書いた紙を他人の扉に貼る)を守れない、小さな子供や女性をターゲットにするような対象者は普通に恐怖を感じます。また、血だらけになっても壁に頭を打ち付ける、

家族がそばで見られていられなくなるほど暴れて手が付けられないような障害を持った方もいます。家族のみが世話をし続けなければならないような世帯は多いと思います。周囲

が我慢しながら生活することが障害者の地域定着ではないと思います。社会では生活が送れない人がいる事も認めた障害者支援法であってほしいと思います。措置に代わる支援が

ありますか。措置に代わる支援が必要だと思えます。年齢で区切らずに、障害支援をしてほしい。重度障害医療費助成。

ひょうか  
評価シート (小柱ごと)

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 4	ちいきせいかつ ささ ふくし いりようたいせい 地域生活を支える福祉・医療体制づくり
II	こばしら 小柱 (6)	しえんしゃ む とりく すいしん 支援者に向けた取組みの推進
	もくひょう 目標	しょうがいとうじしゃ ささ しえんしゃ ふたん へ しえん しつ こうじょう 障害当事者を支える支援者の負担を減らし、支援の質の向上につ なげるための支援を充実させます

とうじしゃひょうか いけん  
<当事者評価 (意見) >

なし

ひょうか 評価シート (小柱ごと) こばしら

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 5	しゃかいさんか <small>そくしん</small> <small>かんきょう</small> 社会参加を促進するための環境づくり
III	こばしら 小柱 (1)	だれ <small>す</small> <small>すいしん</small> 誰もが住みやすいまちづくりの推進
目標	もくひょう 目標	しょうがいとうじしゃ <small>こえ</small> <small>はんえい</small> <small>だれ</small> <small>あんぜん</small> <small>あんしん</small> <small>す</small> 障害当事者の声が反映された、誰もが安全に、安心して住めるまち づくりを推進します

とうじしゃひょうか いけん <当事者評価 (意見) >

とうじしゃ (当事者)

・ノンストップバスの台数を増やして欲しい。駅のホームドアを増やして欲しい。地元駅を快速特急の停車駅にして欲しい。

・建物や交通機関のアクセシビリティが悪いので改善して欲しいです。例えば、重度障害者が便座に移乗できるようにトイレに介護用リフトを設置する。重度障害者の大型電動車椅子も利用できるように、エレベーターを大きくするようにルールを定める。全てのプールに車椅子ユーザーのためのリフトを設置する。大型電動車椅子でも利用できるように電動で昇降可能なユニバーサルシートをトイレに設置する。店内に段差のある店にはスロープなど段差解消の手立てをとるよう義務付ける。大型電動車椅子ユーザーも使えるように福祉車両の耐荷重を300kg以上に規制する。介助者が2人必要な重度障害者の場合には、交通費の割引対象の介助者人数を2名認めるようにして欲しい。呼吸器ユーザーや重度障害者の場合、災害時は遠くの病院に広域避難できるように協定を結ぶなどして準備して欲しい。呼吸器ユーザーには災害時用に非常時電源装置をレンタルする制度を構築して欲しい。呼吸器ユーザーには吸引力の強い吸引器をレンタルする制度を作って欲しい。支給してくれるオムツは個人個人のニーズに合ったものを選択できるように柔軟な対応をして欲しい。外出用と在宅用に2つの人工呼吸器を借りられるようにして欲しい (災害時の予備バッテリーにもなる)。医療的ケアが必要な重度障害者が住めるようなバリアフリーの公営住宅を増やし、優先的に入居できる仕組みを作って欲しい。

・病院バスは利用しやすいのでそのまま続けてほしいです。  
・役所の対応に疑問を感じます。障害者駐車場に市出入業者が駐車、しつこく申し入れ、駐車場を増やし業者用駐車場が改善された！！

ひょうか 評価シート (こばしら 小柱ごと)

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 5	しゃかいさんか 社会参加を促進するための環境づくり
Ⅲ	こばしら 小柱 (2)	いしそつうしえん 意思疎通支援の充実
	もくひょう 目標	すべての人が不自由なく意思疎通できるよう、社会参加を妨げる障壁を除去する取組みを推進します

とうじしゃひょうか 当事者評価 (いけん 意見) >

なし

ひょうか 評価シート (こばしら 小柱ごと)

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 5	しゃかいさんか 社会参加を促進するための環境づくり
Ⅲ	こばしら 小柱 (3)	じょうほう 情報のアクセシビリティ (りべんせい 利便性) の向上
	もくひょう 目標	すべての人の情報保障を図り、社会参加を妨げる障壁を除去する取組みを推進します

とうじしゃひょうか 当事者評価 (いけん 意見) >

(とうじしゃ 当事者)

- ・書類の書き方をわかりやすくしてほしいです。漢字はふりがなをつけて欲しいです。
- ・難病の方々が就職活動する際に情報セキュリティ問題やコミュニケーション問題が緩和されるとよい。
- ・もっとわかりやすく知りたい。広報の方法を。一部の人しか知らないなど。

(しえんしゃ 支援者)

- ・障害者手帳や受給者証発行をする際には、役所での手続きや病院の診断書などが必要だが引きこもりにより家から出られない方がいます。在宅でも手続きができるようなシステムをつくるべき。

ひょうか 評価シート (こばしら 小柱ごと)

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 5	しゃかいさんか 社会参加を促進するための環境づくり
Ⅲ	こばしら 小柱 (4)	デジタル等先端技術を活用した支援の充実
	もくひょう 目標	誰もがデジタル等の先端技術を活用し、社会参加しやすい社会を目指します

とうじしゃひょうか 当事者評価 (いけん 意見) >

なし

ひょうか 評価シート (こばしら 小柱ごと)

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 5	しゃかいさんか 社会参加を促進するための環境づくり
Ⅲ	こばしら 小柱 (5)	防災及び災害発生時の体制整備
	もくひょう 目標	災害に強く、福祉の観点からも、障害当事者を含むすべての人を守れる体制づくりを推進します

とうじしゃひょうか 当事者評価 (いけん 意見) >

(とうじしゃ 当事者)

・避難場所等では、障害がゆえの特段の配慮が欲しい。

(しえんしゃ 支援者)

・福祉施策以外の一般の施策等において、一定数障がいを持っている人がいることを前提とした検討がされていると良い。例えば、障がいを持った人の就労については雇用施策、災害においては災害施策等。

・障害者手帳をお持ちの方が分かりにくいので出来るだけ地域の社協等に教えて欲しいと思います。

ひょうか  
評価シート (小柱ごと)

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 5	しゃかいさんか そくしん かんきょう 社会参加を促進するための環境づくり
Ⅲ	こばしら 小柱 (6)	はんざいひがい しょうひしゃ ぼうし ひがいしゃしえん じゅうじつ 犯罪被害や消費者トラブルの防止と被害者支援の充実
	もくひょう 目標	はんざい しょうひしゃ しょうがいしゃ ふく ひと まも たいせい 犯罪や消費者トラブルから障害者を含むすべての人を守る体制 づくりを進めます

とうじしゃひょうか いけん  
<当事者評価 (意見) >

なし

評価シート（小柱ごと）

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 6	こよう しゅうぎょう けいざいてきじりつ しえん かん 雇用・就業、経済的自立の支援に関するしくみづくり
Ⅲ	こばしら 小柱（1）	しゅうろうしえん じゅうじつ 就労支援の充実
	もくひょう 目標	しょうがい ていど じょうたい とくせい おう あんしん はたら 障害の程度や状態、特性に応じて、安心して働くことができる しゃかい めざ 社会を目指します

<当事者評価（意見）>

（当事者）

・一般就労を目指しているけど、なかなか、日々の調子が変わるので思ったように動けない。そんなとき、就労支援があつて助かっています。

・気軽に相談できる窓口がもっとあったらいいと思う。就職を目指しているがハードルが高く、なかなかチャレンジが出来ないから体験などできたらいいと思う。

・障害者が働くために相談する窓口を増やしてほしい。行政の福祉窓口にピア的立場の人がいると助かる人がいるのではと思う。

・一人暮らしの補助がほしい。会社をケガ（入院）で休んだ時の補助がほしい。知的のりハビリをする所をふやしてほしい。病院の補助金がほしい。年をとると増える。親がいなくなったりした時（亡くなったり、入院）の補助金がほしい。

・アパート、マンション、グループホームの障害者を入居の情報がほしい。ヘルパーの時間がたりない。夜（体調が悪い時）きてくれるヘルパーがほしい。会社では障害者は社員とパート仕事に見合った給料と役職と社員として働ける所を増やしてほしい。

（家族）

・障害と言っても様々な障害があります。見た目で見える方や全く分からない方もいます。国は働ける人は一般就労へと言う流れになっていますが、正直理解のない一般就労先に行っても、それが原因で二次障害（鬱や統合失調症等の精神疾患）に繋がります。最近では株式会社就労継続支援B型を運営していますが、障害の理解がある福祉サービスのはずがただ働いているだけで支援？をしているのか疑問に感じます。また施設によっては人手不足のため受入れが出来ないといったところもあります。こういったサービスがあるか等はネットで調べればいくらでもわかります。世の中の人に障害の少女の理解とうまく共存が出来るように、そして福祉職員のいい人材確保のために賃金の向上を是非お願いします。慈善事業では人は働きません。

ひょうか 評価シート (こばしら 小柱ごと)

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 6	こよう しゅうぎょう けいざいてきじりつ しえん かん 雇用・就業、経済的自立の支援に関するしくみづくり
Ⅲ	こばしら 小柱 (2)	しょうがいしゃこよう そくしん 障害者雇用の促進
	もくひょう 目標	しょうがい りかい すず しょうがいたうじしゃ だれ かつやく しょうば ふう 障害の理解が進み、障害当事者が誰でも活躍できる職場を増やします

とうじしゃひょうか いけん <当事者評価 (意見)>

とうじしゃ (当事者)

- ・もっと しょうがいしゃこよう が可能な企業等が増えてほしい。
- ・IT化が進む中では しょうがいしゃ でも働く場は多数あると思います。しょうがいしゃ でも働ける仕事を増やしてほしい。

かぞく (家族)

- ・夜に働く場所、短時間労働、在宅就労、理解ある職場など。ありのままで働くことができる場所が当たり前のようにあつたら、経済的な自立が可能になる。
- 一人暮らしのサポートをより充実してもらいたい。どんな人でも一人暮らしができる世の中になって欲しい。そのためには、非常時のサポートの充実などが必要。

ひょうか 評価シート (こばしら 小柱ごと)

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 7	ともに生きるための意識づくり
IV	こばしら 小柱 (1)	当事者目線の障害福祉の理念の普及啓発
もくひょう 目標		県民の誰もがお互いの目線に立ちながら障害福祉を考える社会を目指します

＜当事者評価 (意見)＞

(家族)

・サービスを使いたいが、空き状況などで本当に一人になってしまう時などに使えないことも多い。

・親がいなくなっても衣食住は大丈夫なように。餓死とかしないか心配です。長生きしなくても良いので、苦しくなければ、と思います。

(支援者)

・これからも分け隔てなく暮らしていけるインクルーシブな環境が増えていきますように。

・共に生きるの精神が社会にさらに根付くよう、協力していきたいと考えます。

ひょうか シート (こばしら 小柱ごと)

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 7	い いしき ともに生きるための意識づくり
IV	こばしら 小柱 (2)	しょうがい りかい さべつかいしょう そくしん 障害の理解と差別解消の促進
もくひょう 目標		しょうがい りかい すず だれ さべつ く しゃかい けんみんぜんたい 障害への理解が進み、誰もが差別なく暮らせる社会を県民全体で めざ 目指します

とうじしゃひょうか いけん  
<当事者評価 (意見)>

とうじしゃ  
(当事者)

・まず行政の方から、障害は社会が作り出していることをしっかり勉強して、啓発活動は個人モデルの立場では行わないこと。

・年金事務所や市役所において、高圧的な態度で接してくるのはやめて頂きたいです。

資産が1億円以上ある人でも条件を満たせば障害年金をもらえるというのは違和感を覚ええます。

・神奈川県かながわけんの障害表記しょうがいひょうきは今後漢字こんごかんじになっていくと認識にんしきしていたのですがいきなりひらがなが出てきてげんりしました。この評価問題は障害者の困りごとや支援との大きな乖離かいりをあらわ表あらわしていると思います。

・期待はしていませんが、まずは行政ぎょうせいに関係するところから、ちゃんとして頂いた方がいただ良いかと思おもいます。例えば、駐車場ちゅうしゃじょうで、障害者しょうがいしゃスペースがありますが、平気へいきで、健常者けんじょうしゃが駐車ちゅうしゃしている時ときがあります。何ら罰則なん ばつそくもなく、ルールを破やぶった方が賢かいと思おもわれている方もほういます。

同じようなことおなで言えば、駅えきのホームのエレベーターも、健常者けんじょうしゃが殺到さつとうして、私わたしは譲ゆずらなのいと乗のれなかつたりします。

電車でんしゃのシルバーシートも、健常者けんじょうしゃが平気へいきで寝たふりして座すわっています。

小学校しょうがっこうや中学校ちゅうがっこうの参観さんかんでは、障害者しょうがいしゃが行いったら迷惑めいわくな顔かおをされます。教室きょうしつの中なかに入るはいのは一苦労ひとくろうですし、席せきと席せきの間あいだなど、通とおれるはずもなく、そもそも車くるまいすの障害児しょうがいじが通かよえなかんきょうい環境かんきょうです。

そもそも学校がっこうの先生せんせいの中に、障害者しょうがいしゃがいるのでしょうか？ 行政ぎょうせいは40人にんに1人ひとりは、障害者しょうがいしゃ雇用こようしなければいけなかつたかと思おもいますが、見当みあたりません。

息子むすこは発達障害はつたつしょうがいですが、先生せんせいに知識ちしきがなく、対たい応おうがわからぬのに、偉えらそうに語かたられ方もかた

います。障害特性が理解できず、息子が悪いことをしたと、何度も電話を頂き、口論になることもあります。未来の子どもたちの教育を担う先生には、教育が必要だと思ひますが、おそらくムダかと思ひます。専門が異なるので、各クラスに1人、養護教員を配置してほしい。発達障害、引きこもりなど、今は、そういう時代だと思ひます。もう少し教育にお金を使つてほしい。

スクールカウンセラーに何度か息子のことなどで面談することがありましたが、経験不足というか、何もできない人たちですよね。話を聞くだけで、障害者を救つてあげた気になっているのかと思ひます。内心「使えないな」と思ひながらも「ありがとうございます。」というニコニコ見送られます。時間がムダなので、順調ですなど言ひながら、カウンセラーさんに関わらないようにしています。

「共に生きる」と当たり前のことを憲章でかかげていますが、この言葉自体を差別に感じます。共に生きてあげようという上から目線の健常者の考えなのかと思ひます。言われなければ、私たち当事者は、普通に社会で生きているつもりだったのですが、このように憲章で掲げられると、今は違つたと否定されている気がします。

愚痴が多くなつてしまひましたが、必要なのは伴走者かと思ひます。健常者よりも、当事者同士の方が、気持ちが通つたやり取りができます。支援者よりも、AIの方が役に立ちます。健常者に障害を理解させるよりも、AIで、共生社会にしていく方が近道ではと思ひています。

・このような当事者の声を聞こうという取組は素晴らしいです。是非、様々な当事者の声を聞いて政策に活かして頂ければと思ひます。

・小学校・中学校・高校など学校で精神障害や発達障害について教えてくれたらいいなと思ひます。私は中3の時に精神障害を発症し、また、小学校高学年の時に家族が精神疾患を発症しました。精神疾患はとても身近な病気だし、誰にでも起こりうるので精神疾患(障害)や発達障害についても学校で教えてくれたら偏見や差別も少なくなると思ひます。  
(家族)

・障害がある人が身近で生活することが当たり前になるためには、実際に生活している環境では経験が少なかったり、解らなかつたりして過ごしているとおもう。わからないが故にネガティブな印象を持ってしまつていると思うので、子供の頃から、同世代の障害がある人だけでなく、いろんな世代や障害の種類等あると事を知つてもらえると理解が深まるのではないかと思ひている。障害の種類などもあると思うが、福祉の力も借りながら当たり前で生活できる方向に進むことを願つている。

・法を決める人たちには、現場をよく見てほしい。障害児者やその家族や支援者の実情をちゃんと理解した上で、どこにどんな支援が必要かをわかってほしい。

・短期入所の申し込みが難しい。銀行等での手続きで必ず本人を連れてきてくださいと言われる。しゃべれないのに、本人が電話に出ないとだめだと言われるなどあります。

(支援者)

・もっと広く、障害というものを知ってほしいと思います。知ってもらって理解を深めてほしいと思います。ご本人たちはサービスの種類、利用方法など役所に行かないとわからないではなく、もっと身近に知る方法が欲しいと思われています。

ひょうか 評価シート (こばしら 小柱ごと)

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 7	い いしき ともに生きるための意識づくり
IV	こばしら 小柱 (3)	しょうがいしゃしゅたい かつどうとう そくしん 障害者主体の活動等の促進
	もくひょう 目標	しょうがいとうじしゃ だれ しゅたいてき かつどう しゃかい けんみんぜんたい めざ 障害当事者の誰もが主体的に活動できる社会を県民全体で目指 します

とうじしゃひょうか いけん  
<当事者評価 (意見)>

なし

ひょうか 評価シート (こばしら 小柱ごと)

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 8	そだ きょういく しんこう ともに育つための教育の振興
IV	こばしら 小柱 (1)	きょういくかんきょう せいび 教育環境の整備
	もくひょう 目標	こ のうりょく かのうせい さいだいげんの しつ たか すべての子どもの能力や可能性を最大限伸ばせるよう、質の高い きょういくかんきょう めざ 教育環境づくりを目指します

とうじしゃひょうか いけん  
<当事者評価 (意見)>

しえんしゃ  
(支援者)

こ 子どもたちがようしょうきからしょう 障がいのある人たちとせつ 接する機会が増えるとおとな 大人になったときに「かわった人」「変な人」とみなくなるのではないか。

ひょうか  
評価シート (小柱ごと)

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 8	ともに育つための教育の振興
IV	こばしら 小柱 (2)	インクルーシブ教育の推進
もくひょう 目標		すべての子どもが平等な環境の下、ともに考え、学び、育み合える学習環境の整備を目指します

とうじしゃひょうか いけん  
<当事者評価 (意見)>

かぞく  
(家族)

- ・支援する先生や介助員が足りない。
- ・義務教育のうちから、障害者の様々な特性について学ぶ機会を増やして欲しい。人と少し違う様子を見て、子供より大人が危機感をあらわにしているところが多々見られて生きづら。危険な行為には危機感を持つのは人それぞれ生きるために必要な事だが、見ちゃだめ、や、小さな子どもを抱えて逃げるなどの行為は傷つきます。障害者の大半はとても心が清らかだと言う事も、子どもの頃からしっかりと学ぶべきだと思います。
- ・成人の価値観を変えることは難しいため、次の世代の子どもたちには幼少期から住んでいる地域で様々な障害者や、取り巻く健常者、支援者と触れ合い、自ら考える力を身につけてほしいです。なので今後、山奥に障害者の施設をつくるのはやめましょう。「ともに生きる」が本気ならばですが・・・

ひょうか 評価シート (こばしら 小柱ごと)

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 9	たの ぶん かげいじゅつおよ かつどうとう しんこう ともに楽しむための文化芸術及びスポーツ活動等の振興
IV	こばしら 小柱 (1)	ぶん かげいじゅつおよ よ か かつどうとう とりく すいしん 文化芸術及び余暇活動等の取組みの推進
	もくひょう 目標	しょうがいとうじしゃ みちか ちいき ぶん かげいじゅつ ふ みずか せつきよくてき 障害当事者が身近な地域で文化芸術に触れ、自らも積極的に ぶん かげいじゅつかつどう さんか しゃかい め ざ 文化芸術活動に参加できる社会を目指します

とうじしゃひょうか いけん <当事者評価 (意見)>

かぞく (家族)

よ か たの かくじゅう こんご けんとうないよう  
・余暇を楽しむためのサービスの拡充ができるのであればぜひ今後のご検討内容にしてい  
ただきたいとおも

せいじん よ かりようで き ぼしよ きかい ほ せいじん とたん りようで き  
・成人しても余暇利用出来る場所や機会が欲しい。成人すると、途端に利用出来るサービス  
ないよう かぎ  
の内容が限られてくる。

ひょうか 評価シート (こばしら 小柱ごと)

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 9	たの ぶん かげいじゅつおよ かつどうとう しんこう ともに楽しむための文化芸術及びスポーツ活動等の振興
IV	こばしら 小柱 (2)	かつどうとう とりく すいしん スポーツ活動等の取組みの推進
	もくひょう 目標	しょうがい ていど じょうたい かか だれ かつどう たの した 障害の程度や状態に関わらず、誰もがスポーツ活動を楽しみ、親 しゃかい め ざ しめる社会を目指します

とうじしゃひょうか いけん <当事者評価 (意見)>

なし

## その他の意見 (当事者)

・このアンケートが何を求めているのかさっぱりわからない。本当に当事者の意見を求めるなら、もっと答えやすい質問や具体的な質問が必要なのではないのでしょうか。これっぽっちの事を質問してくる意味がわからない。

・生活保護を受給しているが、働いても稼いだ分だけ保護費が引かれるため就労のモチベーションが上がらない。働いたほうが損をすると感じる。例えば、稼いだ分の何割か手元に残るといった仕組みにした方がよいと思います。

・若い人が、情報環境を自由にカスタマイズできてしまう中で、市や区の広報誌や、回覧を重要視しない若者が、本当に多い。住民税まで他の自治体に払っている(ふるさと納税)。

若い人の公共意識の変化を、よくとらえないと、情報提供の的確な改善は難しいと思います。

・旦那と二人暮らしなので就労継続支援A型事業所を利用するとき旦那の収入を見て利用料がかかります。できれば本人収入で見てほしいです。孤独で詐欺の人とも会話して

しまうので孤独対策が欲しいです。その為には、偏見から対応していく必要があるのかなと思います。偏見があって私に嫌悪感があるのに無理して交流されても悲しいものです。どうにかして偏見を除きたいのですが……

## (家族)

・高齢化が進む中で、高齢者の人工関節の人も増えていると思います。ですが、この方も障害者手帳受給できるため、福祉サービスを利用できるようになっています。膝に人工

関節が入って、かえって活発になった高齢者の方々が福祉施設を利用するため、肝心な障害者が使えないと言う理不尽なことが起こったりしています。また福祉サービスの費用

の圧迫にもつながっています。高齢化によって起こる膝関節などによる障害者手帳の受給など見直していただきたいと思います。

・精神病院の精神科特例を廃止してほしい。治療にオープンダイアログを取り入れてほしい。資本主義から脱成長コミュニティに進まないで精神疾患は減らない。利潤のために

すべてを市場と商品化に巻き込み、自然の略奪、人間の搾取、巨大な不平等と欠乏を生み出すものからエネルギーや生活に不可欠な<コモン>を自分達で共同管理する価値観の

転換が必要。(斎藤幸平「人新世の『資本論』より)

## (支援者)

・このようなわかりやすい質問がよい。お役所の文書は難解。福祉で働く意欲がそがれる。